愛媛大学埋蔵文化財調査報告　ＸＶ

愛媛大学埋蔵文化財調査室年報

－2004年度－

愛媛大学埋蔵文化財調査室

２００６

愛媛大学埋蔵文化財調査室年報

－2004年度－

愛媛大学埋蔵文化財調査室

２００６

序　文

2004年度から、愛媛大学は、国立大学法人愛媛大学として、独立法人化した。これに伴い、構内遺跡の所在する各団地敷地を国立大学法人愛媛大学が引き継ぎ、むしろ構内遺跡に対する愛媛大学の責務は、いよいよ大きなものとなったことを自覚していかなければなるまい。

国立大学法人愛媛大学が引き継いだ敷地は、松山市内および愛媛県内各所の、敷地総面積は464ヘクタールに及ぶ。そのうち、本部と４つの学部が所在する城北団地には文京遺跡、農学部と附属高等学校がある樽味団地には樽味遺跡、国際交流会館がある鷹子団地では鷹子遺跡、職員宿舎のある北吉井団地では桑原西稲葉遺跡、その他北条団地など、数多くの遺跡が存在する。これまで、愛媛大学では、埋蔵文化財調査室を設置し、こうした埋蔵文化財が諸工事で影響を受ける場合、影響度に応じて、全面調査、立会調査の発掘調査、あるいはその影響度をはかるための試掘調査、大学構内における遺跡の有無や精度の高い分布状況を把握する確認調査を実施し、埋蔵文化財の保護に努めてきた。独立法人化後もこの姿勢に変わりはない。

その責務の一端に応えるべく、埋蔵文化財調査室では調査成果の公開を、発掘調査報告書の刊行によって果たしてきた。2000年に再整備した体制により、正式報告書も順次刊行しているが、なお時間を要する。一方で、小規模調査である試掘・立会・確認調査についての報告と、本格調査の概要報告を併せた『埋蔵文化財調査室年報』は、2004年度に2003年度分が刊行され、ようやく本来の刊行年次に追いついた。今後、前年度調査分の刊行がなされていく予定であり、本書は、その2004年度分である。

なお本書では、2003年度末に埋蔵文化財調査室に移管した、旧愛媛大学歴史学研究会保管資料について、その一覧表と一部資料の報告を掲載し、城北団地文京遺跡との関連も推察された。残る資料の詳細も、今後順次『年報』において報告予定である。

本書をまとめるにあたり、多くの機関・部局・個人の方々に協力を得ました。篤く御礼申し上げますとともに、本書が広く利用・活用されることを祈念します。

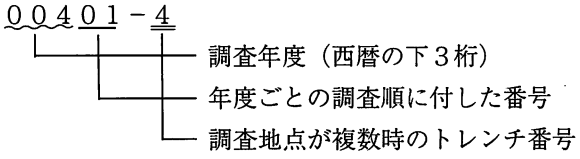
平成１８年１月２０日

愛媛大学埋蔵文化財調査
室長　下　條　信　行

例　言

1．本書は、愛媛大学埋蔵文化財調査室が2004年度に実施した事業、特に大学構内で実施した試掘・立会・確認形式で行った小規模調査の成果等を報告する愛媛大学埋蔵文化財調査室年報であり、愛媛大学埋蔵文化財調査報告ＸＶにあたる。

2．埋蔵文化財調査室では、本格全面調査･構内遺跡確認調査については、遺跡ごとに調査次数を付しているが、同時に、1975年から始まった大学構内の発掘調査まで遡って、立会・試掘形式の小規模調査も含めて、すべての調査に調査番号を与えている。調査番号は、西暦の下３桁の後に各年度ごとの調査順に01からの２桁の通し番号を加えた５桁の番号で表示している。調査番号に加えて、複数の地点(トレンチ)を調査した場合、－の後に地点番号を付して表示している。



3．本書では、遺構番号に冠して、掘立柱建物：SB、竪穴式住居：SC、溝：SD、炉跡・竈：SF、柵列：SA、水田：SS、土壙：SK、柱穴・小穴：SP、自然流路：SR、その他の遺構：SXの記号で遺構の種別を表している。

4．本書で表示した方位・標高数値は、本格調査においては、日本測地系（Tokyo Datum）平面直角座標系第Ⅳ系にしたがっている。ただし、試掘・立会調査・確認調査で座標系が利用できなかった場合は、調査地点周囲の平板測量成果を掲載し、磁北を表示している。

5．土色･遺物の色調は、1991年以降、小山正忠･竹原秀雄編著（農林水産省農林水産技術会議事務局監修）『新版標準土色帖』に準拠しているが、本文中ではマンセル記号は省略した。

6．本書に使用した遺構図は、田崎博之・吉田広・三吉秀充・宮崎直栄が作成し浄写を行った。

7．本書に使用した遺物図は、吉田・宮崎・濱田美加が作成し、浄写を行った。

8．本書で使用した写真は、田崎・吉田・三吉が撮影した。

9．本書は田崎・吉田・三吉・濱田が執筆し、下條信行の指導のもと、田崎・三吉・宮崎・渡邉かおるの協力を得ながら、吉田が編集を行った。

10．本書に報告した調査に係わる記録類・出土遺物は、愛媛大学埋蔵文化財調査室において保管している。

本文目次

Ⅰ　２００４年度の委員会と事業……1
1　埋蔵文化財調査委員会……1
(1) 独法化と埋蔵文化財調査委員会　(2) 2004 年度埋蔵文化財調査委員会
2　埋蔵文化財調査室要項の改訂……2
(1) 改訂までの経緯　(2) 改訂の内容　(3) 改訂案の審議
3　発掘調査……4
4　整理作業……5
5　印刷物の刊行……8
6　広報、資料等の利活用……8
(1) 広報パンフレットの配布　(2) まなびピア愛媛 2004 への参加
(3) 調査室・調査室資料の活用状況
7　愛媛大学保管・所蔵の考古資料について……15
(1) 資料の現状　(2) 旧愛媛大学歴史学研究会保管資料の取扱い
(3) 旧愛媛大学歴史学研究会保管資料の整理

Ⅱ　２００４年度の発掘調査……16
00401　事務局敷地内看板基礎工事に伴う調査……16
00402　避難標識整備事業関連工事に伴う調査……17
00403　工学部講義棟便所改修電気設備工事に伴う調査……20
00404　給与福利課事務室新営電気・機械設備工事に伴う調査……26
00405　御幸寮寄付物件取付工事に伴う調査……30

Ⅲ　構内の遺跡……34
1　調査の手続き……34
2　遺跡の把握状況……34
(1)　城北団地　(2)　樽味団地　(3)　北吉井団地　(4)　鷹子団地　(5)　その他の団地

Ⅳ　愛媛大学保管・所蔵の考古資料……48
1　旧愛媛大学歴史学研究会保管資料……48
(1) 愛媛大学歴史学研究会について　(2) 資料移管の経緯　(3) 資料整理の方法　(4) 資料の概要
2　旧愛媛大学歴史学研究会保管の祝谷丸山遺跡採集資料 (その 1)……49
(1) 祝谷丸山遺跡の立地と現状　(2) 祝谷丸山遺跡周辺の既往調査　(3) 祝谷丸山遺跡採集資料
(4) 祝谷丸山遺跡をめぐる諸問題

挿図目次

図1　城北団地2004年度調査地点位置図（縮尺 1/3,500）……6
図2　樽味団地2004年度調査地点位置図（縮尺 1/2,500）……7
図3　御幸団地2004年度調査地点位置図（縮尺 1/2,500）……7
図4　まなびピア in 愛媛大学展示会の内容……9
図5　まなびピア in 愛媛大学来場者内訳……11
図6　調査室・調査室資料の利用推移……14
図7　00401調査地点位置図及び土層柱状図（縮尺 1/1,000、1/50）……16
図8　00402調査1トレンチ位置図及び土層柱状図（縮尺 1/1,000、1/40）……18
図9　00402調査2トレンチ位置図及び土層柱状図（縮尺 1/1,000、1/40）……18
図10　00402調査出土遺物実測図（縮尺 1/3）……19
図11　00403調査地点位置図（縮尺 1/200）……21
図12　00403調査1トレンチ及び周辺調査区実測図（縮尺 1/60）……22
図13　00403調査2トレンチ及び99308調査2トレンチ実測図（縮尺 1/60）……25
図14　00403調査2トレン ンチ出土遺物実測図（縮尺 1/3）……26
図15　00404調査地点位置図（縮尺 1/200）……27
図16　00404調査1・2トレンチ実測図（縮尺 1/60）……28
図17　00405調査地点位置図及び土層柱状図（縮尺 1/1,000、1/40）……31
図18　埋蔵文化財調査に関わる手続きフローチャート……35
図19　文京遺跡保存地区（グリーンゾーン）位置図（縮尺 1/1,500）……36
図20　城北団地の区割（縮尺 1/5,000、1/1,000、1/200）……37
図21　城北団地調査地点位置図（縮尺 1/2,000）……45・46
図22　樽味団地調査地点位置図（縮尺 1/2,000）……47
図23　祝谷丸山遺跡位置図（縮尺 1/5,000）……51
図24　祝谷丸山遺跡資料採集地点（縮尺 1/2,000）……52
図25　祝谷丸山遺跡採集資料(1)（縮尺 1/4）……54
図26　祝谷丸山遺跡採集資料(2)（縮尺 1/4）……55
図27　祝谷丸山遺跡採集資料(3)（縮尺 1/4）……56
図28　祝谷丸山遺跡採集資料(4)（縮尺 1/4）……57
図29　祝谷丸山遺跡採集資料(5)（縮尺 1/4）……58
図30　祝谷丸山遺跡採集資料(6)（縮尺 1/2、1/3）……58
図31　弥生時代中期中葉の祝谷における遺跡の展開（縮尺 1/5,000）……61

写真目次

写真1　まなびピア in 愛媛大学・展示会の様子(1)……10
写真2　まなびピア in 愛媛大学・展示会の様子(2)……10
写真3　まなびピア in 愛媛大学・展示会の様子(3)……10
写真4　まなびピア in 愛媛大学・講演会の様子……10
写真5　00401調査区遠景（北東から）……17
写真6　00401調査区西壁土層（北東から）……17
写真7　00402調査1トレンチ（西から）……19
写真8　00402調査2トレンチ（南西から）……19
写真9　00403調査1トレンチ位置（南から）……23
写真10　00403調査1トレンチⅢ層残存状況（東から）……23
写真11　00403調査1トレンチ南壁東半土層（北東から）……23
写真12　00403調査1トレンチSD-1検出（東から）……23
写真13　00403調査1トレンチSD-1完掘（東から）……23

写真 14　00403 調査１トレンチ SD-1 土層
（東から）……24
写真 15　00403 調査１トレンチ北壁西半土層
（南西から）……24
写真 16　00403 調査１トレンチ北壁東半土層
（南から）……24
写真 17　00403 調査２トレンチ位置（東から）…24
写真 18　00403 調査２トレンチ完掘（東から）…24
写真 19　00403 調査２トレンチ北壁土層
（南東から）……24
写真 20　00403 調査２トレンチ出土遺物……26
写真 21　00404 調査地点遠景（南から）……29
写真 22　00404 調査１トレンチ（西から）……29
写真 23　00404 調査１トレンチ北壁土層
（南西から）……29
写真 24　00404 調査２トレンチ（南西から）……30
写真 25　00404 調査２トレンチ西壁土層
（南東から）……30
写真 26　00405 調査地点遠景（南から）……31
写真 27　00405 調査１トレンチ（南西から）……32
写真 28　00405 調査２トレンチ（北から）……32
写真 29　00405 調査３トレンチ（北から）……32
写真 30　00405 調査４トレンチ（北から）……32
写真 31　00405 調査５トレンチ（北から）……32
写真 32　00405 調査６トレンチ（北から）……32
写真 33　祝谷丸山遺跡遠景（西から）……50
写真 34　祝谷丸山遺跡近景（南東から）……50
写真 35　祝谷丸山遺跡採集資料 (1)……59
写真 36　祝谷丸山遺跡採集資料 (2)……59
写真 37　祝谷丸山遺跡採集資料 (3)……59
写真 38　祝谷丸山遺跡採集資料 (4)……59
写真 39　祝谷丸山遺跡採集資料 (5)……59
写真 40　祝谷丸山遺跡採集資料 (6)……59
写真 41　祝谷丸山遺跡採集資料 (7)……59
写真 42　祝谷丸山遺跡採集資料 (8)……60
写真 43　祝谷丸山遺跡採集資料 (9)……60

表目次

表１　2004 年度の埋蔵文化財調査委員会と
埋蔵文化財調査室の体制……2
表２　2004 年度埋蔵文化財調査依頼・照会一覧…4
表３　2004 年度発掘調査一覧……5
表４　2004 年度整理作業一覧……5
表５　2004 年度調査室・調査室資料利用一覧……13
表６　調査室・調査室資料の利用推移と調査・刊行物
……14
表７　愛媛大学埋蔵文化財調査一覧……40
表８　旧愛媛大学歴史学研究会保管資料一覧……63
表９　祝谷丸山遺跡採集遺物観察表……70

資料目次

資料１　国立大学法人愛媛大学
埋蔵文化財調査委員会規程……1
資料２　国立大学法人愛媛大学
埋蔵文化財調査室要項……3
資料３　まなびピア in 愛媛大学
来場者アンケート結果……11

Ⅰ　２００４年度の委員会と事業

1　埋蔵文化財調査委員会

(1) 独法化と埋蔵文化財調査委員会（資料１）

愛媛大学では、1987年に愛媛大学埋蔵文化財調査委員会を設け、施設整備に伴う埋蔵文化財の発掘調査に関する重要事項を調査審議してきた。また、その指導のもとに設置された埋蔵文化財調査室では、諸工事の埋蔵文化財への影響の度合いに応じて、その保護・調査を行ってきた。

2004年度には国立大学の法人化が実施され、これに伴い全学各種委員会の取扱いが協議されたが、埋蔵文化財調査委員会に関しては、法人化後も引き続き設置し、当分の間、運用することとされた。法人化後の国立大学法人愛媛大学埋蔵文化財調査委員会規程は、資料１に掲げる通りである。（吉田）

(2) 2004年度埋蔵文化財調査委員会（表１）

2004年度の埋蔵文化財調査委員会および埋蔵文化財調査室の体制は、表１の通りである。埋蔵文化財調査委員会は、2004年８月４日に開催され、2003年度事業報告、2004年度事業計画、その他の議題が報告・審議された。

①　2003年度事業報告

2003年度の実施事業について、発掘調査、整理作業、発掘調査報告書等の刊行と発送、広報・資料の利活用状況、樋又地区出土品収蔵プレハブ設置の各事業内容が室長より報告されるとともに、2003年度会計報告が行われた。これらのうち、報告書刊行について、『年報』で報告したものは将来『報告書』を作成するのか

資料１　国立大学法人愛媛大学埋蔵文化財調査委員会規程

［平成１６年４月１日　規則第１９号］

（設置）
第１条　国立大学法人愛媛大学（以下「法人」という。）に、国立大学法人愛媛大学埋蔵文化財調査委員会（以下「委員会」という。）を置く。
（任務）
第２条　委員会は、文化財保護法（昭和２５年法律第２１４号）に基づき、法人の施設整備に伴う埋蔵文化財の発掘調査に関する重要事項を調査審議する。
（組織）
第３条　委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。
(1) 理事（総務・学術担当）
(2) 各学部長
(3) 発掘調査に関連のある専門分野の教員　若干人
(4) 事務局長
(5) 経営企画部長、経理部長及び施設部長
２　前項第３号の委員は、学長が任命する。
３　第１項第３号の委員の任期は、２年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員を生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
（委員長）
第４条　委員会に委員長を置き、理事（総務・学術担当）をもって充てる。
２　委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
３　委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代行する。
（委員以外の者の出席）
第５条　委員長が必要あると認めるときは、委員以外の者を出席させ、説明又は意見を聴くことができる。
（調査室）
第６条　委員会に、委員会が定める基本方針に基づき発掘調査を実施し、その結果について報告書を作成するため、埋蔵文化財調査室（以下「調査室」という。）を置く。
２　調査室に関する要項は、委員会の議を経て、別に定める。
（事務）
第７条　委員会に関する事務は、施設部企画課において処理する。
（雑則）
第８条　この規程の定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が定める。

附則　この規程は、平成１６年４月１日から施行する。

表1　2004年度の埋蔵文化財調査委員会と埋蔵文化財調査室の体制

埋蔵文化財調査委員会				埋蔵文化財調査室		
	所属・役職	氏　名	備　考		氏　名	所　属
委員長	理事	小林　展章		室長	下條　信行	法文学部教授
委員	法文学部長	今泉　元司		調査員	田崎　博之	法文学部教授
委員	法文学部教授	下條　信行	埋蔵文化財調査室長	調査員	吉田　　広	法文学部助教授
委員	法文学部教授	松原　弘宣		調査員	三吉　秀充	法文学部助手
委員	教育学部長	渡邊　弘純		専門員	松原　弘宣	法文学部教授
委員	教育学部教授	川岡　　勉		専門員	村上　恭通	法文学部助教授
委員	理学部長	柳澤　康信		専門員	川岡　　勉	教育学部教授
委員	医学部長	小西　正光	～2005.2.28	教務補佐員	宮崎　直栄	施設部企画課
	〃	橋本　公二	2005.3.1～	事務補佐員	渡邉かおる	施設部企画課
委員	工学部長	鈴木　幸一		技術補佐員	濱田　美加	施設部企画課
委員	農学部長	白石　雅也		技能補佐員	井手野文江	施設部企画課
委員	事務局長	田村　幸男	～2004.12.31	技能補佐員	門田　　都	施設部企画課
	〃	門山　　勇	2005.1.1～	技能補佐員	松本美和子	施設部企画課
委員	経営企画部長	山田　勝治		技能補佐員	丸岡美智子	施設部企画課
委員	経理部長	白石　薫二		※2004.11.16より経理部は財務部へ		
委員	施設部長	山地　久司		※2004.11.16より施設部は施設基盤部へ		

という質問があり、『年報』は概要報告であり、より精緻で客観的な正式の『報告書』を作成する必要性が説明された。以上の審議が行われ、2003年度の実施事業・会計報告は了承された。

② 2004年度事業計画

2004年度実施計画事業について、発掘調査、整理作業、発掘調査報告書等の印刷・刊行、発送、広報・資料の利活用の各計画が室長から説明されるとともに、2004年度予算案についても説明が行われた。これらに対し、予算について例年との変更の有無と人件費の確保について確認がなされた。また、大規模調査不在による整理作業業務の軽減について問われたが、既発掘調査分の整理が残り、業務軽減のないことが回答された。他方、広報活動の一環として計画した『まなびピア愛媛』における出土品展示会と講演会について、市民への還元活動として、委員長から実施を強く促された。以上の審議が行われ、2004年度の事業計画・予算は了承された。

③ 議題その他

埋蔵文化財調査室要項の改訂と、愛媛大学所蔵・保管の考古資料の取扱いが取上げられた。

前者は、2003年度調査委員会において提案・審議されたが、了承を得られなかった改訂案について、意見集約・再整理を行い、再提示したものである。詳細は、次節において述べる。後者は、愛媛大学歴史学研究会廃部に伴う、同研究会保管資料の取扱いに関する議題であり、さらに大学保管・所蔵の考古資料に及んだ。これについても、節を改めて詳述する。（吉田）

2　埋蔵文化財調査室要項の改訂

(1) 改訂までの経緯

2003年度調査委員会後、調査室では、埋蔵文化財調査室要項改訂について問題の再整理を行い、2003年9月12日に、埋蔵文化財調査委員長に要項改訂の見直し案を再提出し、協議を行った。結果、他大学を参考にしながら、調査室の位置づけを明確化すること、埋蔵文化財調査室要項に「調査研究」業務を追加すること、学内で自然系の教員の協力により専門員体制を充実させること、以上の改訂の方向性と、埋蔵文化財の公開実現への善処が、確認された。（吉田）

(2) 改訂の内容（資料2）

以上の経緯を踏まえて、2004年度委員会において、埋蔵文化財調査室要項の改定案が再提示された。

まず、要項第2項の調査室の業務について、「発掘調査」から「調査研究」への追加変更である（第2項）。これは、発掘調査の実施や調査報告書の作成において、遺跡・出土品を総合的・客観的に評価するために研究側面が不可欠である実態を反映したものに他ならない。さらに、これらも既に一定の成果をあげてきた、出土資料や調査成果の公開・発信を業務内容の

一つとして明確に位置づけるとともに（第２項（４））、特に学内における教育研究への利用に対する支援について、具体的業務内容の一つに加えることとした（第２項（５））。

そして、研究業務を進める上で、自然遺物等を含めた総合的な出土品・調査データの分析・検討を進めるため、専門員体制の充実である（第４項）。　（吉田）

(3) 改訂案の審議

埋蔵文化財調査委員長から、2003年度委員会で要項改訂に関しては決定していることが述べられ、今回の提案が、発掘調査を主眼においた業務に、出土資料の保管や市民への還元活動、さらには研究などの追加であることが説明され、審議が行われた。そして、埋蔵文化財調査委員会での審議だけで要項改訂の可能なことを確認して、語句の一部訂正を行った後、平成16年８月４日付で改訂が了承された。　（吉田）

資料２　国立大学法人愛媛大学埋蔵文化財調査室要項

旧　要　項		新　要　項	
第１	この要項は、国立大学法人愛媛大学埋蔵文化財調査委員会規程第６条第２項の規定に基づき、国立大学法人愛媛大学埋蔵文化財調査室（以下「調査室」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。	第１	この要項は、国立大学法人愛媛大学埋蔵文化財調査委員会規程第６条第２項の規定に基づき、国立大学法人愛媛大学埋蔵文化財調査室（以下「調査室」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。
第２	調査室は、国立大学法人愛媛大学の敷地内の施設設備に伴う埋蔵文化財の発掘調査に関する次の各号に掲げる業務を行う。 （１）実施計画の立案及び実施に関すること。 （２）遺物の整理及び保管に関すること。 （３）報告書の作成に関すること。 （４）その他必要な事項。	第２	調査室は、国立大学法人愛媛大学（以下「本学」という。）の敷地内の施設設備に伴う埋蔵文化財の調査研究に関する次の各号に掲げる業務を行う。 （１）実施計画の立案及び実施に関すること。 （２）遺物の整理及び保管に関すること。 （３）報告書の作成に関すること。 （４）出土埋蔵文化財及び調査成果の公開及び利活用に関すること。 （５）本学の学生及び教員への実践的な教育及び研究の支援に関すること。 （６）その他必要な事項。
第３	調査室に、室長、調査員その他所要の職員を置く。	第３	調査室に、室長、調査員その他所要の職員を置く。
第４	調査室に、発掘調査に際して特別な知識を必要とする場合に、それぞれの専門分野について指導・助言を得るため、専門員若干人を置くことができる。	第４	調査室に、必要に応じて、埋蔵文化財の調査研究に関し、それぞれの専門分野から特別な知識及び技術について協力及び助言を得るため、専門員を置くことができる。
第５	室長、調査員及び専門員は、国立大学法人愛媛大学埋蔵文化財調査委員会（以下「委員会」という。）の議を経て、学長が任命する。	第５	室長、調査員及び専門員は、国立大学法人愛媛大学埋蔵文化財調査委員会（以下「委員会」という。）の議を経て、学長が任命する。
第６	室長、調査員及び専門員の任期は、委員会の議を経て、学長が定める。	第６	室長、調査員及び専門員の任期は、委員会の議を経て、学長が定める。
第７ ２	室長は、調査室に関する業務を掌理する。 調査員は、発掘調査に関する業務を行う。	第７ ２	室長は、調査室に関する業務を掌理する。 調査員は、室長の指示の下、埋蔵文化財の調査研究に関する業務を行う。
第８	調査室に関する事務は、施設部において処理する。	第８	調査室に関する事務は、施設部において処理する。
第９	この要項に定めるもののほか、調査室の運営に関し必要な事項は、委員会が定める。	第９	この事項に定めるもののほか、調査室の運営に関し必要な事項は、委員会が定める。
	附則　この要項は、平成16年４月１日から施行する。		附則　この要項は、平成16年８月４日から施行する。

3　発掘調査

表2　2004年度埋蔵文化財調査依頼・照会一覧

依頼文書			回答文書		
日付	発	工事名	日付	内容	調査
4/15	経理部主計課長	事務局敷地内看板基礎工事	7/20	埋蔵文化財調査について(報告)	立会調査(00401)
4/26	施設部施設課長	事務局管理棟高圧引込開閉器接地改修工事	4/28	周辺の既往調査の成果から、計画掘削深度で埋蔵文化財に達するが、直径14㎜の接地極打ち込みという工法上、発掘調査の必要なしと判断。	調査せず、慎重工事依頼。
5/18	施設部施設課長	工学部機械実習工場高周波電源装置電源工事	5/18	周辺の既往調査の成果から、計画掘削深度では埋蔵文化財に影響がないと判断。	調査せず、慎重工事依頼。
6/15	施設部施設課長補佐(口頭照会)	農学部附属農業高等学校ｸﾞﾗｳﾝﾄﾞﾊﾞｯｸﾈｯﾄ改修工事	6/15	周辺の既往調査の成果から、計画掘削深度で埋蔵文化財に影響が及び、工事範囲全面の発掘調査が必要と判断。概算として、調査期間実働10日間、人工数5人/日。	
8/5	工学部事務長	工学部電気設備配管工事	8/9	周辺の既往調査の成果から、計画掘削深度では埋蔵文化財に影響がないと判断。	調査せず、慎重工事依頼。
10/25	教育学部長	教育学部附属中学校植樹工事	10/26	周辺の既往調査の成果から、計画掘削深度では埋蔵文化財に影響がないと判断。	調査せず、慎重工事依頼。
11/9	施設部施設課長	教育学部本館東側他屋外空調機廻りﾌｪﾝｽ取設工事	11/10	工事地点2ヶ所では、周辺の既往調査の成果から、計画掘削深度では埋蔵文化財に影響がないと判断。	調査せず、慎重工事依頼。
11/30	施設基盤部施設整備課長	農学部附属農業高校暖房配管蒸気漏れ修理工事	12/1	既存管路部分の再掘削工事のため、埋蔵文化財に影響がないと判断。	調査せず、慎重工事依頼。
12/10	財務部財務企画課資産管理チームチームリーダー	避難標識整備事業関連工事			
		① 城北団地学務部建物東側 ③ 樽味団地附属農業高等学校正門東側	12/10	周辺の既往調査の成果から、計画掘削深度で埋蔵文化財に影響があり、立会調査が必要と判断。	立会調査(00402)
			2/4	埋蔵文化財調査について(報告)	
		② 持田団地附属中学校音楽教室北西側	12/10	周辺の既往調査の成果から、計画掘削深度では埋蔵文化財に影響がないと判断。	調査せず、慎重工事依頼。
1/12	施設基盤部施設整備課長	(城北)ﾌﾟｰﾙ北側囲障改修工事	1/12	周辺の既往調査の成果から、計画掘削深度では埋蔵文化財に影響がないと判断。	調査せず、慎重工事依頼。
1/12	施設基盤部施設整備課長	(城北) 給与福利課事務室新営電気・機械設備工事			
		① 事務室建物基礎工事	1/13	埋蔵文化財に影響が及ばない工事計画へ変更依頼。計画変更により、埋蔵文化財に影響がないと判断。	調査せず、慎重工事依頼。
		② 電気配管工事 ③ 給水・ｶﾞｽ管埋設工事	1/13	周辺の既往調査の成果から、計画掘削深度では埋蔵文化財に影響がないと判断。	調査せず、慎重工事依頼。
		④ 汚水管・汚水桝新設工事	1/13	周辺の既往調査の成果から、計画掘削深度で埋蔵文化財に影響があり、立会調査が必要と判断。	立会調査(00404)
1/13	施設基盤部施設整備課長	(教育)附属小学校等便所改修工事・便所改修電気設備工事	1/13	周辺の既往調査の成果から、2ヶ所は計画掘削深度では埋蔵文化財に影響がなく、2ヶ所は既設建物の建設に伴う余掘り範囲に収まると判断。	調査せず、慎重工事依頼。
1/13	施設基盤部施設整備課長	工学部講義棟便所改修電気設備工事	1/13	既存管路上部への埋設及び既存桝解体跡への新設ながら、既存管路・桝の埋設範囲が狭いため、立会調査必要と判断。	立会調査(00403)
1/28	農学部事務課長(口頭照会)	農学部RI実験施設西側実験田	2/8	周辺の既往調査の成果から、田面から40㎝以内の掘削ならば、埋蔵文化財に影響がないと判断。	
2/1	教育学生支援部学生生活課学生生活支援担当チーム	御幸寮寄付物件取付工事			
		① 駐輪場新設工事 ② ｺﾞﾐ集積場新設工事	2/2	周辺の既往調査の成果から、計画掘削深度では埋蔵文化財に影響がないと判断。	調査せず、慎重工事依頼。
		③ 防球ﾈｯﾄ取設工事	2/2	周辺の既往調査成果がなく，埋蔵文化財への影響が予測でず、立会調査が必要と判断。	立会調査(00405)
			3/15	埋蔵文化財調査について(報告)	
2/8	施設基盤部施設整備課長	農学部温室低圧電灯幹線改修工事	2/8	周辺の既往調査の成果から、計画掘削深度では埋蔵文化財に影響がないと判断。	調査せず、慎重工事依頼。
2/8	施設基盤部施設整備課長	共通教育管理棟ｽｰﾊﾟｰｻｲｴﾝｽ研究室改修電気設備工事	2/15	既設建物建設に伴う余掘り部分にあたり、埋蔵文化財はすでに破壊されていると判断。	調査せず、慎重工事依頼。
3/17	教育学生支援部学生生活課長	ﾋﾟｱｶﾌｪ看板設置工事	3/28	周辺の既往調査の成果から、計画掘削深度では埋蔵文化財に影響がないと判断。	調査せず、慎重工事依頼。

表３　2004 年度発掘調査一覧

調査番号	団 地	遺 跡	工　事　名	調査種別	調査担当	調査期間	調査面積	出土遺物
00401	城 北	文 京	事務局敷地内看板基礎工事	立会調査	吉田･三吉	2004.7.16	2.5 ㎡	若干
00402	城 北 樽 味	文 京 樽 味	避難標識整備事業関連工事	立会調査	吉田･三吉	2005.1.24 ～ 1.31	2.6 ㎡	若干
00403	城 北	文 京	(城北)工学部講義棟便所改修電気設備工事	立会調査	田崎･三吉	2005.3.1	8.7 ㎡	なし
00404	城 北	文 京	(城北)給与福利課事務室新営電気・機械設備工事	立会調査	田崎･三吉	2005.3.24 ～ 3.29	3.5 ㎡	なし
00405	御 幸		御幸寮寄付物件取付工事	立会調査	吉田･三吉	2005.2.23	2 ㎡	若干

埋蔵文化財調査室では、毎年度当初、各部局に計画されている掘削を伴う工事について、施設基盤部を通じて問い合わせを行い、各工事毎に埋蔵文化財への影響を判断し、調査について協議を行うこととしている。実際には、年度後半に急遽工事計画の持ち上がることも少なくないが、こうした手続きが定着している結果として、2004 年度には、18 件（工学部１、教育学部１、農学部１、施設(基盤)部 11、経理(財務)部２、教育学生支援部２）の調査依頼あるいは照会を受けた(表２)。この中で、周辺の既往調査の成果から、計画掘削深度では埋蔵文化財に影響がないと判断されたものについては、発掘調査が必要ないことを回答するとともに、慎重工事を依頼している。一方、工事によって埋蔵文化財に影響が及ぶと判断した場合は、工事の規模・埋蔵文化財への影響度を勘案して、調査を行うこととなる。2004 年度には、前述の調査依頼中、５件について発掘調査を実施した（表３、図１～３）。いずれも、営繕工事や小規模な改修工事に伴う立会調査で、大規模な本格調査には到っていない。　(吉田)

4　整理作業

2004 年度の発掘調査報告書の刊行に向けた整理作業は、表４に示す通りである。

まず、2002 年度実施の城北団地メディアセンター新営工事に伴う文京遺跡 25 次調査出土遺物（コンテナ 80 箱分）と、2003 年度実施の城北団地総合研究実験棟新営工事に伴う文京遺跡 27 次調査出土遺物（コンテナ 60 箱分）の洗浄・注記・接合・復元作業を行った。また、水洗土壌からの微細遺物選別作業は、1994 年度実施の城北団地工学部校舎新営Ⅰ期工事に伴う文京遺跡 12 次調査出土遺物（コンテナ 100 箱分)と、文京遺跡 27 次調査出土遺物（コンテナ 90 箱分）について実施した。これらはいずれも、施設部技能補佐員４名による作業である。

一方、出土遺物の実測・製図作業は、1999 年度実施の、城北団地サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー新営工事に伴う文京遺跡 20 次調査出土遺物（コンテナ 50 箱分）について、2003 年度から継続実施し、その成果は年度末に報告書として刊行している。なお、この作業には、施設部技術補佐員１名があたった。　(吉田)

表４　2004 年度整理作業一覧

調査番号	団 地	遺 跡	次 数	工　事　名	調査担当	調査期間	調査面積	遺物
① 出土遺物の洗浄・注記・接合・復元作業								
00202	城 北	文 京	25 次	(城北)ﾒﾃﾞｨｱｾﾝﾀｰ新営工事	吉田･三吉	2002.6.1 ～ 12.18	1,022 ㎡	80 箱
00301	城 北	文 京	27 次	(城北)総合研究実験棟新営工事	吉田･三吉	2003.5.29 ～ 10.24	703 ㎡	60 箱
② 水洗土壌からの微細遺物選別作業								
99410	城 北	文 京	12 次	(城北)工学部校舎新営(Ⅰ期)工事	田崎	1994.11.10 ～ 1995.7.26	1,183 ㎡	100 箱
00301	城 北	文 京	27 次	(城北)総合研究実験棟新営工事	吉田･三吉	2003.5.29 ～ 10.24	703 ㎡	90 箱
③ 出土遺物の実測・製図作業								
99910	城 北	文 京	20 次	(城北)ｻﾃﾗｲﾄ・ﾍﾞﾝﾁｬｰ・ﾋﾞｼﾞﾈｽ・ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ新営工事	吉田･三吉	2000.2.14 ～ 6.20	588 ㎡	50 箱

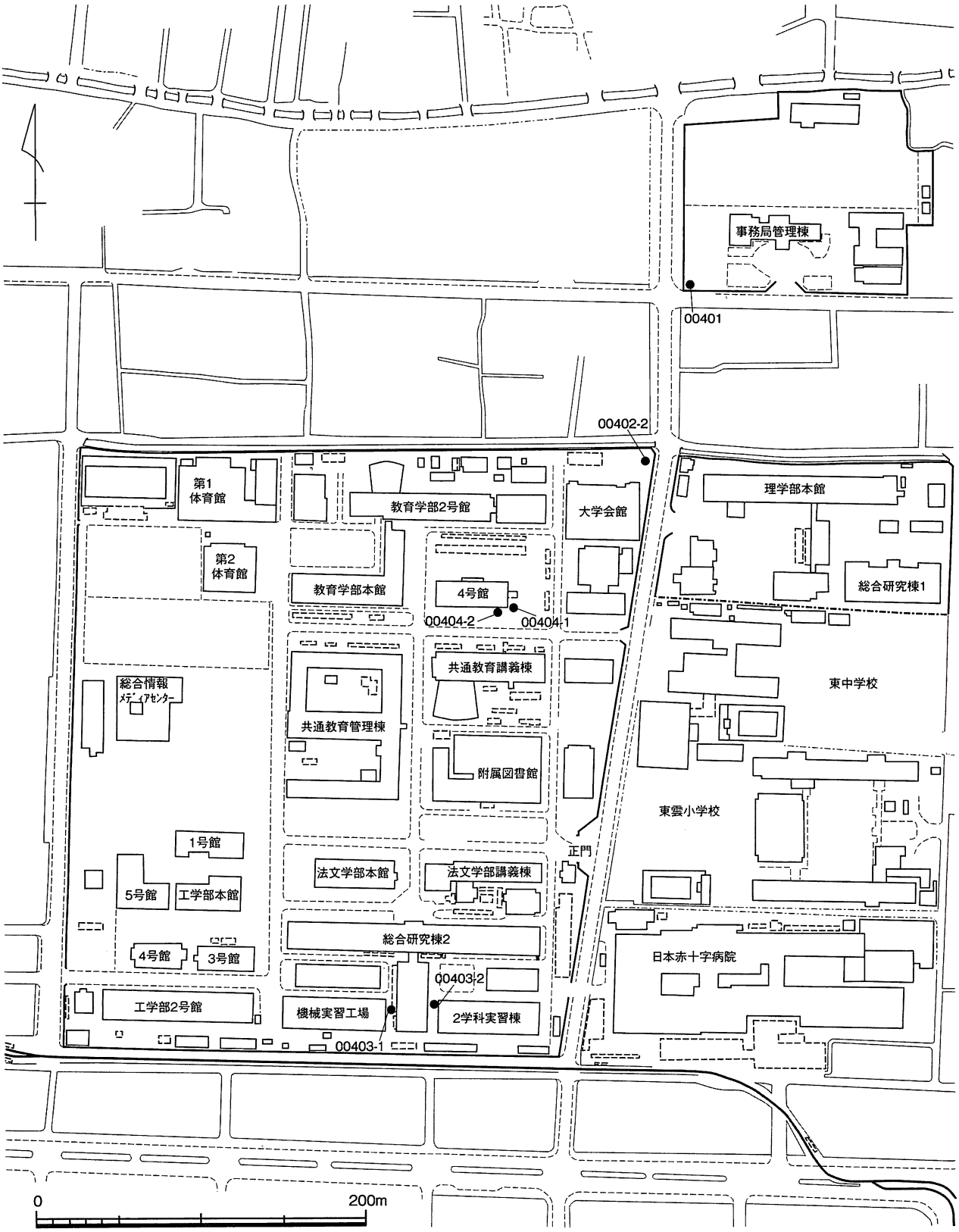


図１　城北団地 2004 年度調査地点位置図（縮尺 1/3,500）

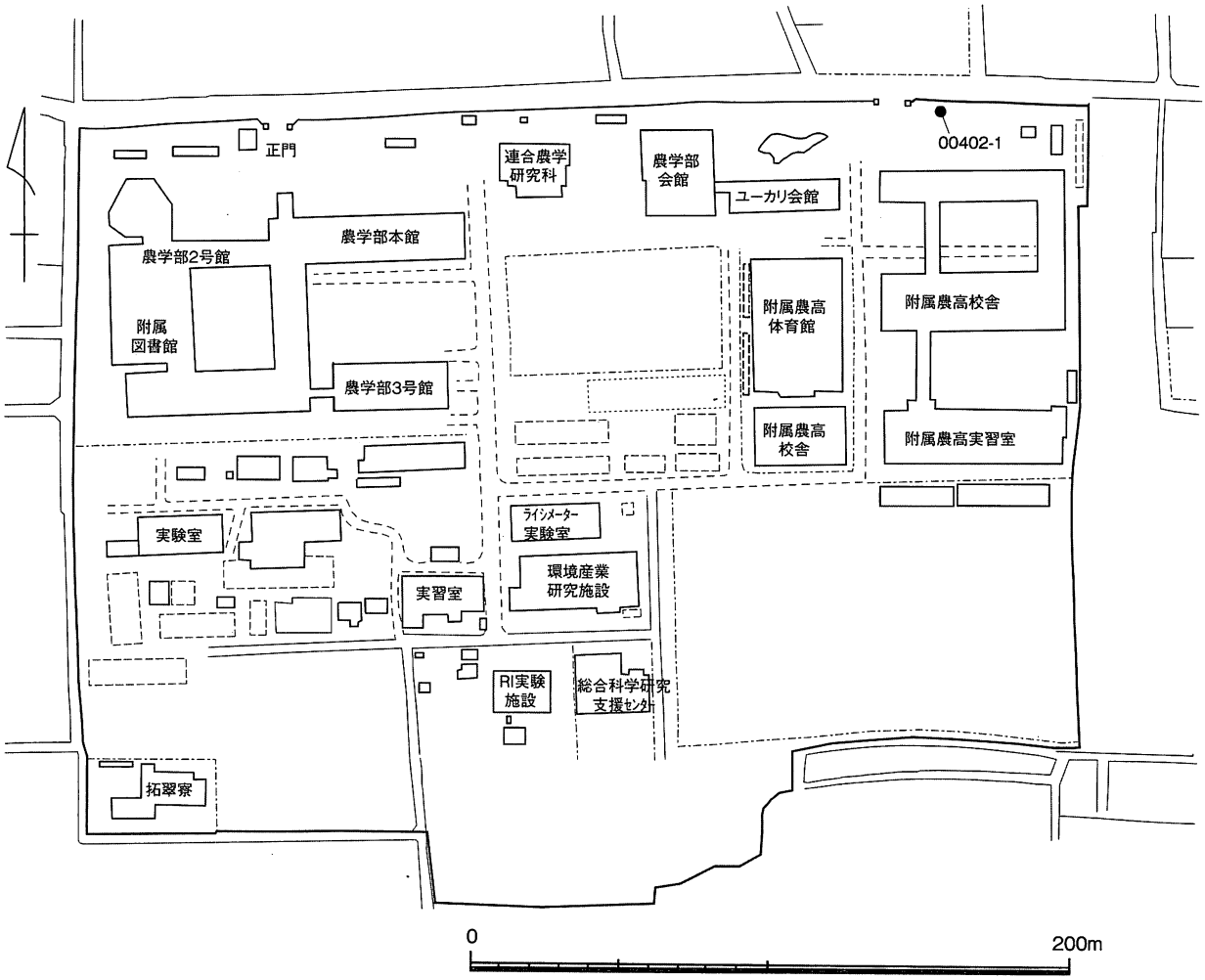


図２　樽味団地 2004 年度調査地点位置図（縮尺 1/2,500）

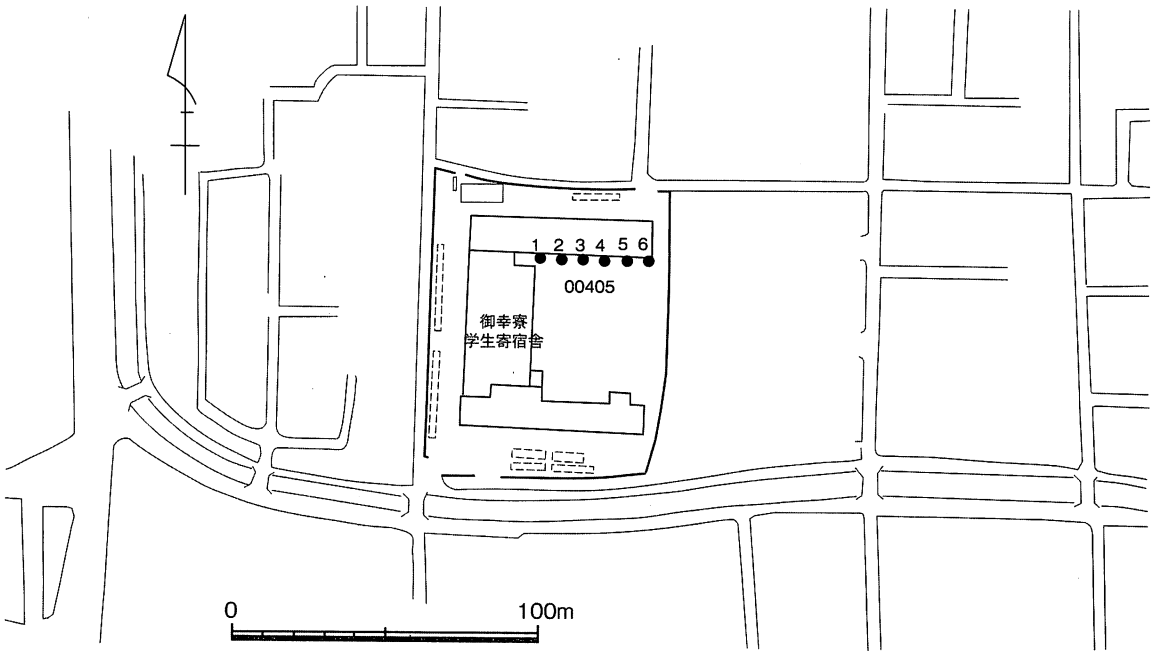


図３　御幸団地 2004 年度調査地点位置図（縮尺 1/2,500）

5　印刷物の刊行

2004年度には、1999年度実施の城北団地サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー新営工事に伴う文京遺跡20次調査と、2003年度実施の、(株)四国電力による城北団地高圧線敷設工事に伴う文京遺跡23次調査の正式調査報告書である『文京遺跡Ⅳ－文京遺跡20次調査・文京遺跡23次調査－』を刊行するとともに、2003年度に実施した全面調査の概要報告と小規模調査の報告をとりまとめた『埋蔵文化財調査室年報－2003年度－』を刊行した。

また、2003年度刊行の『文京遺跡Ⅲ』と『埋蔵文化財調査室年報－2001･2002年度－』を、全国の大学･研究機関、文化庁･教育委員会･埋蔵文化財センター、博物館・資料館等、さらには海外の研究機関に発送した。（吉田）

6　広報、資料等の利活用

大学構内の埋蔵文化財調査が進むとともに、調査成果に対する学内外からの関心が高まりをみせている。埋蔵文化財調査室では、これに応えるべく、調査成果や埋蔵文化財調査室に関する広報活動を積極的に進めている。

一方、学内外から出土資料に関する調査や借用の依頼も多い。教材資料としての利用・借用依頼、学生・研究者の研究資料としての調査依頼、博物館等からの出展依頼等である。それぞれ調整を図りながら、個別に対応している。（吉田）

(1) 広報パンフレットの配布

2001年度に改訂・印刷した広報パンフレット『発掘愛媛大学』を、機会を捉えて配布している。まず、2004年度の新入学生に対しては、各学部に依頼し、入学式に際して配布される資料に同封し、新規採用職員についても、職員研修時に配布している。これらの総数は約2,500部に達する。また､インフォーメーションセンター等にも常時配置している。さらに、後論するまなびピアの際にも、展示解説資料とともに、見学者に配布した。（吉田）

(2) まなびピア愛媛2004への参加

①　経緯

平成元年から各都道府県持ち回りにより開催されている全国生涯学習フェスティバルの第16回が、「まなびピア愛媛2004」として、平成16年10月9日(土)～13日(水)の5日間、アイテム愛媛を主会場に、愛媛県下6会場で開催されることになった。愛媛大学もその1会場として、「まなびピアin愛媛大学」を実施することになり、学内からの参加が募られた。埋蔵文化財調査室ではこれに応じ、蓄積してきた成果公開の場として、積極的に参加することとした。

②　計画

埋蔵文化財調査室が学内で調査成果の公開を行うのは、1997年7月の文京遺跡シンポジウム以来となる。シンポジウムにより、西日本屈指の弥生大集落であるとの評価を得られるようになったが、その詳細を語る出土資料の整理はなお十分でない。このような状況もあり、今回は最も普遍的な出土資料である土器、中でも弥生土器に焦点を絞って、「文京遺跡発 弥生土器からのメッセージ」と題して、展示会・講演会を開催することとした。

実際に、遺跡見学会や小学生の体験発掘で寄せられる質問で多いのが、「土器の年代はどうしたらわかるのか」、「土器はどのように作られたのか」、「どうして土器は破片でしか出てこないのか」といった、土器に関する質問であり、かつての生活や文化を考える出発点として土器を理解することは、身近な埋蔵文化財に対する理解への第一歩とも言える。文京遺跡出土の実物に触れることを通じて、遺跡や考古学への喚起を意図したところである。

③　展示会（図4，写真1～3）

展示会は、10月9日(土)13:00～11日(祝)13:00にわたって､法文学部講義棟1階の101教室で開催した。展示内容は、上記の計画に基づき、「土器と人」というテーマから、だれが、どのような意味をもたせ、どのように土器を作ったのか、そしてどのような場面

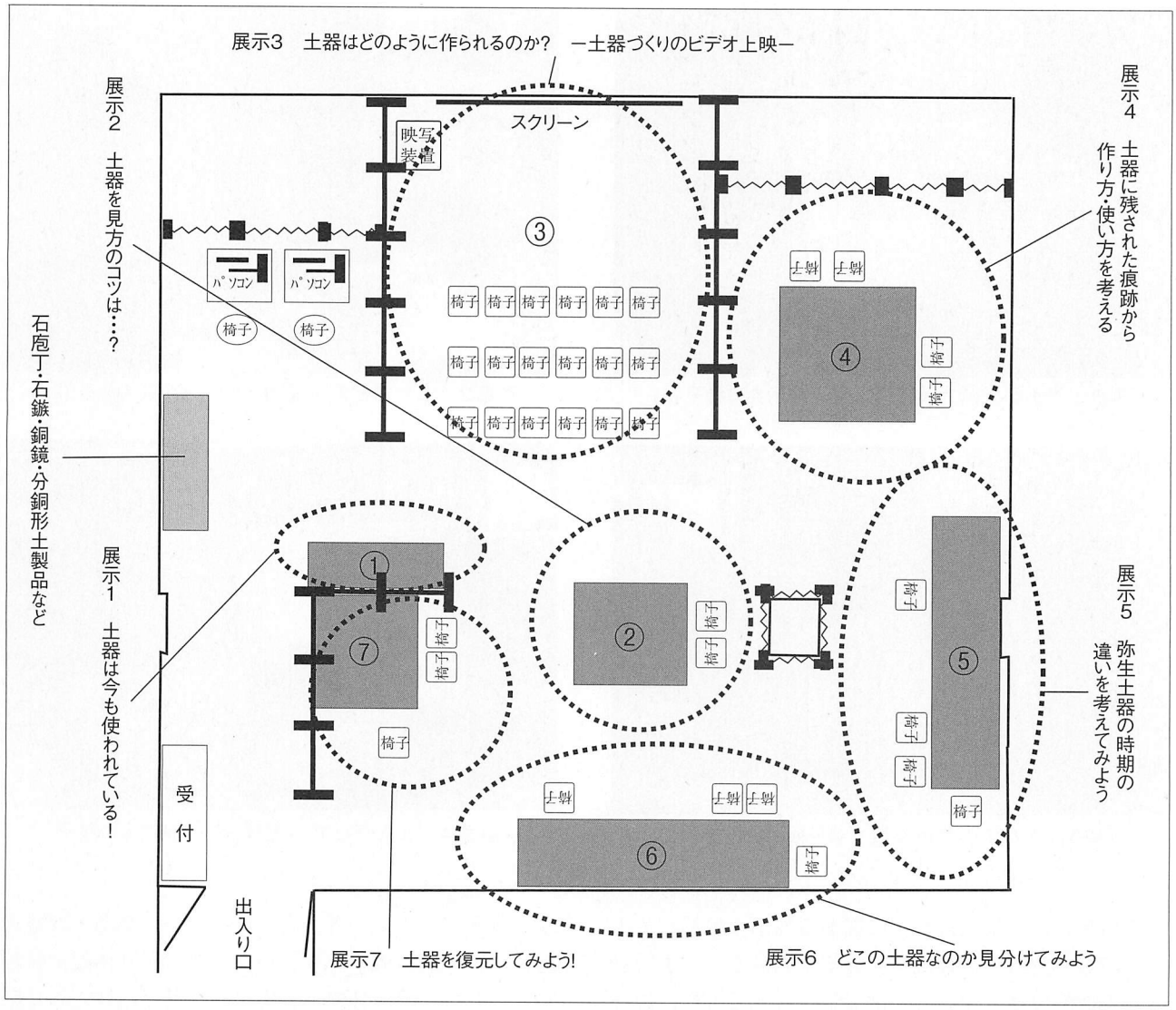


図４　まなびピア in 愛媛大学展示会の内容

で、どのように土器が使われたのかを理解してもらうことを想定した。と同時に、発掘現場から展示ケースへの過程を通じて、「文化財」としての土器に対する理解を促すものとした。

まず、「展示１　土器は今も使われている！」では、現代も使われている土器として、三三九度の盃、植木鉢、あるいは中国雲南地域や東南アジアの土製鍋や壺などを展示し、直接手に取り、質感を実感することとした。続いて、「展示２　土器の見方のコツは・・・？」では、土器の絵・図を書いたり、手の大きさと比較する、あるいは手に取って大きさや重さを実感するなどの、土器を見るコツを示した。さらに、「展示３　土器はどのように作られるのか？」では、弥生土器がどのように作られたかを知るヒントとして、タイ、ベトナム、中国雲南地域の土器づくりのビデオを映写した。

以上を導入として、以下具体的な弥生土器の展示へと移行し、「展示４　土器に残された痕跡から作り方・使い方を考える」で、弥生土器の表面に残されたハケ目やミガキ、ケズリといった土器作りの痕跡を観察し、そのような痕跡の復元を、実際に試みた。そして「展示５　弥生土器の時期の違いを考えてみよう」と「展示６　どこの土器なのか見分けてみよう」では、形や文様の違いから、時期や地域による土器の違いがわかることを示し、そこから遺跡の時代や当時の人々の交流の広がりを知ることへと展開した。

なお、「展示７　土器を復元してみよう！」は、発掘調査後の整理作業の一つである、土器の接合・復元作業の体験コーナーである。

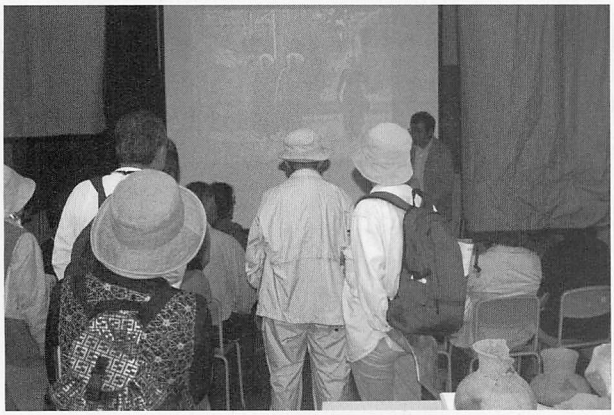


写真１　まなびピア in 愛媛大学・展示会の様子 (1)

写真２　まなびピア in 愛媛大学・展示会の様子 (2)

写真３　まなびピア in 愛媛大学・展示会の様子 (3)

写真４　まなびピア in 愛媛大学・講演会の様子

この他に、文京遺跡全体に関する簡単な展示パネルや、石庖丁や石鏃、銅鏡や分銅形土製品など、土器以外の特徴的な出土遺物も一部展示するとともに、これまでの調査の概要を、パソコン画面で自由に検索できるようにした。

④　**講演会**（写真４）

講演会は、展示会の最終日 11 日の午前中 10:00 ～ 12:00 に、法文学部講義棟２階の 201 教室で開催した。埋蔵文化財調査委員会委員長である小林展章副学長の挨拶後、以下の題目で４名の講演が行われた。

講演１ 下條信行「大集落、文京遺跡を語る
－長く、大きく、偉大な集落－」
講演２ 三吉秀充「土器の発掘・整理・観察
－土の中から展示ケースの中へ－」
講演３ 田崎博之「土器を作り、使う」
講演４ 吉田　広「土器の違いを考える」

講演１では、文京遺跡の特徴として、長期間に及ぶ遺跡であることと、弥生時代後半期に瀬戸内屈指の大集落であることが示された。続いて講演２では、土器が発掘調査によって掘り出されてから、整理・観察を通して、今回の展示成果にいたるまでの具体的手順が紹介された。講演３では、実際の土器で観察される痕跡から復元された土器作りの具体的方法が説明され、また土器を使った痕跡にも触れられた。そして講演４で、土器のいろいろな差が何を意味するのかについて、時期による差と地域による差、それ以外による差もあることが示され、土器の違いをどのように理解するのかが、考古学者の大きなのテーマであるとまとめた。

⑤　**来場者とアンケート**（図５・資料３）

初日・２日目とあいにくの天候ながら、３日間を通じて約 300 名の来場があった。ただし、大学正門前という場所にありながら、展示等が集中した大学会館と、来場者用駐車場が設置された総合情報メディアセンター間の、主たる人の動線からやや外れた格好となってしまったため、来学者全体に占める来場者の割合は決して高くない。逆に言えば、目的的な来場者が少なくないことを意味しよう。

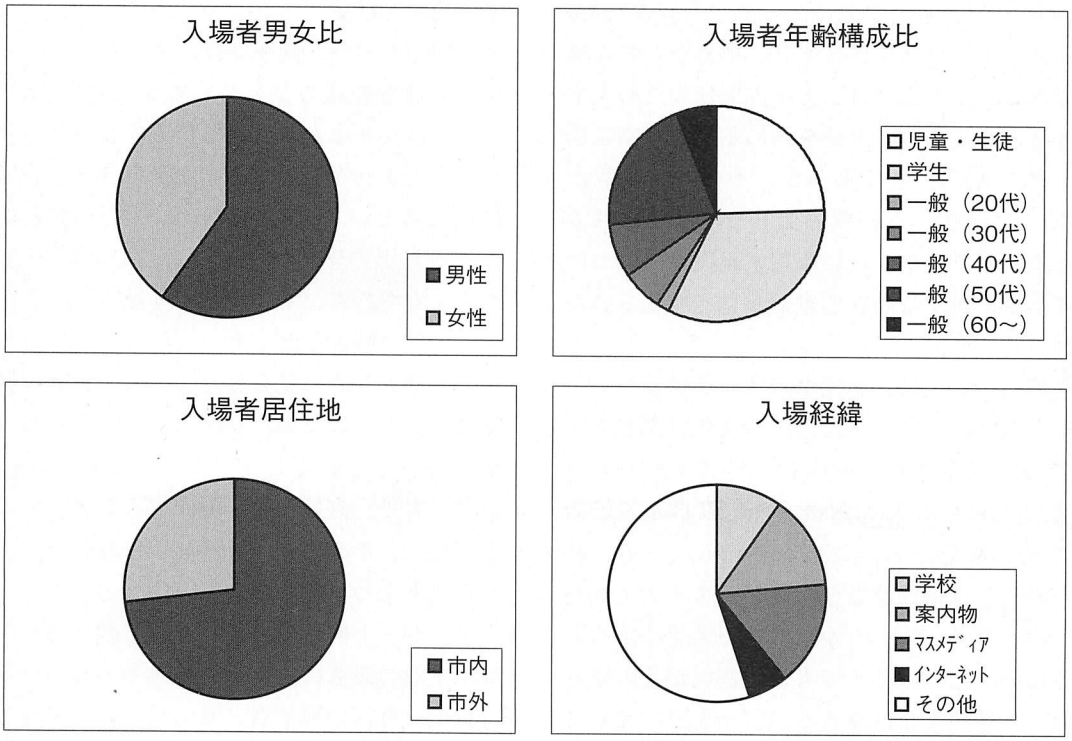


図５　まなびピア in 愛媛大学来場者内訳

資料３　まなびピア in 愛媛大学来場者アンケート結果

設問１「今回の展示・講演で、何に一番興味をもたれましたか？」回答抜粋

・普段あまり見ることのできない文京の土器がまとまって展示されていることがすばらしいと思います。（男／学生／市内）
・土器作りのビデオがとても興味深かったです。製作過程、焼き上げ過程と、今まで見たことも想像したこともなかったので魅力を感じました。（女／学生／市内）
・コップのような土器がおもしろかったです。（男／児童／市内）
・粘土に含まれる鉱物によって、土器の作られた場所がわかること。（男／学生／市内）
・土器の持つ意味について、その製作過程から使用目的、また地域ごとの交流が推定できる等、興味深かった。文京遺跡が大きく高度な集落であったこと。（男／一般 50 代／市内）
・土器の復元コーナー。（女／児童／市内）・（男／児童／市内）・（女／生徒／市内）・（女／一般 30 代／市内）・（女／一般／市内）
・土器に直接触れられたこと（女／生徒／市内）・（女／学生／市内）×５・（男／一般 60 代／市内）
・土器に触れることができたのが、まじ感動っす。（女／生徒／市内）
・子供が実際に土器及び土器の破片に触れるチャンスは貴重で嬉しく感じました。（女／一般／市内）
・手にとって、手触りや重さなど体感できて、ドキドキしました。 大学の真下など、普通に生活している土地の下に、このような土器や遺跡があるという事実。考えもしなかったことに思い起こさせることができて良かったです。（男／一般 30 代／市内）
・直接土器を触れたことです。生まれて初めてのことで感激しました。また、マンツーマンでおしえてくれたのが非常に分かりやすかった。（女／一般 60 代／市内）
・土器に触れることができたのが、とても嬉しかったです。触れてみて初めて重さや厚さなどが分かり、大きければ重いというわけでないということも分かりました。模様にもたくさんの種類があり、その時々の流行もあることも分かって良かったです。（女／学生／市内）

設問２「その他、今回の展示・講演について、ご意見・感想などありましたら、お書き下さい。」回答抜粋

・興味の引く内容も入れて欲しい。（男／一般 40 代／市内）
・実際に作ることができればよかった。できれば、小学生に特別出張講義をお願いします。（男／児童／市内）
・おもしろい、ただ見学者の少なさが残念。（男／一般 50 代／市外）
・愛大横内に遺跡があったのも知らなかったです、勉強になりました。（女／一般 30 代／市内）
・今まで、眺めるだけだった土器に触れることができ、いろいろな角度からじっくりと見ることができたので良かったです。また、単に見てまわるだけでなく、いろいろな話を聞きながら触れ、見てまわることができ、すごく楽しめた。（女／学生／市内）
・いいものを見せていただきました。また機会があれば愛大でこういった展示をしていただきたいです。（女／学生／市内）
・このような実物に直接触れることのできる展示がもっと広まって欲しいと思う。（男／一般 20 代／市内）
・丁寧に説明していただき、古き時代にいるような気になりました。このような宝物を学内に博物館として常時展示してもらいたい。韓国釜山大学にはありました。（男／一般 50 代／市外）
・松山生まれのこんな素晴らしい土器を持っているのです。ぜひ、いつでも見られる施設を作ってください。（女／一般 60 代／市内）

来場者のうち、52名からアンケートが回収された。それによると、まず男女比が3：2。市外からの来場は3割弱である。年令別では、大学内開催のため大学生が約1/3を占め、児童・生徒を含めると約6割に達する。残る約4割が一般であるが、そのうち半数が50代である。アンケート回収の偏りや、家族連れでの来場にもよるが、定年世代に限らず現役世代についても、生涯学習に対する潜在的意欲が見て取れるのかもしれない。

来場の経緯については、高校生の多くが学校を通じて情報を紹介されていた。また、埋蔵文化財調査室から直接・間接に配布された案内物（ポスターやチラシ等）を見ての来場も15%前後あり、独自の宣伝効果が一定の役割を果たしたことが窺える。一方、新聞・テレビあるいは情報誌などの既存マスメディアから、さらにはインターネットからの情報入手によるものも少なくない。ただしそれでも、6割弱がその他と回答しており、埋蔵文化財調査室の展示を意図せずに来場した場合が多く、会場が主たる人の動線から外れていなければ、さらに多くの来場があったとも推測される。限られた人数の来場に留まったとは言え、偶然に立ち寄る機会を得たような来場者にこそ、新たに考古学に親しんでもらえたのなら、今回の企画は成功であったと言えよう。

アンケートにおいては、「設問1　今回の展示・講演で、何に一番興味をもたれましたか？」を設け、別記のような意見が寄せられている。総じて、土器作りのビデオや土器の復元コーナーの評判が良かったようである。特に復元コーナーを始め、土器の重さを実感したり、ケズリやミガキといった土器作りの技法復元など、直接土器に触れることができたことへの感動が、回答の約4割で触れられている。また、この感想は、年齢差に関係ないことも特徴的である。

さらに、「設問2　その他、今回の展示・講演について、ご意見･感想などありましたら、お書き下さい。」についても、先の回答と同じように、実体験型の展示と丁寧な説明に対して、かなり好評を得たと判断できる。資料の羅列に終始する旧来型展示への不満と表裏をなすとも言えよう。ただし一方で、一過性の展示であることへの惜しみが、常設的な展示施設要望としても表現されており、大学へ対する社会の期待は小さくない。さらには、大学外への出張講義などの活動も希望されているところである。

⑥　成果と展望

今回の展示会・講演会は、土器という、考古資料の中でも最も普遍的なものであり、どちらかと言えば、一般にはなかなか注目を浴びることのない資料を扱った。そのような資料でありながら、来場者には、実物に触れるという直接体験によって、通常の展示で目にする以上の学習効果をあげることができたようである。もちろん、その理解を助けるための、マンツーマンに近い解説などもあってのことではあるが、アンケートでも顕著に見られたように、実物資料の直接体験に勝るものはない。しかし、それも今回の展示の規模において可能であったことも認めなければならない。一方で、直接体験を避けざるを得ないような資料も存在し、そのような資料展示においての工夫は、また別途考えねばなるまい。

アンケート回答での要望として散見された、恒常的展示施設の設置に対して、施設というハード面整備の一方で、今回の展示会・講演会の試みを通じて得られた、展示・解説方法に関するソフト面の成果を、さらに追究していくことが課題であろう。

なお最後に、展示会・講演会を開催するにあたり、多くの方々にご協力をいただいた。展示会にあたり、会場設営のため、講義教室の移動をお願いした井藤正信氏、高橋弘臣氏、田村憲治氏、長井偉訓氏、山口和子氏、横山信二氏。教室変更や什器類の使用・借用にご配慮いただいた法文学部学務係・総務係、田中久美子氏、保健管理センター、地域共同研究センター、教育学部附属養護学校。また展示用に一部資料を借用させていただいた松山市教育委員会・(財)松山市埋蔵文化財センター。そして、全般的にご支援いただいた法文学部考古学研究室、以上の各位・各機関に改めて御礼申し上げる次第である。　(吉田)

(3) 調査室・調査室資料の活用状況

2003年度には、学内外から58件の出土品・調査記録の利用を依頼され、適宜対応した（表5）。その内訳をみると、学内からは、本学教員の実物教育の教材としての利用等が13件、大学院生・学部生の修士論文・卒業論文作成等のための資料調査が5件である。特にこれらの中でも、法文学部以外の教員・学生の利用が増えており、少しずつながら、学内的な注目度が増してきていることの表れと判断できる。一方、学外からの依頼は40件に達し、愛媛県立歴史文化博物館

表５　2004 年度調査室・調査室資料利用一覧

	日付	利用者	利用資料	目的	利用内容
1	4/12	愛媛大学法文学部・教員	文京遺跡 10 次調査 SK4・SK11 弥生土器	教育	借用
2	4/12	愛媛大学法文学部・教員	文京遺跡 10 次調査出土遺物	教育	借用
3	4/22	愛媛大学教育学部・教員	文京遺跡 出土遺物	教育	借用
4	4/27	愛媛大学教育学部・教員	文京遺跡出土資料および埋蔵文化財調査室		施設見学
5	5/13	松山市埋蔵文化財センター・職員	文京遺跡 掘立柱建物	研究	照会
6	5/28	広島大学文学研究科・大学院生	樽味遺跡２次・５次調査出土硯	研究	実測･写真撮影
7	6/2	松山短期大学・学生	文京遺跡関連文献資料	レポート作成	その他
8	6/3	愛媛大学英語教育センター・教員	文京遺跡出土資料および埋蔵文化財調査室	教育	見学
9	6/7	愛媛大学法文学部・教員	文京遺跡調査スライド 10 枚	講演資料	借用
10	6/7	松山市埋蔵文化財センター・職員	文京遺跡出土石鏃（石器類）	研究	熟覧
11	6/8	愛媛大学法文学部・教員	文京遺跡 20 次調査 SC-35 出土遺物	教育（教材）	熟覧
12	6/14	松山短期大学・学生	文京遺跡シンポジウム資料集	レポート作成	その他
13	6/23	松山市埋蔵文化財センター・職員	文京遺跡 13 次調査弥生土器	研究	熟覧･実測
14	7/1	松山市在住個人	文献コピー	研究	送付依頼
15	7/15	中村市教育委員会・職員		研究	施設見学
16	7/29	愛媛大学工学部・学生	文京遺跡 13 次調査デジタルデータ	研究	借用
17	8/4	岡山理科大学・教員		研究	施設見学
18	8/6	大阪市文化財協会・職員		研究	施設見学
19	8/6	岡山市教育委員会・職員		研究	施設見学
20	8/30	松山市考古館・学芸員	文京遺跡 10・12・14 次調査記録写真	展示･印刷物への掲載	熟覧
21	8/31	愛媛大学工学部・学生	文京遺跡 調査区デジタルデータ	研究	借用
22	9/10	松山市生涯学習振興財団・学芸員	文京遺跡 10・12・14 次調査記録写真	展示･印刷物への掲載	借用･掲載依頼
23	9/17	高麗大学・教員	文京遺跡 14 次調査出土石器	研究	
24	9/21	愛媛大学理工学研究科・大学院生			施設見学
25	9/24	松山市生涯学習振興財団・学芸員		展示･印刷物への掲載	借用･掲載依頼
26	9/26	松山市生涯学習振興財団・学芸員		展示･印刷物への掲載	借用書
27	9/28	松山市生涯学習振興財団・学芸員			見学依頼
28	9/28	松山市生涯学習振興財団・学芸員		展示･印刷物への掲載	借用書
29	10/18	愛媛大学理工学研究科・大学院生	図書	研究	借用
30	10/27	愛媛大学理工学研究科・大学院生	埋蔵文化財地図データ	研究	熟覧
31	11/2	大阪大学考古学研究室一行（36 名）	文京遺跡出土資料および埋蔵文化財調査室	研究･教育	見学･熟覧
32	11/4	愛媛大学法文学部・教員	文京遺跡 12 次調査炭化米	教育（教材）	借用
33	11/11	愛媛大学法文学部・教員	文京遺跡石器６点	教育（教材）	借用
34	11/16	愛知県在住個人	『樽味Ⅳ』･『年報 1999・2000』	研究	送付依頼
35	11/17	大阪大学文学部・学生	文京遺跡 13・25 次調査土製支脚	研究（卒業論文作成）	熟覧･実測･撮影
36	11/12	愛媛県歴史文化博物館・館長事務取扱	文京遺跡 24 次調査破鏡	講座資料への掲載	掲載依頼
37	11/25	愛媛大学法文学部・教員	文京遺跡 24・25 次調査土器５点	教育（教材）	借用
38	11/26	東亜大学・教員	文京遺跡出土遺物	研究	熟覧
39	11/26	愛媛大学附属小学校・児童２名（他保護者１名）		教育（小学校授業）	整理体験
40	11/27	筑波大学・大学院生		研究	熟覧
41	11/27	早稲田大学・大学院生		研究	熟覧
42	11/27	北九州市埋蔵文化財調査室・職員		研究	熟覧
43	11/28	長野市埋蔵文化財センター・職員		研究	熟覧
44	11/28	宮内庁書陵部・職員		研究	熟覧
45	11/28	東京国立博物館・職員		研究	熟覧
46	11/29	鹿児島大学総合博物館・教員		研究	熟覧
47	12/11	山口県立博物館・学芸員	報告書	研究	熟覧
48	12/12	広見町教育委員会・職員	報告書	研究	借用
49	12/14	愛媛大学法文学部・教員	文京遺跡土器３点	教育（教材）	借用
50	12/19	松野町教育委員会・職員	報告書	研究	熟覧
51	12/22	愛媛大学法文学部・教員	文京遺跡弥生土器(甕)	教育（教材）	借用
52	12/24	愛媛大学法文学研究科・大学院生	報告書	研究	借用
53	1/7	コーポレイトソフトウェア・職員		見学	施設見学
54	1/13	東京国立博物館・職員	文京遺跡 25 次調査硯	研究	熟覧
55	1/21	愛媛大学法文学部・教員	文京遺跡測量基準点データ	研究	測量
56	2/28	松山市埋蔵文化財センター・職員	文京遺跡測量基準点データ	調査研究	測量
57	3/4	鬼北町教育委員会・職員	樽味遺跡２次調査土師器	研究	熟覧
58	3/25	ＮＨＫ松山放送局・職員	文京遺跡練兵場関連遺物	取材	熟覧

表６　調査室・調査室資料の利用推移と調査・刊行物

年度	学内教員	学内学生	学外	総数	調　　査	刊　行　物
1998			25	25	文京 18 次，樽味５次	『発掘愛媛大学』，『文京シンポ』
1999	3	0	17	20	文京 19 次，文京 20 次	
2000	4	14	6	24	文京 21 次	『年報 1995・1996 年度』
2001	3	2	17	22	文京 23 次，文京 24 次，樽味６次	『年報 1997・1998 年度』
2002	7	2	12	21	樽味７次，文京 25 次，文京 26 次	『樽味Ⅳ』，『年報 1999・2000 年度』
2003	11	3	28	42	文京 27 次，文京 28 次	『文京Ⅲ』，『年報 2001・2002 年度』
2004	13	5	40	58		『文京Ⅳ』，『年報 2003 年度』

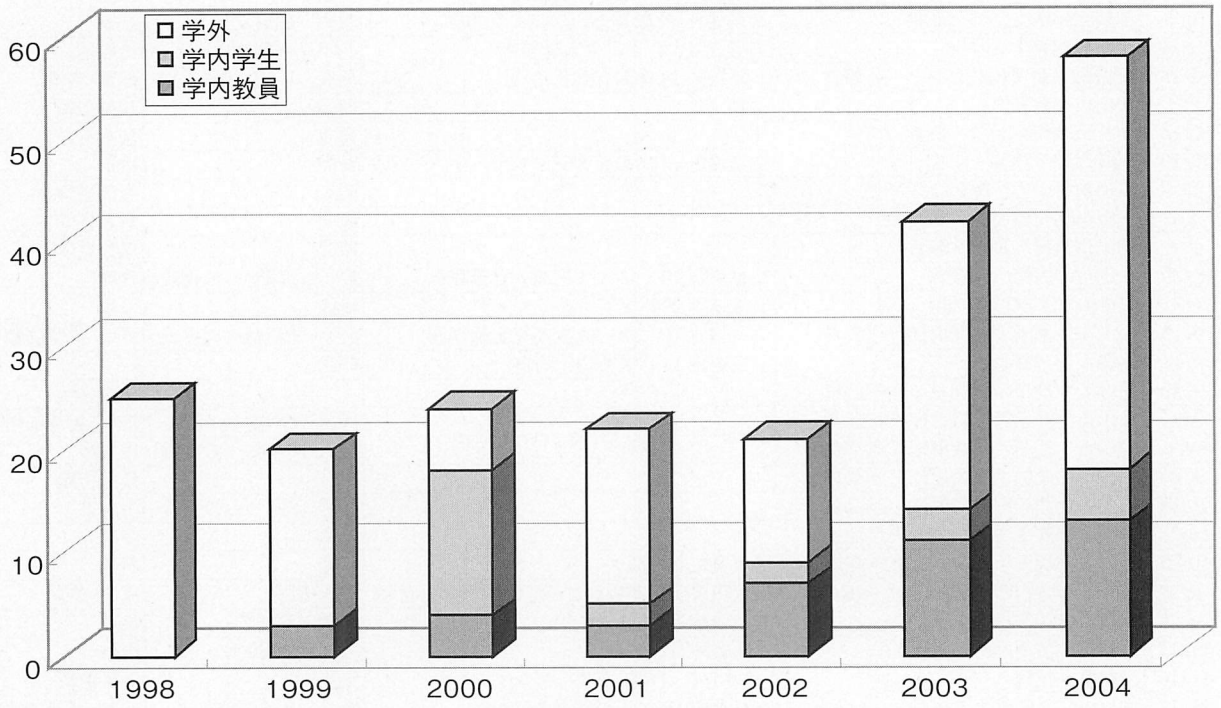


図６　調査室・調査室資料の利用推移

や松山市考古館からの借用や掲載依頼をはじめ、大学教員・学生や埋蔵文化財調査機関の調査研究員や担当者による、研究目的での資料調査依頼が多い。また、一般市民からの情報提供依頼や、報道関係からの取材などもある。

なお、調査員の個人研究として、埋蔵文化財調査室資料の学内外における有効な活用法について、学内関連分野の教員・学生と研究会を開催してもいる。

資料の利用状況について統計を取り始めた 1998 年度からの利用数の推移を示したのが、表６・図６である。2003 年度からの増加が明瞭であり、報告書刊行やホームページ開設による情報発信が、大きく影響していると言えよう。　（吉田）

7　愛媛大学保管・所蔵の考古資料について

2004年度埋蔵文化財調査委員会においては、議題その他として、愛媛大学保管・所蔵の考古資料の取扱いが取上げられた。（吉田）

(1) 資料の現状

愛媛大学内では、埋蔵文化財調査室以外でも、考古資料を保管・所蔵している場合がある。研究・教育上の資料として保管・活用している法文学部考古学研究室はもとより、調査室設置以前の大学構内出土資料や、考古学研究室設置以前の研究・教育資料、附属小中学校の教育資料などである。これらについて、忘失資料の存在や資料の放置状態といった現状が説明された。具体的には、附属小学校保管・所蔵所蔵資料（金庫・３階展示ケース・４階展示ケース）、附属中学校保管・所蔵資料（社会科資料室・階段展示ケース）、附属図書館保管・所蔵資料（２階展示資料・３階）、そして旧愛媛大学歴史学研究会保管資料である。中には、錆などの腐食が進み、早急に整理する必要のある資料も存在し、専門的な観点からの保管・管理の必要性が強調された。（吉田）

(2) 旧愛媛大学歴史学研究会保管資料の取扱い

特に2003年度末に廃部となった愛媛大学歴史学研究会保管の資料については、顧問であった川岡教官から埋蔵文化財調査室長宛に、資料の保管・整理と、将来にわたる保管、あるいは収蔵先の選定が依頼され、既に埋蔵文化財調査室に資料を移動しており、これについては委員会の席上でも、川岡委員から謝意が表された。

埋蔵文化財調査委員長からは、旧愛媛大学歴史学研究会保管資料について、愛媛大学に保管・管理の法的義務はないが、これまでの経緯から愛媛大学が対応しなければならないことが表明された。そして、愛媛大学内に保管されている埋蔵文化財資料については、埋蔵文化財調査室で対応するという方針と、予算や具体的な内容については今後の課題とすることが、確認された。（吉田）

(3) 旧愛媛大学歴史学研究会保管資料の整理

埋蔵文化財調査室で整理・保管することとなった、旧歴史学研究会保管資料については、一通りの整理・台帳化を行った結果、コンテナ20箱分に達することが判明した。しかし、約半数は出土地不明の遺物である。また、出土地が明らかなものでも、これまで報告されていない資料がほとんどで、かつて歴史学研究会において報告されたものでも、当時の刊行物が十分流布していないのと、今日的な視点から再検討・調査を要するものが少なくない。

埋蔵文化財調査室では、このような状態の資料について、実測図作成や写真撮影による資料化を図り、その成果を『愛媛大学埋蔵文化財調査室年報』において、順次報告していくこととした。さらには旧歴史学研究会保管資料以外の前記した資料につても、同様に整理・報告を考えている。

なお、旧歴史学研究会保管資料については、本書Ⅳにおいて、全体の概要及び整理状況と、一部資料の詳細を報告しているので、参照されたい。（吉田）

Ⅱ　２００４年度の発掘調査

00401　事務局敷地内看板基礎工事に伴う調査

調 査 地 点　松山市道後樋又 10 番 13 号
　　愛媛大学城北団地事務局構内
調 査 面 積　2.5 ㎡
調 査 期 間　2004 年 7 月 15 日
調査の種別　立会調査
調 査 担 当　吉田広・三吉秀充
依 頼 文 書　経理部主計課長発事務連絡
　　（平成 16 年 4 月 15 日付）

1　調査にいたる経緯

放送大学愛媛学習センターの拡充に伴い、同センター案内標識板の設置が順次行われてきた。愛媛大学正門内部については、昨年度に既に立会調査を行ったが（調査番号：00303）、今回、事務局構内南西隅部に位置する「愛媛大学正門→」の看板に、放送大学愛媛学習センター案内を新たに加えることが計画され、放送大学愛媛学習センター及び経理部管財係と、埋蔵文化財に対する調整を行うこととなった。

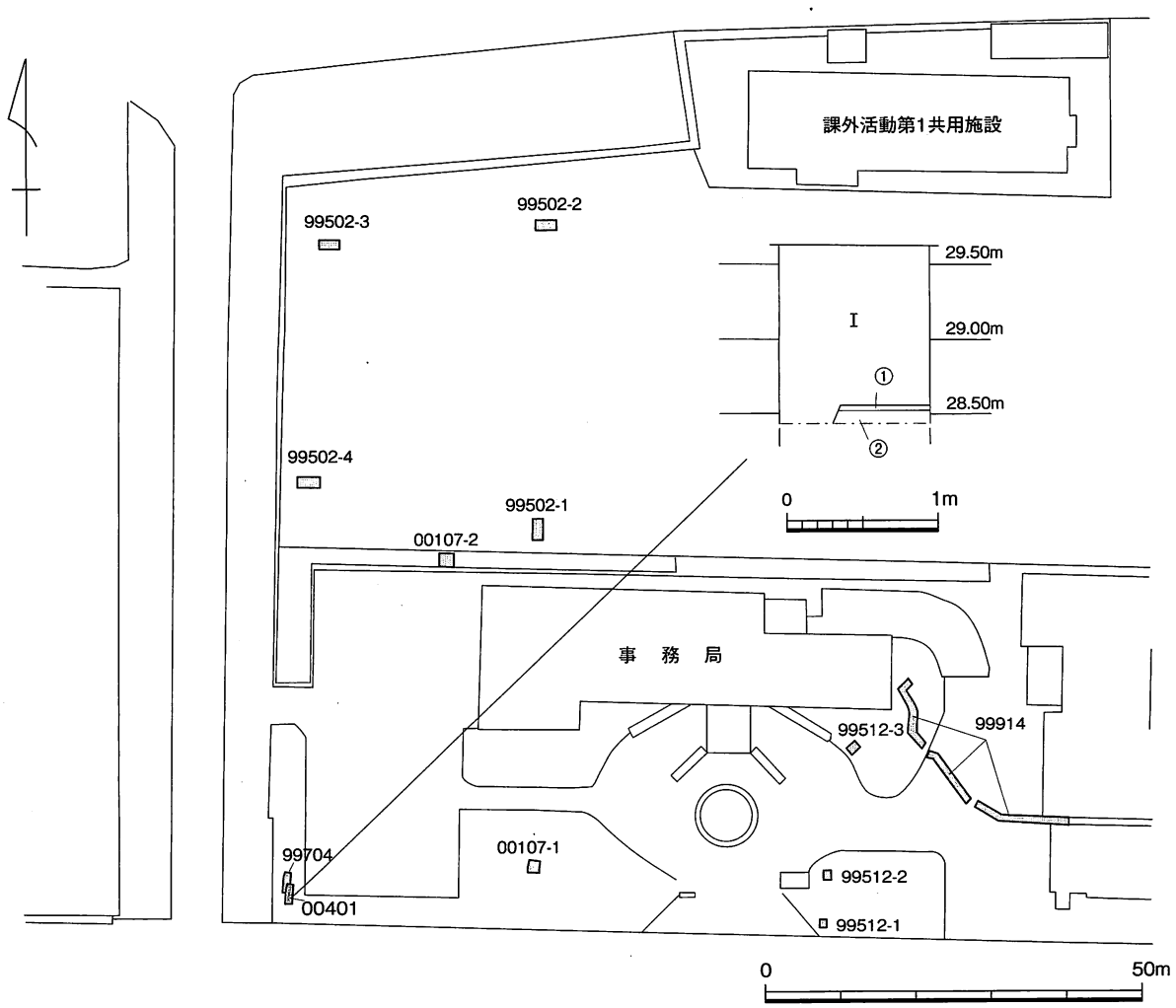


図７　00401 調査地点位置図及び土層柱状図（縮尺 1/1,000、1/50）

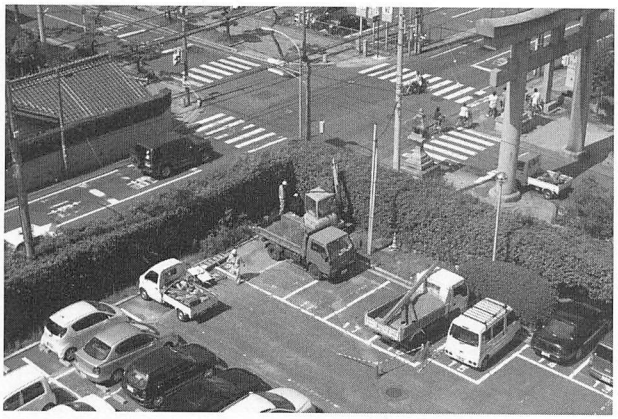


写真５　00401 調査区遠景（北東から）

写真６　00401 調査区西壁土層（北東から）

地盤掘削を伴う工事としては、既存の看板の更新であるが、看板自体の大型化により、相応する基礎工事の更新も必要とされた。具体的には、現地表下 120 cm の掘削深度である。既存の看板設置では、現地表下 80 cmまでコンクリート塊を伴う表土層であることを確認しており（調査番号:99704）、それ以下について、立会調査を実施することとした。

2　調査の記録（図７、写真５・６）

調査区南部では、掘削を行った現地表下 120 cmまで瓦礫を伴ったⅠ層が続く。一方、調査区北側は、現地表下 105 cmで①層、110 cmで②層上面を検出した。①層は灰色砂質シルトで、１㎜前後の砂粒を含む。②層は、にぶい黄橙色シルト。層上面約３cm幅を中心として鉄分の沈着により、明黄褐色を呈する部分が見られる。層中には、３㎜前後のマンガン粒が多数見られ、１～３㎜大の砂粒・砂礫が多く混じる。

①・②層は、鉄分やマンガンの沈着層やラミナ状堆積が見られることなどから、調査区が狭いため断定はできないが、水田層あるいは河川内の堆積層の可能性が考えられる。①・②層からは中世土師器が１点出土しているのみで、時期を特定するのは難しい。①層に関しては、城北団地基本層序のⅡ層（近世～近代の水田層）である可能性もあるが、現状では、当該期の遺物などを混入していないことから、異なる堆積層と考えておきたい。

3　調査後の対応

以後の慎重工事を依頼して、調査を終えた。

（吉田･三吉）

00402　避難標識整備事業関連工事に伴う調査

調 査 地 点　松山市樽味３丁目５番７号
　　愛媛大学樽味団地
　　松山市文京町３番
　　愛媛大学城北団地
調 査 面 積　2.6 ㎡
調 査 期 間　2005 年１月 24・25・31 日
調査の種別　立会調査
調 査 担 当　吉田広・三吉秀充
依 頼 文 書　財務部企画課資産管理チーム
　　チームリーダー発事務連絡
　　（平成 16 年 12 月 10 日付）

1　調査にいたる経緯

愛媛大学では、運動場及び体育館を地震等自然災害時の一時避難場所・避難所として地域住民が使用できるよう、松山市と平成 13 年６月 18 日付けで覚書を交わした。これに伴い、災害時避難場所を表示する標識を新たに設置することとなった。これまでの大学構内における諸工事同様、埋蔵文化財調査室へ工事内容が照会されたが、設置場所は大学構内となるものの、松山市に愛媛大学が土地無償貸し付け契約を行い、工事については松山市負担の工事となるとのことであった。提示を受けた工事地点は３箇所。うち持田団地については埋蔵文化財への影響がないと判断できたが、

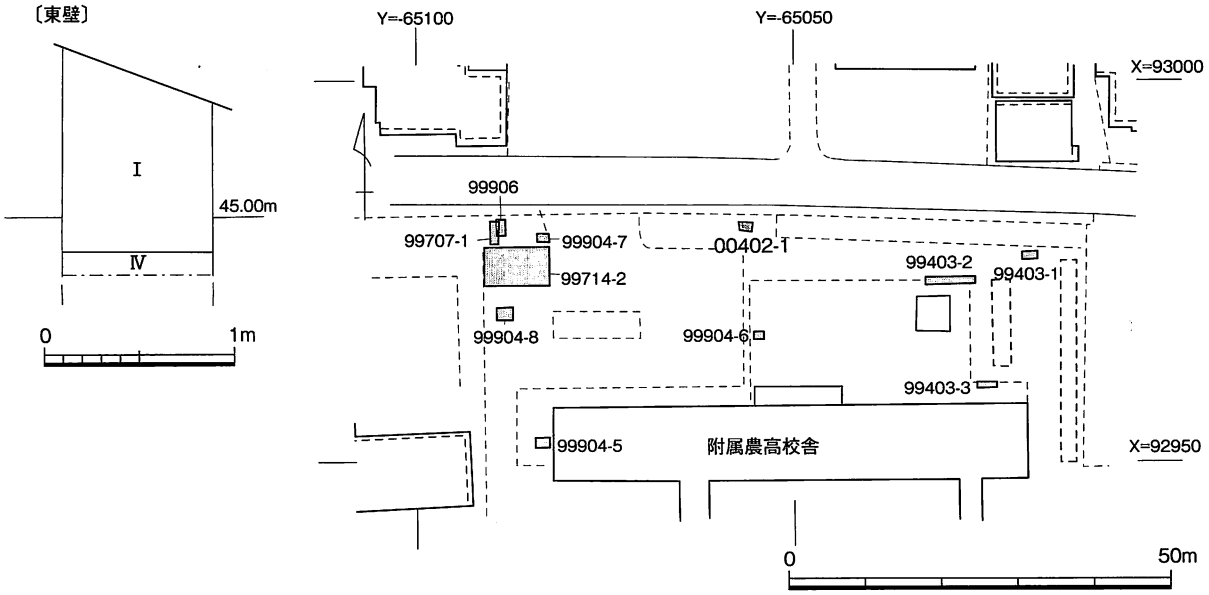


図８　00402 調査１トレンチ位置図及び土層柱状図（縮尺 1/1,000、1/40）

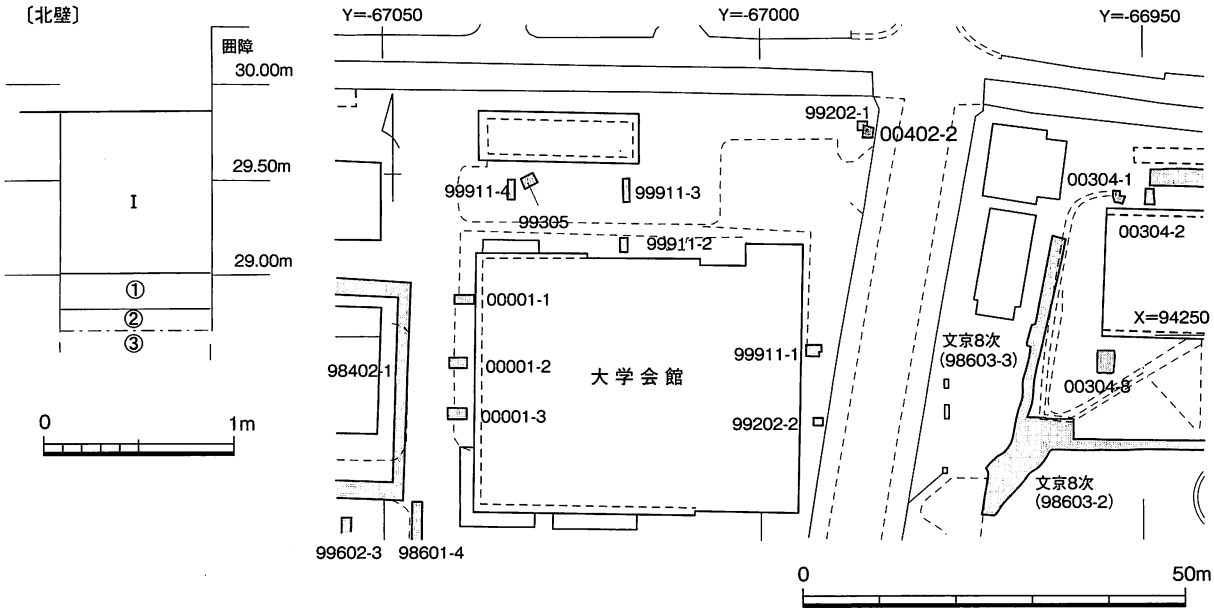


図９　00402 調査２トレンチ位置図及び土層柱状図（縮尺 1/1,000、1/40）

樽味団地・城北団地については、工事に伴って埋蔵文化財へ影響が及ぶ可能性が高いと判断でき、その旨を回答した。また、調査は軽微なことが予測されたため、松山市発注の工事に伴い、埋蔵文化財調査室において、立会調査を実施することとした。

１月 24 日に樽味団地の調査（１トレンチ）を終え、翌 25 日に城北団地学生部建物東側の２トレンチに着手したが、表土掘削時に東側囲障植栽への井水給水管が現れ、トレンチ自体を変更せざるを得なくなった。周辺に適当な場所がなかったため、大学会館北東部に設置することが提起されたが、同地点においても、埋蔵文化財に影響の及ぶことが予測でき、同様の立会調査を要する旨を伝えた。ただし、新たな設置場所について、大学役員会の承認を得る必要があるとともに、松山市消防局防災対策課でも設置場所の再確認を行う必要があり、それに時間を要し、再調査に及んだのは１週間後の１月 31 日のことであった。

写真７　00402 調査１トレンチ（西から）

写真８　00402 調査２トレンチ（南西から）

２　調査の記録

［１トレンチ］（図８、写真７）

附属農業高等学校運動場を災害時避難場所とする標識設置に伴うトレンチで、附属農業高等学校正門東側の、北側囲障内側に位置する。調査地点は、囲障に向かって北側が高く、南側が約 30 ㎝低い。この高い北側を基準に、現地表下 120 ㎝の掘削を行った。結果、現地表下約 110 ㎝・標高約 44.8 ｍで、樽味団地基本層序のⅣ層が現れ、掘削深度内に続く。この地点のⅣ層は、２㎜前後の砂礫がやや混じり、しまり・粘性のややある黄褐色砂質シルトである。出土遺物はない。

［２トレンチ］（図９・10、写真８）

城北団地運動場を案内する標識設置に伴うトレンチである。先にも述べたように、当初は学生部東側に設定されていたが、計画変更により大学会館北西側地点を調査することとなった。掘削深度はやはり現地表下 120 ㎝。85 ㎝前後まで重機掘削し、土層に変化が見られた以下を人力により掘削した。なお、２トレンチの北西側は、99202-1 トレンチが一部重複していたようであるが、99202-1 トレンチの掘削深度は 60 ㎝に留まり、今回の調査では表土層の範囲内に収まる。

まず、現地表下 120 ㎝・標高約 29.0 ｍから 18 ㎝の厚さで、１㎜前後の砂粒が多く混じり、しまりのやや弱い黄褐色砂質土（①層）があり、粒度の異なる砂質土が縞状に互層堆積する。流水に伴う堆積土である。その下は、10 ㎝前後の厚さに、0.5 ㎜以下の砂粒と炭化物を少し含み、シルト質がややあり、しまりもある黄褐色砂質土（②層）となる。斑状に鉄分が沈着している。そして、掘削範囲内の底面、標高約 28.7 ｍでは、１㎜前後の砂粒と炭化物をやや含み、シルト質を②層よりやや増した黄褐色砂質土（③層）となる。鉄分の沈着も強く、しまりもある。出土遺物は、①層から１点土師器坏底部が出土している。やや薄いが、盤状高台で、回転糸切り等は認められない。10 世紀前後か（図 10）。

以上のような土層は、③層を床土、②層を耕作土、①層を流水性の覆土とする水田関連土層である可能性が高い。また①層の出土遺物から、水田の時期が、古代末中世初め頃にまで遡る可能性も想定できる。ただし、周辺既往調査との土層の対応をみると、南側の 99911-1 調査では、標高約 29.0 ｍで城北団地基本層序のⅡ層、標高約 28.6 ｍで城北団地基本層序のⅢ層となり、西側の 99911-3 調査では、Ⅰ層直下の標高 28.2 ｍで城北団地基本層序のⅣ層が現れている。つまり、今回の調査地点で検出した土層は、レベル的に城北団地基本層序Ⅱ層の範疇に収まる可能性もあるのである。しかし、これまで検出してきたⅡ層との差異もあり、下流で 18・25 次調査の谷部に連なる落ち込みとは別の、微高地を挟んだ北側の谷部に営まれた水田層の一端が、城北団地北端で見い出された可能性をより強く想定しておきたい。

３　調査後の対応

いずれのトレンチにおいても、以後の慎重工事を依頼して、調査を終えた。　（吉田・三吉）

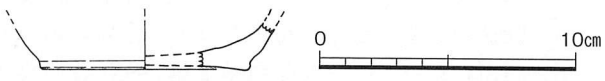


図 10　00402 調査出土遺物実測図（縮尺 1/3）

00403　工学部講義棟便所改修電気設備工事に伴う調査

調 査 地 点　松山市文京町３番
　　愛媛大学城北団地
調 査 面 積　8.7 ㎡
調 査 期 間　2005 年３月１日
調査の種別　立会調査
調 査 担 当　田崎博之・三吉秀充
依 頼 文 書　施設基盤部施設整備課長発事務連絡
　　（平成17年１月13日）

１　調査にいたる経緯

2005 年１月 11 日に施設基盤部施設整備課から、工学部講義棟の東西２ヶ所で、電力・情報通信外線の電線地中管路の埋設と、汚水枡の新設と汚水管路の埋設を行う計画が提示され、埋蔵文化財への影響が問い合わされた。周辺の調査成果に基づいて既設管路上に埋設するなど埋蔵文化財への影響がないように回答していたが、２月 23・24 日に協議で、汚水枡の新設と汚水管路の埋設については当初計画よりも深く掘削されることがわかり、調査費用の一部を埋蔵文化財調査室運営費で支出して立会調査を実施することとなった。また、電線地中管路の埋設については、当初、既設管路の上部に埋設される計画で埋蔵文化財には影響がないものと判断していたが、調査当日、建物内への引き込み部分は設計よりも深く掘削されることになり、急遽調査を実施した。

２　調査の記録

工学部講義棟西側の汚水枡新設と汚水管路埋設部分を１トレンチ、東側の電力・情報通信外線の電線路地中管埋設部分を２トレンチとして調査を進めた（図 11）。

［１トレンチ］（図 12、写真９～ 16）

１トレンチは、工学部講義棟と工学部機械実習工場の間に位置する（写真９）。周辺では、文京遺跡６次調査Ⅱ区と 99308 調査１トレンチがある。後者部分はすべて既往の工事で破壊・攪乱されていたが、前者では小穴（SP- １・２）や土器集積遺構（SX- ３）などが出土している（図 12）。

１トレンチの大部分が既設の汚水管路や講義棟余掘り部分で破壊されていたが、地表下 20 ㎝で城北団地の基本層序である団地造成以前の水田層のⅡ層、30 ㎝で弥生時代～中世の遺構と遺物を包含するⅢ層があらわれた（写真 10・11）。Ⅲ層は暗褐色砂質シルトである。Ⅲ層の掘り下げ中に、東西方向の帯状にやや灰色みをおびた砂礫混じりの暗褐色砂質シルトの広がりを検出した。東側の講義棟余掘り部分の壁で断面を観察したところ、断面Ｕ字形の溝であることを確認でき、SD- １とした（写真 12 ～ 14）。

SD- １の大半は調査範囲北側にのび、溝幅は 40 ～ 50 ㎝と推測される。６次調査Ⅱ区でも、これに対応する幅 35 ㎝前後の落ち込みが確認されている。埋土は、上部の①層、中部の②層、下部の③層に分層できる。①層はにぶい褐色砂質土で、１～２㎜の砂礫が多く混じる。②層は灰黄褐色砂質土で、まれに１㎜強の砂粒を含むが、大半は１㎜未満の砂粒主体。ラミナが発達している。③層はにぶい黄褐砂質土で、灰色の粗砂のラミナが混じる。②・③層は流水による堆積物である。①～③層から弥生土器の胴部破片が点々と出土している。出土遺物は弥生土器ばかりであるが、埋土がやや灰色みを帯び、周辺の文京遺跡 13・20 次調査で同様の埋土をもつ遺構が古代～中世に比定されることから、SD- １も当該段階の水路と考える。

SD- １を完掘した後、溝底から壁面にかかって、SD-1 に切られる柱穴である SP- ２を確認した。砂礫が多く混じる暗褐色砂質シルトの埋土で、18 × 16 ㎝、深さ 20 ㎝ほどの不整楕円形の立柱痕跡をもつ。掘り形埋土から弥生土器の胴部細片が出土している。しかし、周辺の調査では砂礫が混じる暗褐色砂質シルトを埋土とする遺構が古墳時代後期に比定されることから、当該期の遺構と判断した。

SD- １・SP- ２の調査を終わり、城北団地の基本層Ⅳ層部分の調査を行った。Ⅳ層はトレンチの東西でかなり違った様相をみせる。トレンチ西半部では、上部に明黄褐色シルトのⅣ -1 層、下部に明黄褐色細砂土のⅣ -2 層が堆積する。Ⅳ -1・2 層ともに土質はしまりがあり、ほぼ水平に堆積している（写真 15）。これに対して、トレンチ東半部では、Ⅳ -3 ～６層が東側に沈み込むように堆積する。Ⅳ -3 層は灰黄褐色砂質土。２㎜以下の砂礫が混じる。Ⅳ -4 層は明黄褐色砂質土で、１㎜未満の細砂からなる。Ⅳ -5 層は灰黄色砂質土で、

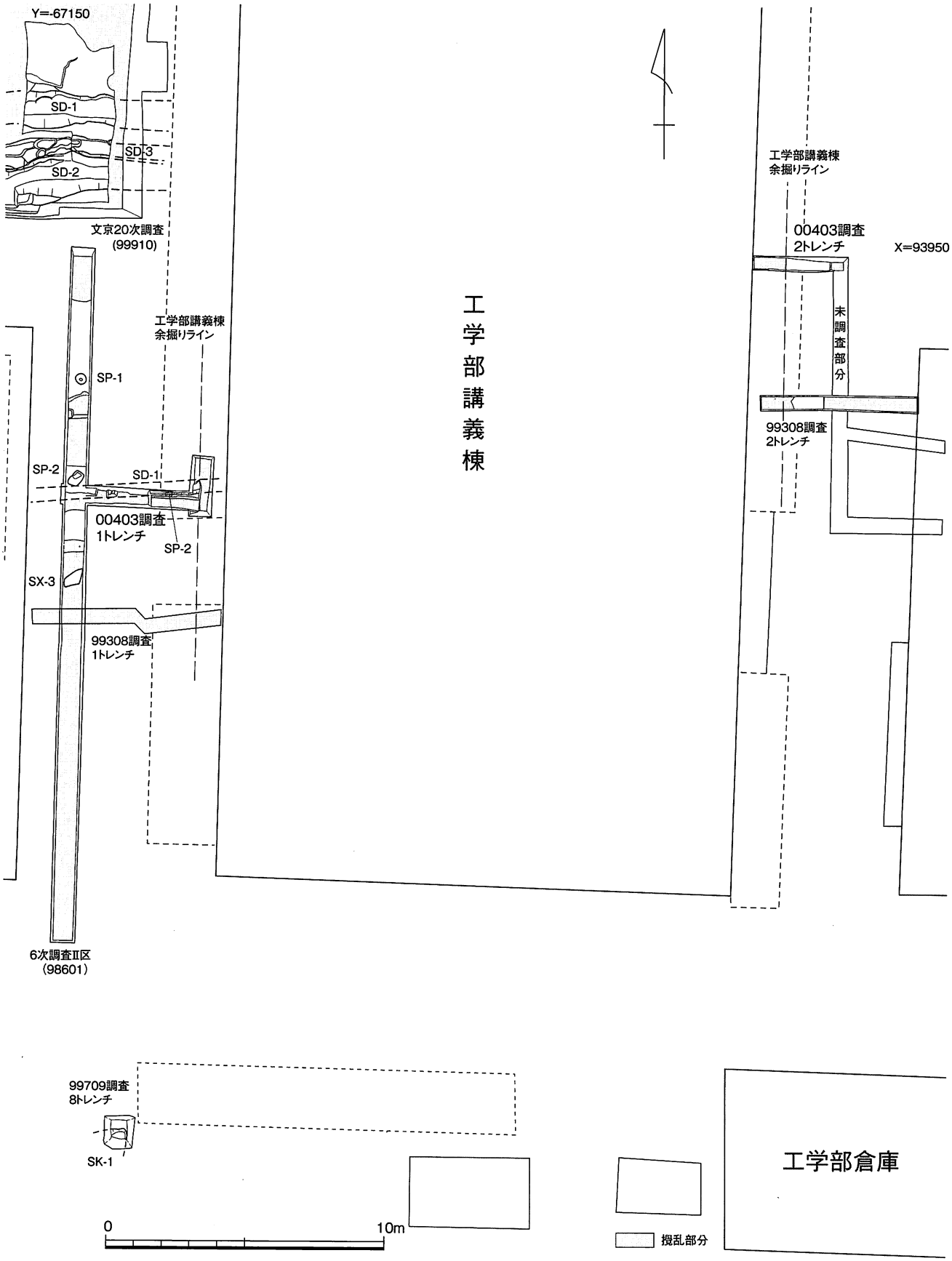


図 11　00403 調査地点位置図（縮尺 1/200）

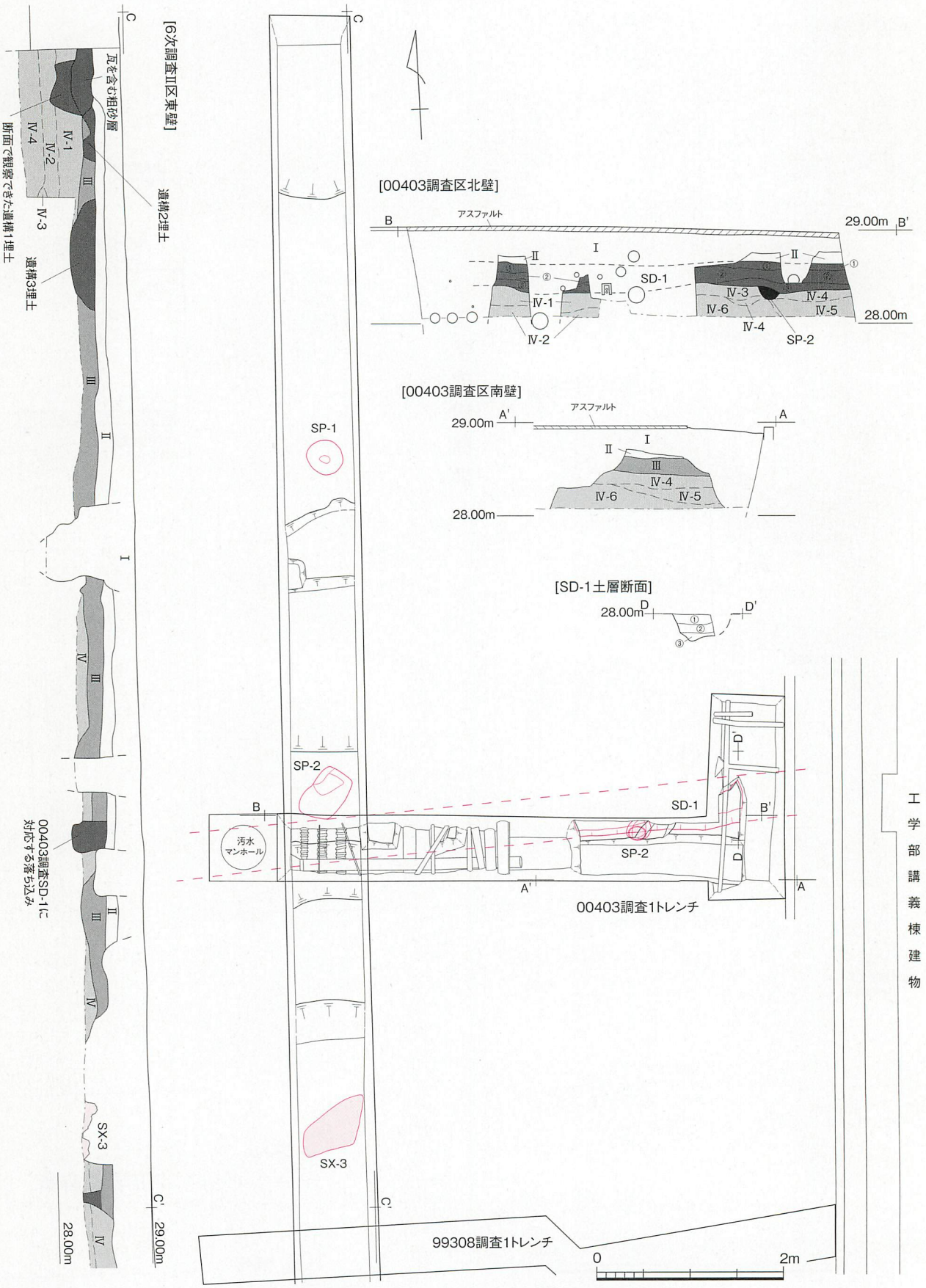


図 12　00403 調査 1 トレンチ及び周辺調査区実測図（縮尺 1/60）

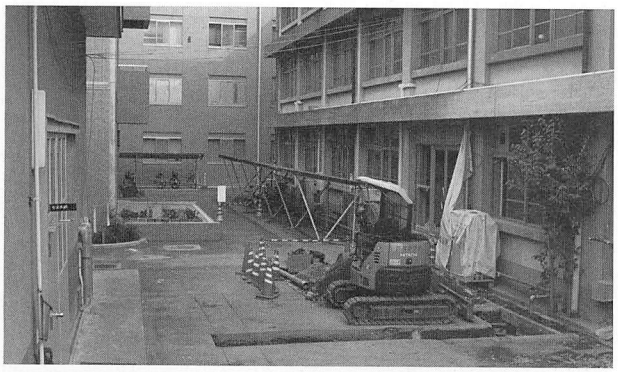


写真９　00403 調査１トレンチ位置（南から）

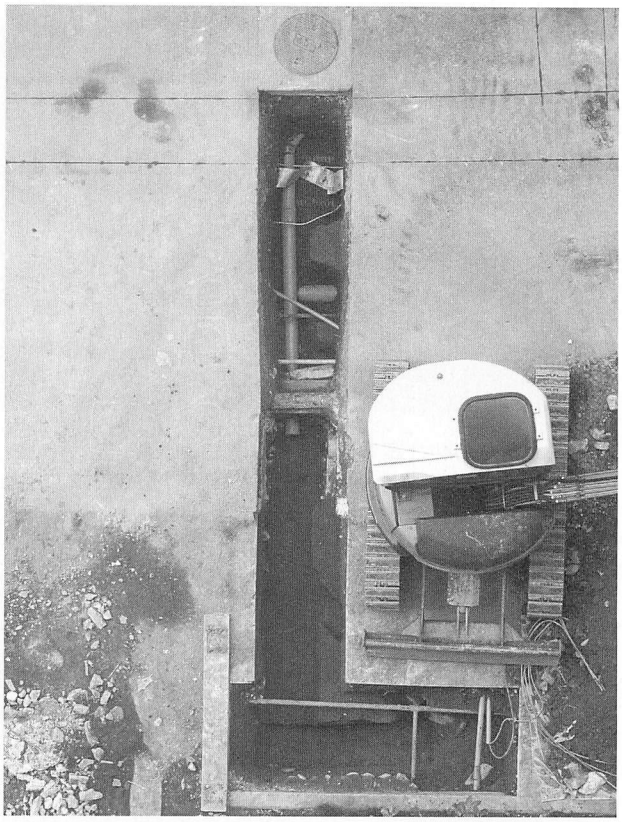


写真 10　00403 調査１トレンチⅢ層残存状況（東から）

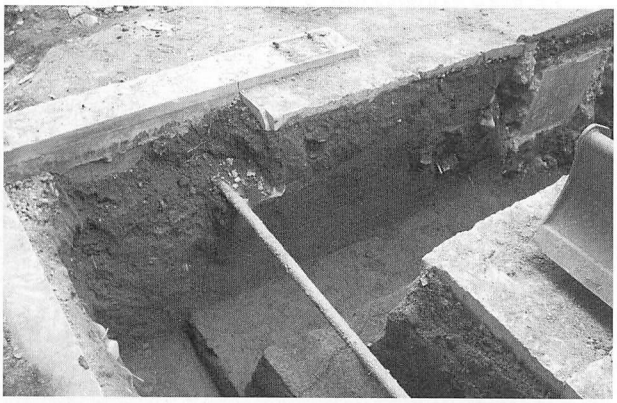


写真 11　00403 調査１トレンチ南壁東半土層（北東から）

写真 12　00403 調査１トレンチ SD-1 検出（東から）

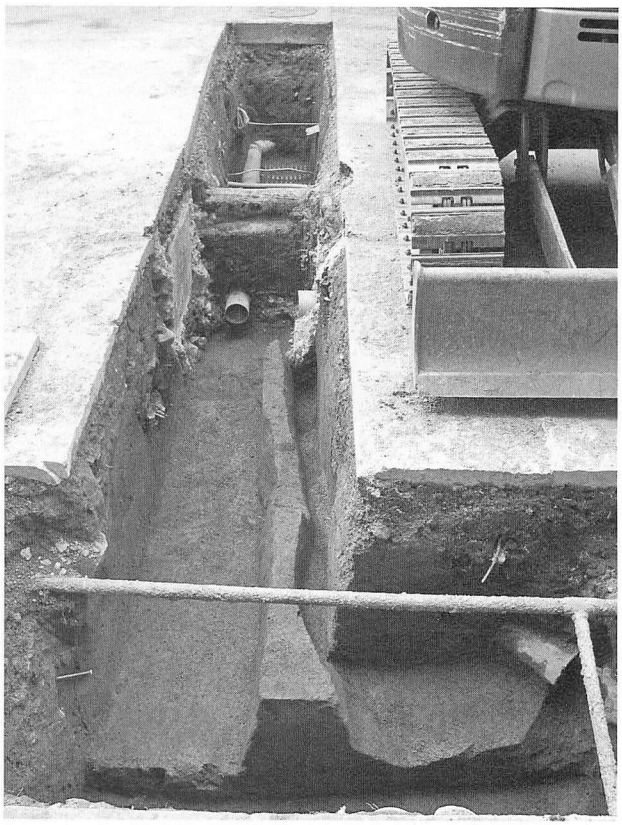


写真 13　00403 調査１トレンチ SD-1 完掘（東から）

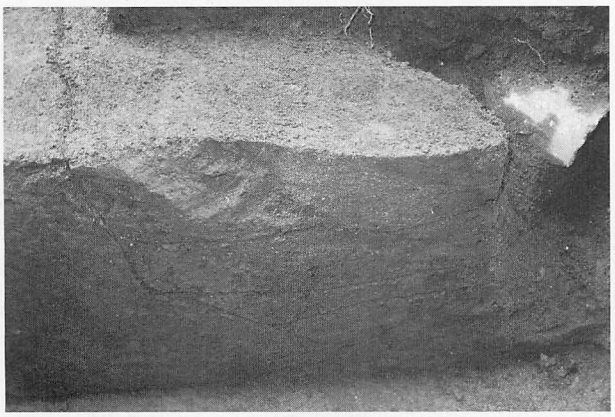


写真 14　00403 調査 1 トレンチ SD-1 土層（東から）

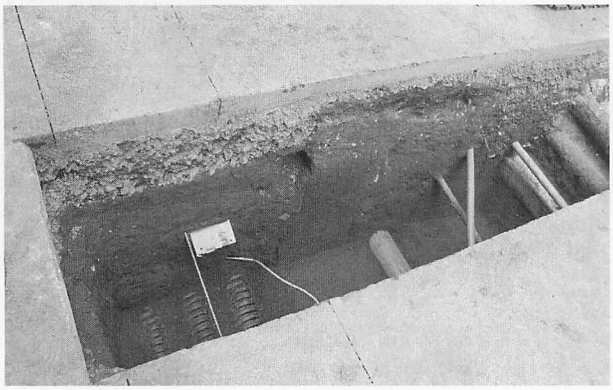


写真 15　00403 調査 1 トレンチ北壁西半土層（南西から）

写真 16　00403 調査 1 トレンチ北壁東半土層（南から）

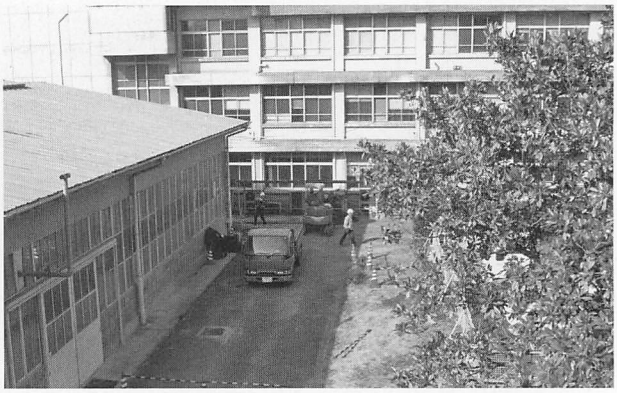


写真 17　00403 調査 2 トレンチ位置（東から）

写真 18　00403 調査 2 トレンチ完掘（東から）

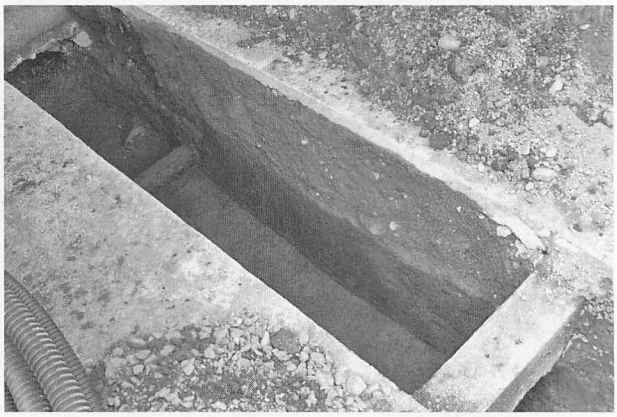


写真 19　00403 調査 2 トレンチ北壁土層（南東から）

1 ㎜未満の細砂からなる。Ⅳ -6 層は黄灰色砂質土で、1 ㎜～親指先大の円礫が混じる（写真 16）。Ⅳ -3 ～ 6 層はいずれも粗砂・細砂のラミナが発達している。Ⅳ -3 ～ 6 層部分は、Ⅳ -1・2 層を切り込む流路堆積物である可能性が高い。ただし、Ⅳ層中からは遺物はまったく出土していない。

［２トレンチ］（図 13・14、写真 17 ～ 20）

２トレンチは、工学部講義棟東側、電線路管が埋設される管路部分でももっとも北端の、電線路管が工学部講義棟に取り込まれる部分に当たる（写真 17）。2 トレンチとした範囲以外の管路部分は掘削深度が浅いために調査は行っていない。周辺では、99308 調査 2 トレンチで、Ⅲ層上部から炭化物や弥生土器の細片、下部から小礫が少量出土している（図 13）。

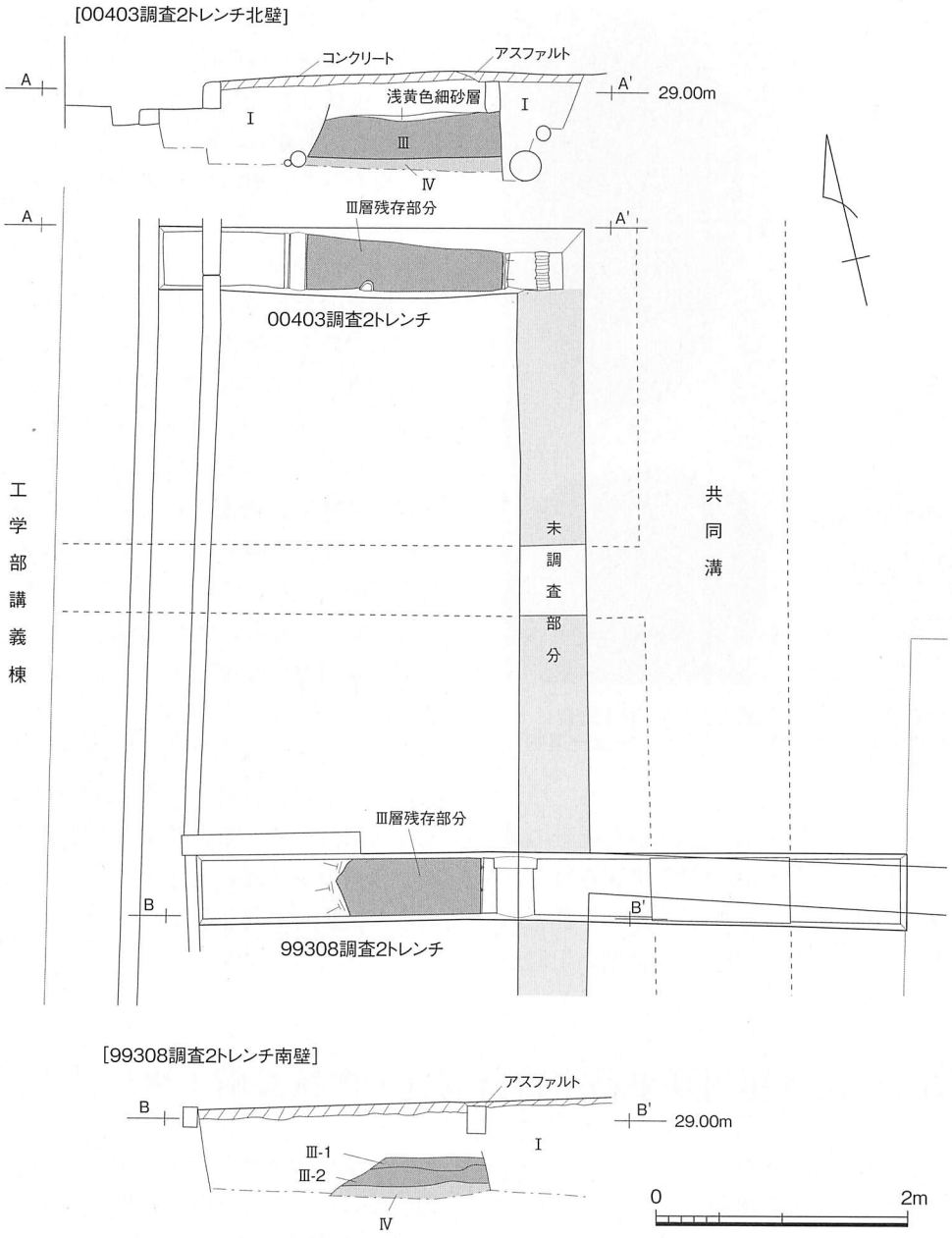


図 13　00403 調査 2 トレンチ及び 99308 調査 2 トレンチ実測図（縮尺 1/60）

表土層を掘り下げていくと、トレンチ北西部の一角で、地表下 35 ～ 40 cmでⅢ層があらわれた。その他は既往の調査・工事で破壊されている。Ⅲ層は灰褐色シルトで、全体に均質な土層であるが、下部近くには明黄褐色シルトの親指先大のブロックが混じる。攪乱部分の壁面で確認したところ、約 35 cmとかなり厚く堆積しているので、遺構埋土である可能性を考え、5 cmごとの人工層位を設定しながら調査を進め、Ⅳ層上面を精査したが、遺構であることは確認できなかった。しかし、Ⅲ層が厚く堆積している状況は、周辺地点の状況と大きく異なることから、依然として遺構内である可能性は残されている（写真 18）。また、Ⅲ層からは、調査区南壁面で敲石が 1 点出土しているだけである。敲石は全長 15.9 cm、最大幅 8.4 cm、最大厚 7.5 cm、重量 1365 g 測る。花崗岩円礫の両端に敲打痕が残る。表面は全体に平滑であるが、擦痕は見られない（図 14、写真 20）。

北壁土層断面の観察中に、Ⅲ層上面に浅黄色細砂が堆積していることを確認した。Ⅰ層によって多くを削られているが、中央部分が少し落ち込みレンズ状に堆

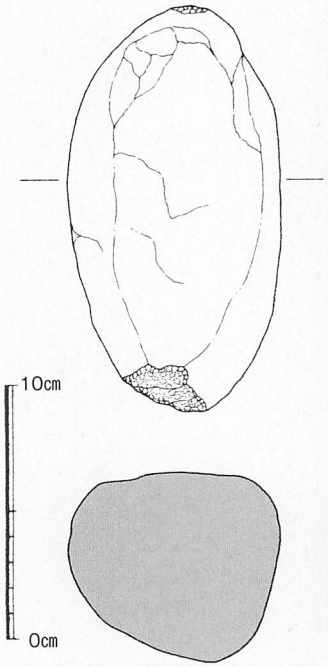


図14　00403調査2トレンチ出土遺物実測図（縮尺1/3）

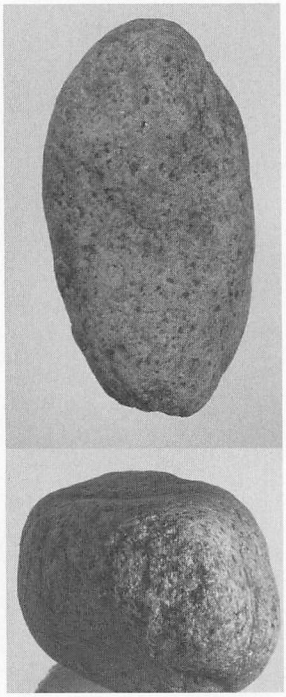


写真20　00403調査2トレンチ出土遺物

積する（写真19）。調査区周辺では古代から近世の溝が多数検出されており、それらの一部と考えられる。

Ⅳ層は明黄褐色シルトで、しまりのある土質である。調査区周辺では、Ⅳ層中で縄文時代後期の土器が混じる炭化物・焼土塊の集積遺構が発見されており、当該期の遺構の可能性が考えられている。そこで、そうした遺構が営まれていたことを考えて、Ⅳ層上面を精査した。しかし、炭化物・焼土粒などはまったく見られなかった。そのためⅣ層以下の調査は行わなかった。

3　調査のまとめ

今回の調査で検出した遺構の中で、1トレンチSD-1は古代～中世の水路と考えられる。周辺では、20次調査で東西方向にのびる当該期の水路群（SD-1～3）が出土している（図11）。また、6次調査Ⅱ区の北端近くでも、断面だけであるが、瓦を含む粗砂層、明褐色粘性土や砂ブロックを含む暗褐色粘性土の落ち込みが確認され、これらも水路と考えられ、古代～中世に比定される可能性が高い。こうした水路群は、当該期の水田を含む耕地開発にかかわるものと考えられる。

2トレンチでは約30cmに及ぶⅢ層の堆積が確認された。工学部講義棟と工学部2学科実習棟間では、東側は共同溝設置の際に攪乱を受けていると考えられるが、西側の工学部講義棟寄りには、途切れ途切れではあるが、Ⅲ層が残存していることを確認できた。

（田崎・三吉）

00404　給与福利課事務室新営電気・機械設備工事に伴う調査

調査地点　松山市文京町3番
　　愛媛大学城北団地
調査面積　3.5㎡
調査期間　2005年3月24日～29日
調査の種別　立会調査
調査担当　田崎博之・三吉秀充
依頼文書　施設基盤部施設整備課長発事務連絡
　　（平成17年1月12日）

1　調査にいたる経緯

2005年1月12日に施設基盤部施設整備課から、城北団地教育学部4号館の東側に給与福利課事務室を新営する計画が提示された。この計画は、以前から工事による埋蔵文化財への影響について問い合わせがあったもので、工事範囲に位置する文京遺跡15次調査3トレンチの調査成果に基づいて、地表下40cmまでの掘削で収めることを申し入れていた。

今回、施設基盤部からは、①事務室建物基礎工事（地表下45cmまで掘削）、②電気配管工事（地表下42cmまで掘削）、③給水・ガス管埋設工事（地表下42cmまで掘削）、④汚水管・汚水枡新設工事（地表下45cmまで掘削）の計画が提示された。そこで、1月13日に、施設整備課長と担当課員を含めた協議を行い、以下を確認し、3月下旬に調査を実施することとした。

①事務室建物基礎工事：掘削の計画深度では、文京遺跡15次調査3トレンチの調査成果から、弥生時代～古墳時代の遺構・遺物が包含される土層の直上面が現れるので、建物基礎部分の砕石層をできるだけ薄くすることで埋蔵文化財に影響がないようにすること。

②電気配管工事および③給水・ガス管埋設工事：計

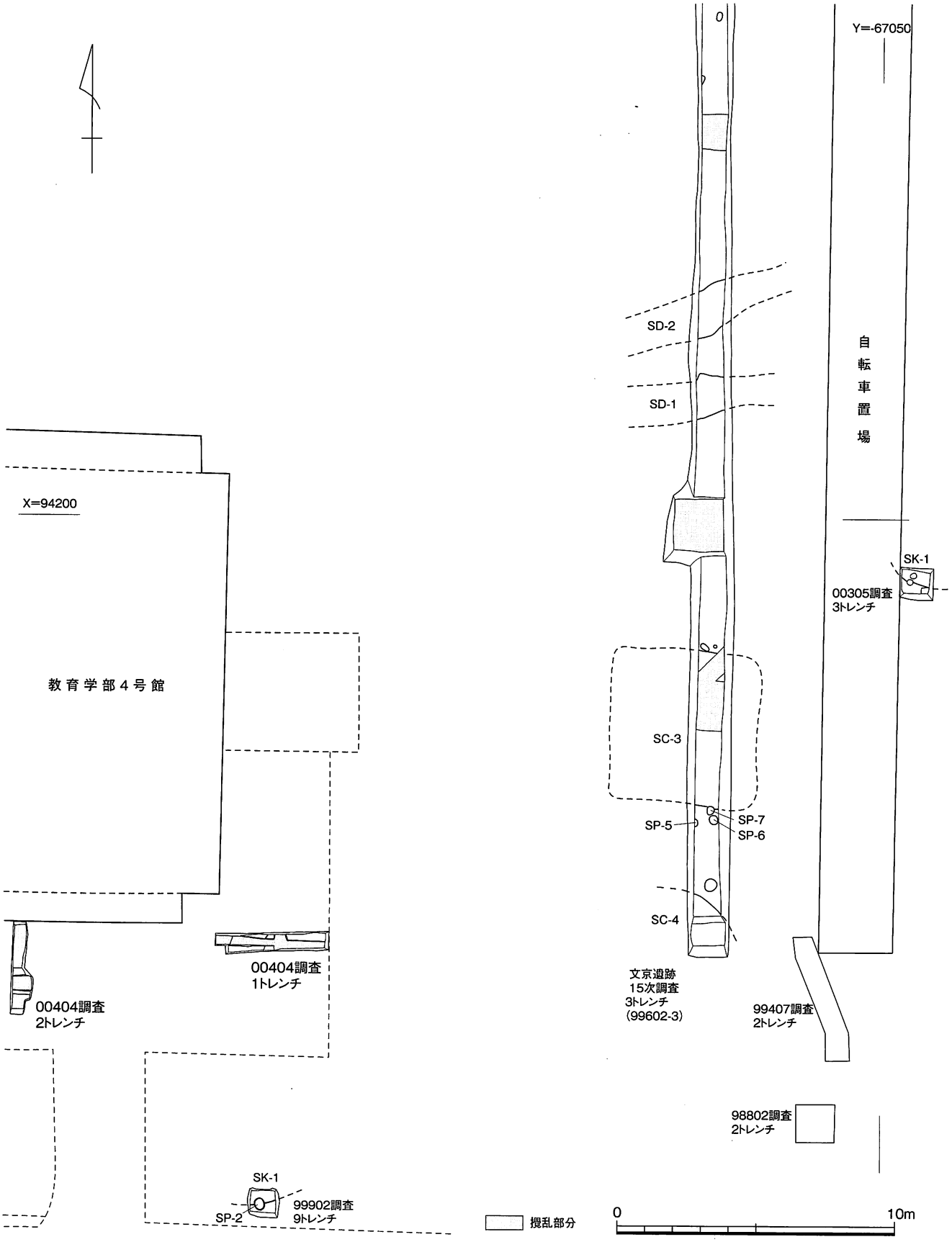


図15　00404 調査地点位置図（縮尺 1/200）

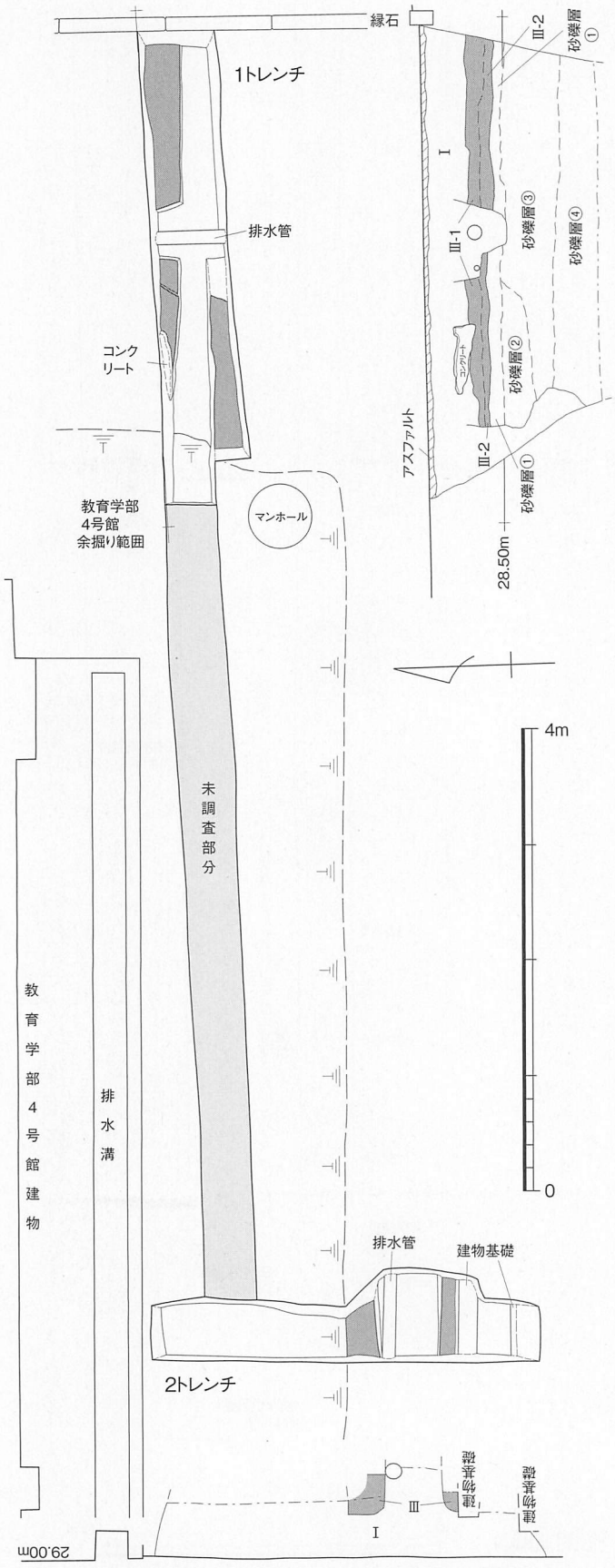


図16　00404調査1・2トレンチ実測図（縮尺1/60）

画された掘削深度では埋蔵文化財には影響がないものと判断され、調査の必要がないこと。

④汚水管・汚水枡新設工事：周辺の99902調査9トレンチの調査成果から、管路部分の一部と枡部で計画されている掘削深度では、弥生時代～古墳時代の遺構・遺物が包含される土層が破壊されると判断される。そのため、立会調査を実施するが、必要な経費の一部（作業員賃金）に埋蔵文化財調査室運営費をあて、重機等については施設基盤部で調整を行うこと。

2　調査の記録

調査は、工事の進捗状況と天候のため、3月24日～29日の4日間で実施した。汚水管・汚水枡が新設される範囲を東側から調査を開始したが、教育学部4号館建物建設時の余掘り部分があらわれた。そこで、余掘り範囲を確実につかむため、教育学部4号館建物に直交する南北方向の調査区を設定することとした。そのため、調査区は2ヶ所となり、汚水管・汚水枡新設部分から教育学部4号館建物の余掘り部分までの調査区を1トレンチ、余掘り部分を確認する調査区を2トレンチとした（図15、写真21）。

[1トレンチ]（図16、写真22・23）

給与福利課事務室と教育学部4号館の間に設けた東西方向のトレンチである。トレンチ西端で教育学部4号館建物の余掘り部分が確認された。表土にあたる造成土層のⅠ層を掘り下げると、基本層序のⅡ層はなく、地表下40㎝でⅢ層があらわれた（写真22）。Ⅲ層は砂礫混じりの黒褐色砂質土で、厚さ20㎝前後を測る。上部のⅢ-1層には2～5㎝大の花崗岩や砂岩の円礫が多く混じるが、下部のⅢ-2層では円礫が少なめである。Ⅲ層中からは点々と弥生土器の細片が出土している。

Ⅲ層の下層は砂礫層で、地表下1.5ｍまで続き、砂礫層①～④層に分層できる。砂礫層①層は灰色みを帯びた暗褐色粗砂層で、Ⅲ層との漸移層である。②層はトレンチ西半で部分的にみられる明褐灰色の粗砂層。③層は2～5㎝大の花崗岩や砂岩や円礫に灰白色粗砂が混じる礫層。④層は灰白色砂礫層で、粗砂・細砂のレンズ状堆積が累積し、その中に5㎝以上の円礫が混じる。①～④層はいずれも河川堆積物と考えられるが、遺物がまったく出土しておらず、時期は確定できなかった（写真23）。

写真 21　00404 調査地点遠景（南から）

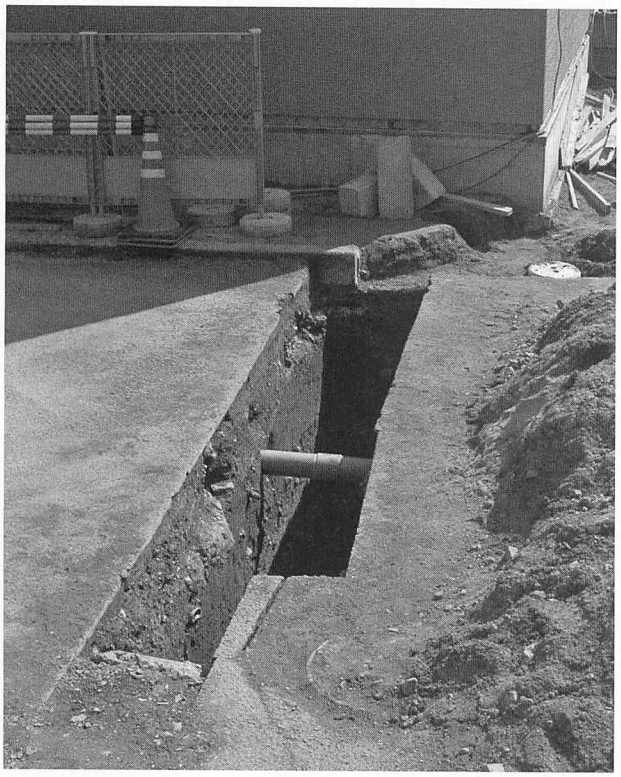


写真 22　00404 調査 1 トレンチ（西から）

写真 23　00404 調査 1 トレンチ北壁土層（南西から）

［２トレンチ］（図 16、写真 24・25）

教育学部４号館南側に余掘り範囲を確認するために設けた南北方向のトレンチである（写真 24）。教育学部４号館の壁面から 2.85 m までの範囲が余掘り部分である。表土下 35 ～ 40 cmでⅢ層が現れたが、東西方向にのびる排水管路と建物基礎によって、Ⅲ層は部分的にしか残存していなかった。Ⅲ層は、１トレンチと同じく砂礫混じりの黒褐色砂質土で、層厚は 25 cm前後を測る。Ⅲ層の下層には灰色みを帯びた暗褐色粗砂層が堆積している（写真 25）。

写真24　00404調査2トレンチ（南西から）

写真25　00404調査2トレンチ西壁土層（南東から）

3　調査のまとめ

今回の調査地点周辺では、東側の文京遺跡15次調査3トレンチでは、竪穴式住居2棟（SC-3・4）、溝2条（SD-1・2、ただし既往報告では自然流路SR-1・2と報告）や小穴3基（SP-5～7）、00305調査3トレンチでは土壙1基（SK-1）が発見され、南側の99902調査9トレンチでは土壙1基（SK-1）と小穴1基（SP-2）が出土している。これらの遺構はいずれもⅢ層中位から掘り込まれ、弥生時代～古墳時代に比定され、当該期の集落遺跡が展開していることが明らかにされている（図15）。しかし、今回の調査地点では、少量の弥生土器片が出土をみたものの、遺構は検出できなかった。

また、今回の調査では、こうした遺構が包含されるⅢ層の下層に砂礫層が堆積していることを確認できた。同様な堆積状況は南側の99902調査9トレンチでも観察でき、弥生時代以前に自然流路が流れていたことを明らかにできた。しかし、自然流路の時期については、層序関係から弥生時代以前と判断できるが、詳細な時期は出土遺物がなく不明である。今後の周辺の調査では、その確認が必要である。

4　調査後の対応

以上、施設基盤部と工事業者に調査状況を説明し、工事で埋蔵文化財に影響が生じないように依頼し、調査を完了した。（田崎）

00405　御幸寮寄付物件取付工事に伴う調査

調査地点　松山市御幸町2丁目3番15号
　　愛媛大学御幸団地
調査面積　2.2㎡
調査期間　2005年2月23日
調査の種別　立会調査
調査担当　吉田広・三吉秀充
依頼文書　教育学生支援部学生生活課
　　学生生活支援担当チーム
　　チームリーダー発事務連絡
　　（平成17年2月1日付）

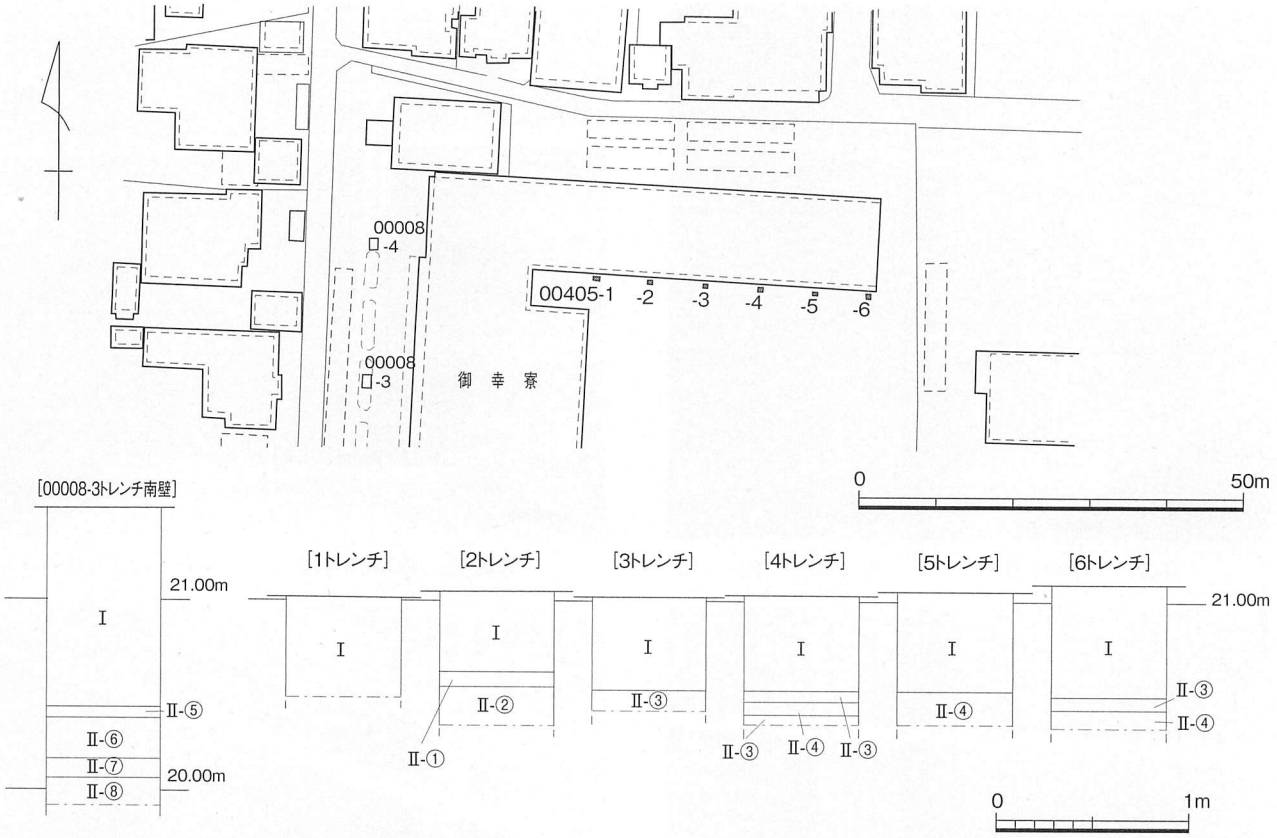


図 17　00405 調査地点位置図及び土層柱状図（縮尺 1/1,000、 1/40）

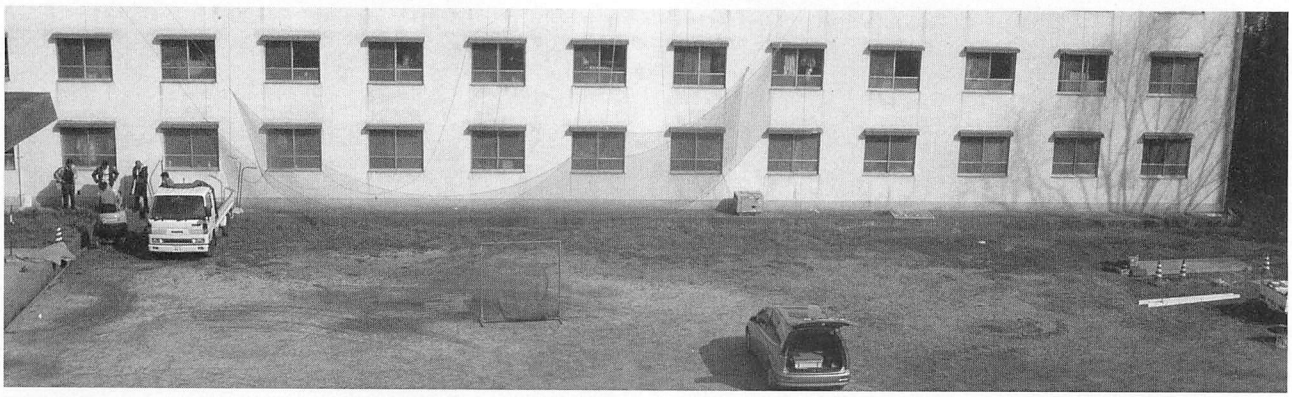


写真 26　00405 調査地点遠景（南から）

1　調査にいたる経緯

御幸男子寮自治会から、駐輪場、ゴミ集積場、防球ネットを御幸寮への寄付が申し入れられ、大学はこの寄付を受け入れることとした。ただし、いずれも掘削を伴う設置工事を要し、これに伴う埋蔵文化財調査について、埋蔵文化財調査室へ依頼が提出された。御幸団地においては、00008 調査において中世に遡る水田層が確認されており、その検出深度に基づき、各地点の調査の必要性を判断した。結果、現地表下 68 cmの掘削を伴う御幸寮西側駐輪場新設と、現地表下 30 cmの掘削による御幸寮西側駐輪場南側のゴミ集積場新設については、掘削深度で埋蔵文化財に影響がないと判断できたが、現地表下 50 cmの掘削を伴う御幸寮男子宿舎南側の防球ネット取設工事については、00008 調査地点から離れ、埋蔵文化財への影響を図りかねる状況であり、工事に際して立会調査が必要と判断された。その旨を回答し、工事予定との調整を図り、２月 23 日に立会調査を実施した。

写真 27　00405 調査 1 トレンチ（南西から）

写真 28　00405 調査 2 トレンチ（北から）

写真 29　00405 調査 3 トレンチ（北から）

写真 30　00405 調査 4 トレンチ（北から）

写真 31　00405 調査 5 トレンチ（北から）

写真 32　00405 調査 6 トレンチ（北から）

２　調査の記録

調査地点は、御幸寮男子宿舎南側のグラウンド北辺、コンクリート側溝の南側。ネット支柱設置６箇所が東西に等間隔に並ぶ。各掘削範囲は約60㎝四方で、深さ50㎝前後。掘削順に西から東に１～６トレンチとした。瓦礫や真砂土からなる造成土をⅠ層、Ⅰ層下の河川堆積層をⅡ層とし、各トレンチ間で対応する①～④層に細分した（図17、写真26）。

［１トレンチ］（図17，写真27）

御幸寮男子宿舎南側、側溝に接したグラウンド北西隅に設けたトレンチ。現地表下52㎝まで掘削を行ったが、瓦礫を伴ったⅠ層が続く。

［２トレンチ］（図17，写真28）

現地表下70㎝まで掘削を行った。真砂土からなるⅠ層は現地表下42㎝まで続き、Ⅰ層直下でⅡ-①層を、現地表下50㎝でⅡ-②層を検出した。Ⅱ-①層は灰オリーブ色砂礫で、１～２㎜大の砂粒を多く含んでいる。埋土中には１×２㎝の角張った炭化物を含んでいる。Ⅱ-②層は灰オリーブ色シルトで、Ⅱ-①層に比べて粘性、しまりが見られる。１㎜～親指大の砂礫・円礫を多く含んでいる。層下部は鉄分の沈着により、赤褐色がかる。明黄褐色シルトの丸いブロックを含み、ラミナも見られる。

［３トレンチ］（図17，写真29）

現地表下60㎝まで掘削を行った。現地表下50㎝まで真砂土及び瓦礫からなるⅠ層が続く。Ⅰ層直下でⅡ-③層を検出した。灰黄色細砂層できめ細かい。なお、攪乱層から１点の弥生土器片が出土しているが、磨滅が著しく、詳細は不明である。

［４トレンチ］（図17，写真30）

現地表下68㎝まで掘削を行った。瓦礫からなるⅠ層は、現地表下約50㎝まで続き、Ⅰ層直下で検出したⅡ-③層は、間に５㎝程度の厚さのⅡ-④層を挟んで、現地表下68㎝まで続く。Ⅱ-③層は、３トレンチ・６トレンチで見られるⅡ-③層と近似した土質である。灰黄色細砂層で、きめが細かい。Ⅱ-④層は、５トレンチ・６トレンチで見られるⅡ-④層と同質の土層であり、暗灰黄色シルトからなり、１㎝四方の角張った炭化物が見られた。

［５トレンチ］（図17，写真31）

現地表下70㎝まで掘削を行った。瓦礫及び真砂土からなるⅠ層は、52㎝まで続き、Ⅰ層直下でⅡ-④層を検出した。Ⅱ-④層は、黄褐色シルトからなり、明黄褐色シルトの丸いブロックを含んでいる。１～２㎜大の砂礫を含み、１㎝四方の角張った炭化物を含んでいる。ラミナが見られる。

［６トレンチ］（図17，写真32）

御幸寮男子宿舎南側、グラウンド北東部に設けたトレンチ。現地表下75㎝まで掘削を行った。瓦礫及び真砂土からなるⅠ層は、現地表下48㎝まで続き、Ⅰ層直下でⅡ-③層を、65㎝でⅡ-④層を検出した。Ⅱ-③層は灰黄色砂質土。１㎜前後の砂粒および小指先大の円礫を含んでいる。Ⅱ-④層は暗灰黄色シルト。明黄褐色シルトの丸いブロックを少量含んでいる。

３　調査のまとめ

今回の調査では、西端に位置する１トレンチを除いて、２～５トレンチでⅡ層を検出できた。Ⅱ層は、主に灰黄色系の砂礫あるいはシルトからなり、ラミナが発達している。河川の自然堆積作用によって形成された層である。Ⅱ層中から遺物が全く出土しておらず、時期については不明である。

御幸団地内における調査は、今回で２回目となる。00008調査では、今回同様に、Ⅰ層下で灰黄色系土からなるⅡ層を検出し、Ⅱ層を大きく近・現代の陶磁器が混じる水田層、中世の貿易陶磁器を含む水田層及び包含層に細分している。今回の調査地点に近接する00008調査３トレンチでは、標高約20.50ｍでⅡ層を検出した。Ⅱ-⑤層は１～２㎜大の砂粒を含む暗灰黄色砂質シルト、Ⅱ-⑥層は２～３㎜大の砂礫を含む暗灰黄色砂質シルト、Ⅱ-⑦層は明黄褐色シルト、Ⅱ-⑧層は灰黄褐色シルトのブロックを含んだ灰黄色シルトである。Ⅱ-⑥・⑦層については不明であるが、⑤層は他のトレンチとの対応関係から近・現代の水田層と考えられ、Ⅱ-⑧層中から13世紀代の青磁片が出土している。

今回検出のⅡ層上面レベルは、いずれも20.50ｍ前後であり、レベルだけの対応を見ると、近・現代の水田層である可能性が高い。さらに土層の特徴などから、今回調査のⅡ-④層が、00008調査のⅡ-⑤・⑥層に対応すると考えられる。よって、今回検出したⅡ層は、近・現代の水田層であると想定されるが、中世水田層との境は不明瞭であることから、下層の一部は中世に遡る可能性も否定できない。

以上の結果、グラウンド面から45㎝を超える掘削の際には、今後も調査が必要である。　（吉田・三吉）

Ⅲ　構内の遺跡

1　調査の手続き

埋蔵文化財調査室では、愛媛大学構内における地盤掘削を伴う工事に際して、規模の大小にかかわらず、工事内容による埋蔵文化財に対する影響を、周辺の既往調査等から判断し、それに応じた対応を取っている（図18）。

まず、工事計画の段階から、埋蔵文化財への影響を考慮し、工法等の調整を行う。その上で決定した工事計画に基づき、埋蔵文化財発掘調査の要否及び実施の依頼を担当部局から受け、埋蔵文化財への影響に応じて、調査の要否を埋蔵文化財調査室が判断する。あるいは、判断材料に乏しい場合は、事前に試掘調査を行う場合もある。

埋蔵文化財に影響がないと判断された場合（図18-①）は、埋蔵文化財調査室から、調査不要として慎重工事の依頼が担当部局に回答され、施工に及ぶ。

一方、調査必要とされたが、小規模な工事で埋蔵文化財調査にあまり時間を要さないと判断した場合（図18-②）、掘削工事に伴って調査を実施する立会調査を行う。そして立会調査終了後、調査結果の報告が、埋蔵文化財調査室から先の依頼に対する回答として、担当部局に提出される。

他方、工事規模が大きく、埋蔵文化財調査にもかなりの時間を要すると判断された場合（図18-③）は、工事に先立ち、本格調査を実施することになる。

本格調査にあたっては、具体的発掘調査計画の作成、それに基づく設計・積算・契約、さらには文化財保護法に基づいた発掘調査関係書類の関係官庁への届出がなされなければならない。2004年度からは、愛媛大学が独立法人化したことで、文化財保護法第九十四条（平成十六年五月改正・旧第五十七条の三）の「国の機関等が行う発掘に関する特例」が適用されなくなり、**第九十三条（旧第五十七条の二）による通知と、第九十二条（旧第五十七条の一）による発掘届**となった。また、調査終了後には、埋蔵文化財発見届を警察署に、埋蔵文化財保管証を教育委員会に提出し、発掘調査の実績報告が教育委員会に提出されなければならない。そして、調査依頼を受けた担当部局に対しても、立会調査同様、調査終了後に、調査結果の概要報告が、埋蔵文化財調査室から先の依頼に対する回答として、提出されることになる。

これまで、出土資料は、遺失物法に基づき、発見届提出後一定期間を経て、国の機関としての愛媛大学に帰属してきた。独法化後も、これら出土資料はそのまま独立大学法人愛媛大学に継承されている。一方で、独法化後の出土資料は、愛媛県に帰属することとなっているが、調査主体者として、出土資料の整理･報告、さらにはその後の保管・活用は、愛媛大学に課せられている。

したがって、これらの出土資料の整理・報告が、埋蔵文化財調査室の業務として継続される。記録保存としての発掘調査の終了は、正式報告書の刊行によって初めて完了するのであり、この作業は研究活動とも不可分の関係にある。さらには、その後の資料保管、資料公開・利活用も、それらの研究を通じて、埋蔵文化財調査室の業務として行われていくこととなる。

（吉田）

2　遺跡の把握状況

上記した手続きにより繰り返されてきた愛媛大学構内における調査は、2005年12月末時点で、178件を数える（表7）。これらの結果、愛媛大学構内の遺跡について、各団地毎にかなり具体的に状況を把握することができるようになってきた。と同時に、先に述べた工事における埋蔵文化財への影響を判断する際の有用なデータとして機能しており、遺跡の現状保存・保護をはかるグリーンゾーンの設定の根拠ともなっている。

各団地毎に、遺跡の把握状況を概述する。　（吉田）

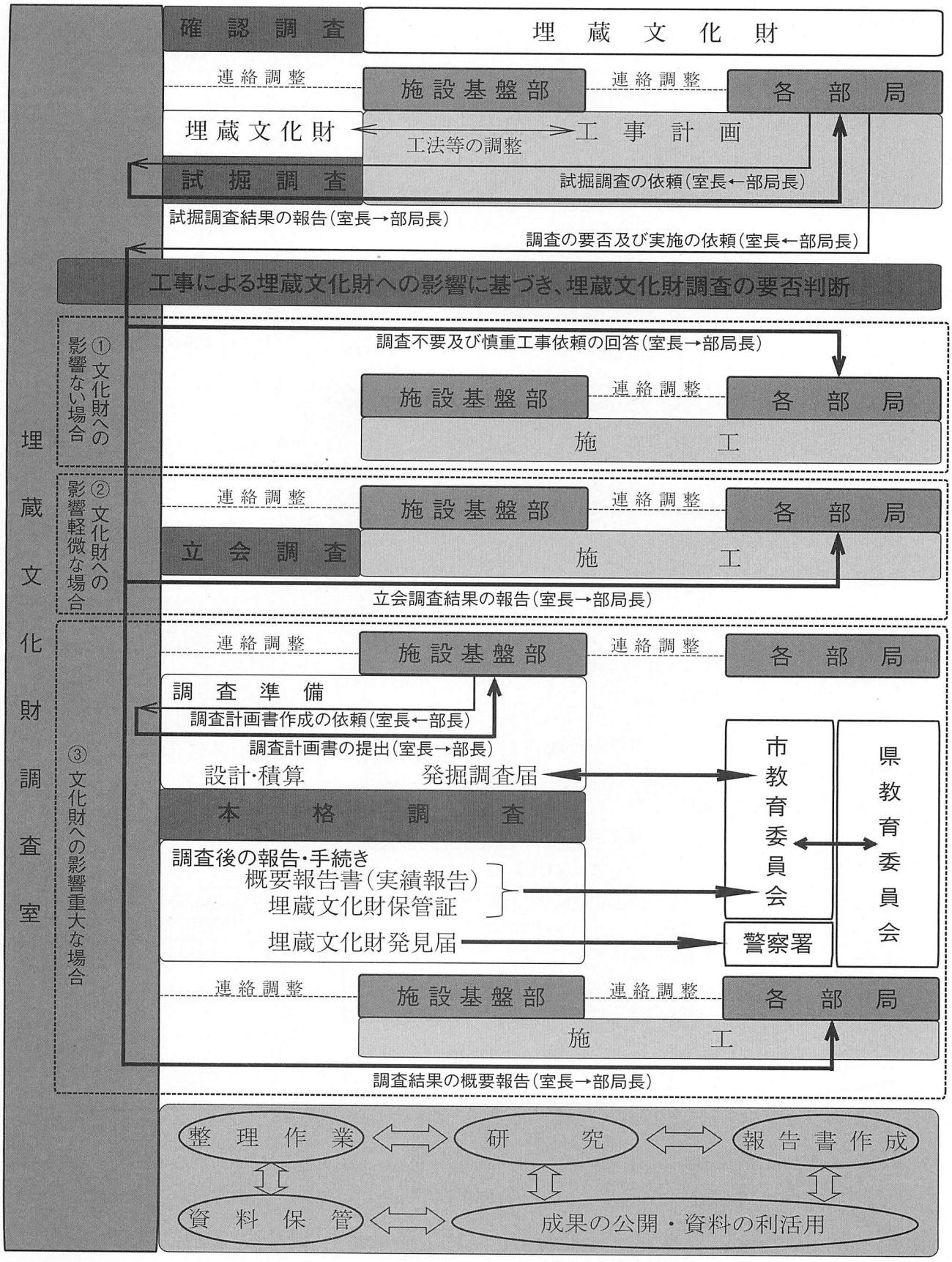


図 18　埋蔵文化財調査に関わる手続きフローチャート

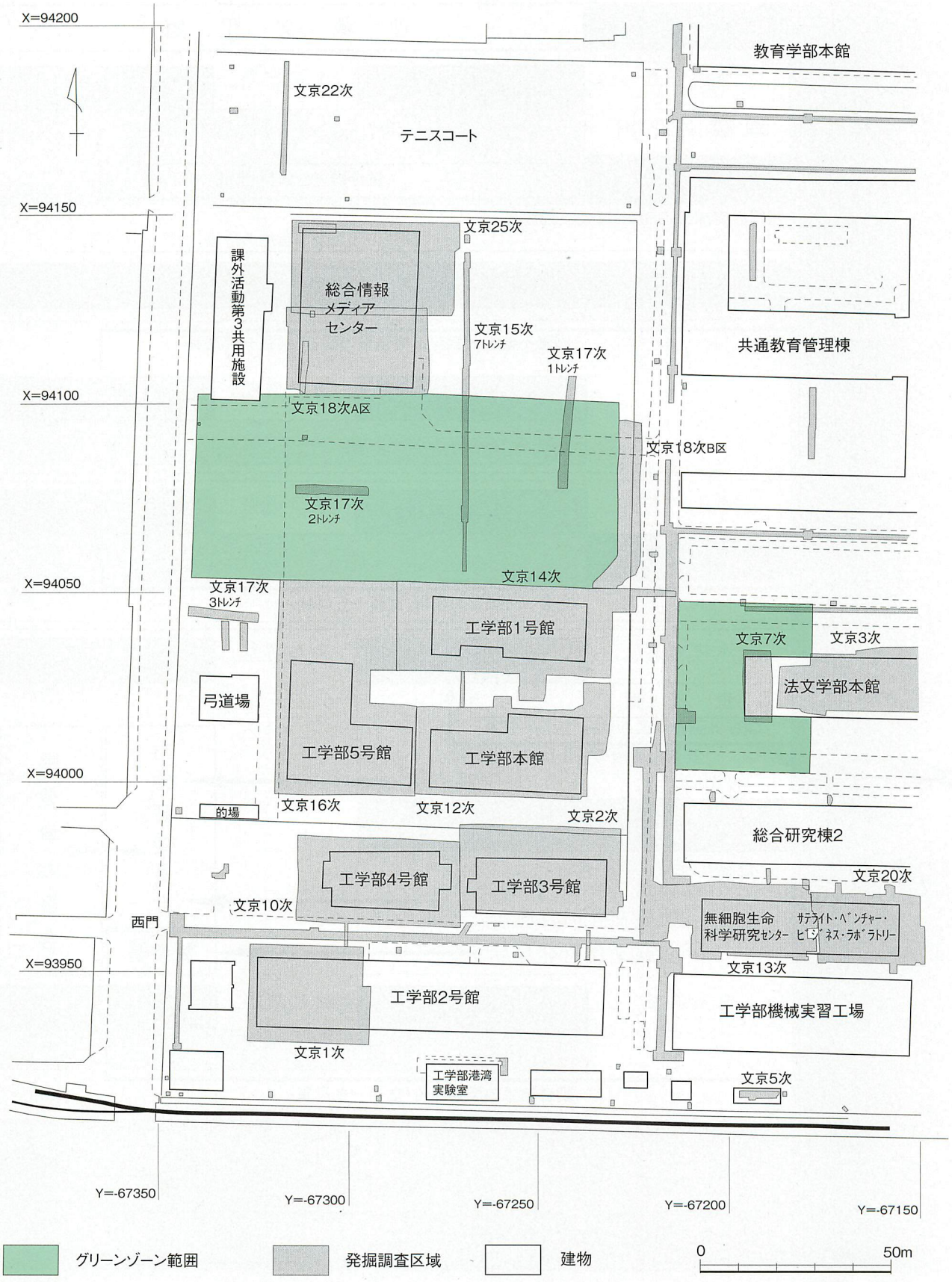


図 19　文京遺跡保存地区（グリーンゾーン）位置図（縮尺 1/1,500）

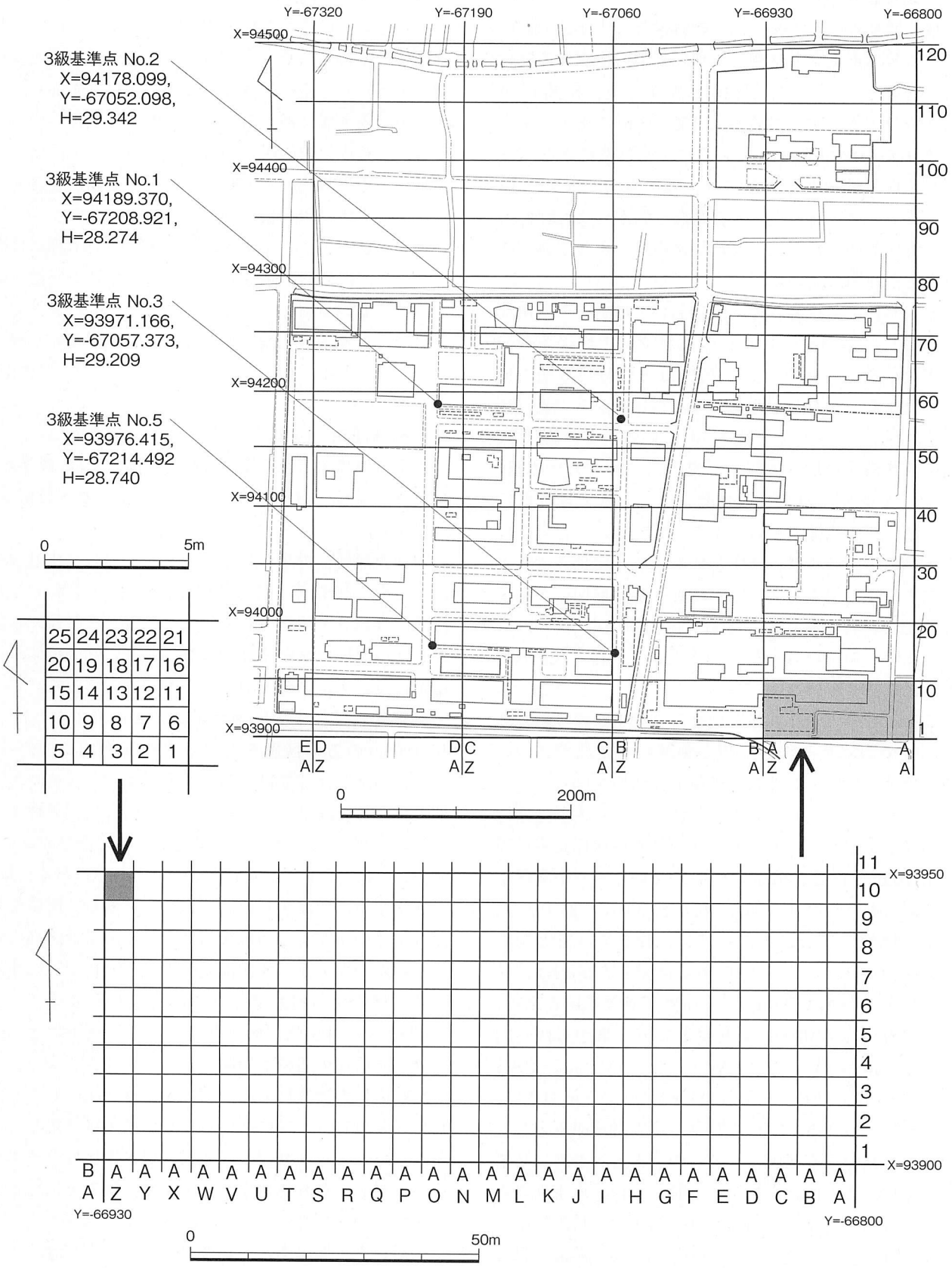


図 20　城北団地の区割（縮尺 1/5,000、1/1,000、1/200）

(1) 城北団地（図 21）

城北団地には、法文学部・教育学部・工学部等が所在する松山市文京町３番と、理学部他の所在する文京町２番５号、そして本部他が所在する道後樋又 10 番 13 号が含まれ、敷地総面積は 152,998 ㎡に及ぶ。

1951 年頃から遺物が採集され、文京遺跡として埋蔵文化財包蔵地とされており、大学構内では１～３・５～28 次にわたる本格・確認調査と試掘・立会調査で、縄文時代前期から近世に及ぶ集落遺跡・生産遺跡であることが判明している。

とりわけ、文京町３番構内においては、その西南部を中心に、全国的にも有数の弥生時代中期後葉～後期中葉の集落が展開し、一部には古墳時代後期の集落も重なる。またその北側には、古代末から中世（10～12 世紀）の水田層が確認されている。この他にも、縄文時代前～後期の遺跡や、中世（14 世紀）の水路、近世（18 世紀）の水路も確認され、さらには戦前の練兵場時代の遺構も見いだすことができる。他方、理学部構内においては、弥生時代や古代・中世の遺構も存在するが、縄文時代晩期から弥生時代前期にかけての遺跡が、特徴的に存在する。本部構内については、これまで数回の調査を行ってきたが、明確な包含層・遺構は確認していない。

なお、このような展開を見せる文京遺跡のうち、弥生時代中期後葉～後期中葉の集落の主要部分について、グリーンゾーンとして積極的に活用を図っていくことが明らかにされている。具体的には、大型掘立柱建物群が確認されている、法文学部本館西側駐車場周辺 1,270 ㎡と、総合情報メディアセンターと工学部１号館間の旧グラウンド部分 5,525 ㎡である（図 19）。

城北団地の調査にあたっては、独自の区割と基本層序を設定している。1998 年に設定した区割は、日本測地系（Tokyo Datum）平面直角座標系第Ⅳ系の、（X=93900, Y=-66800）を基点として、東から西へ向かって５mおきに、AA・AB・・・・・AY・AZ・BA・BB・・・・・EO・EP、南から北へ向かって５mおきに、1・2・3・・・・・118・119・120 とし、両者を組み合わせた５m方眼の調査区画によるものである。さらに必要に応じて、この区画内を１m方眼に分け、南東隅から西に１～５、そして北側列を６～10 と、北西隅に到る 25 区画に細分する。したがって、この１m方眼を示す場合は、「DC27 － 14」のように呼称することとなる（図 20）。

城北団地内の基本層序については、上位からⅠ～Ⅴ層を設定している。その上で、各調査では大区分を基本層序に準拠し、それを構成する細かな土層ごとに枝番号を付けている。基本層序の内容は以下の通り。

Ⅰ層：表土層にあたる瓦礫を含む造成土部分。
Ⅱ層：造成以前の灰色系の近世～近代の水田層。
Ⅲ層：弥生時代～古墳時代の遺構・遺物を包含する黒色～暗褐色系の土層。
Ⅳ層：黄褐色系のシルト～砂質土層で、下部には礫が混じる。縄文時代の遺構・遺物が確認されている。
Ⅴ層：Ⅳ層下の花崗岩を主体とする砂礫ないし礫層である。（吉田）

(2) 樽味団地（図 22）

松山市樽味３丁目５番７号の樽味団地には、農学部・附属高等学校・附属研究施設等が所在する。面積は、82,090 ㎡。

団地西部は、樽味遺物包含地として埋蔵文化財包蔵地とされ、1987 年の１次調査以降、樽味遺跡として団地内は調査・報告されている。以後７次に及ぶ本格調査と小規模な試掘・立会調査により、弥生前期から中世に及ぶ集落遺跡であることが判明している。

具体的には、まず団地西半部において中世（14～16 世紀）の方形区画を有する集落が面的に広がる。さらに団地北西部では、弥生前期の集落と古墳時代後期の集落も確認されており、後者は団地周辺の樽味立添遺跡や樽味高木遺跡と一連の遺跡の可能性が高い。一方、団地南部には、古代末から中世（10～14 世紀）に埋没する、西流する自然河道が存在する。附属農業高等学校の所在する団地東部は、必ずしも遺跡の広がりが明確でないが、４次調査で古代（８世紀）に埋没する、南流する自然河道や、古代末から中世（10～12 世紀）の遺物包含層が存在する。団地西半とは若干異なる時代の遺跡が展開している可能性が高い。

樽味団地の調査にあたっては、団地全域にわたる独自の区割設定はしていないが、基本層序は設定している。上位からⅠ～Ⅴ層で、各調査では大区分を基本層序に準拠し、それを構成する細かな土層ごとに枝番号を付けている。基本層状の内容は以下の通り。

Ⅰ層：表土層にあたる瓦礫を含む造成土部分。
Ⅱ層：造成以前の灰色系の近世～近代の水田層。
Ⅲ層：遺物を包含する黒色～黒褐色系の土層。

Ⅳ層：黄褐色系のシルト～砂質土層で、下部には礫が混じる。
Ⅴ層：Ⅳ層下の花崗岩を主体とする砂礫層ないし礫層。（吉田）

(3)　北吉井団地

松山市桑原2丁目9番8号の北吉井団地には、職員宿舎が所在する。面積は、2,214㎡。

1994年に東長戸他環境整備（駐車場整備･配管設置）工事による立会調査（調査番号：99401）、1997年に北吉井宿舎屋外排水管改修工事による本格調査（調査番号：99710）と北吉井宿舎屋外ガス管改修工事による立会調査（調査番号：99711）が行われている。その結果、古墳時代中～後期（5～7世紀初）、古代（10世紀）の集落遺跡が団地全面に展開することが確認され、上記3次の調査を桑原西稲葉遺跡3～5次調査として報告している。なお､北吉井団地内の基本層序は、北方約150ｍに位置する樽味団地の基本層序が適用できる。（吉田）

(4)　鷹子団地

松山市鷹子町40番に所在する鷹子団地には、国際交流会館が所在する。面積は1,340㎡。

1987年にこの国際交流会館建設に先立って、鷹子遺跡1次調査（調査番号：98701）が行われ、弥生時代中期後葉、古代（7～8世紀）、中世（13～14世紀）の遺構・遺物が確認された。この調査によって、団地内の大半を調査したことになるが、建物周辺には、なお遺跡の残存することは間違いない。（吉田）

(5)　その他の団地

上記した以外の団地では本格調査が行われてなく、確認調査や小規模な試掘・立会調査に留まるか、あるいは全く調査の行われたことのない団地である。

①　持田団地

松山市持田町1丁目5番22号にあたり、教育学部附属中・小・幼・養護学校が所在し、面積は65,933㎡に及ぶ。

1996年に、団地北東側の隣接した地点で松山市埋蔵文化財センターが中世（14世紀前後）の水田跡を調査している。大学構内でも、その水田層に相当する土層が持田団地の北半部に広がることが、1993年度の確認調査（調査番号：99309）と1997年度の試掘調査（調査番号:99706）によって確認されている。なお、団地南半部は石手川氾濫原が及んでいる。

②　御幸団地

松山市御幸町2丁目3番15号、学生寄宿舎が所在する。敷地面積は、7,502㎡。

2000年度の立会調査（調査番号：00008）で、団地西半部において、中世（13～14世紀前後）の水田層が広がる可能性の高いことを確認している。

③　畑寺団地

松山市畑寺町丙47番2に所在し、農学部附属農業高等学校農場がある。面積は、19,218㎡。

調査歴がなく、埋蔵文化財の有無は未確認。

④　米野団地

松山市米野町乙184番地1号、農学部附属演習林が所在する。総面積は、3,836,634㎡に達する。

調査歴がなく、埋蔵文化財の有無は未確認。

⑤　梅津寺団地

松山市梅津寺1861番地、大学課外活動施設が所在する。面積は601㎡。

調査歴がなく、埋蔵文化財の有無は未確認。

⑥　北持田団地

松山市北持田町128番地1号､職員宿舎が所在する。面積は、592㎡。

調査歴がなく、埋蔵文化財の有無は未確認。

⑦　東長戸団地

松山市東長戸4丁目3番1号､職員宿舎が所在する。面積は6,099㎡。

1994年度の立会調査（調査番号：99402）によって、団地東半部を中心として遺跡が営まれている可能性が指摘できる。

⑧　喜与団地

松山市喜与町1丁目8番8号､職員宿舎が所在する。面積は424㎡。

調査歴がなく、埋蔵文化財の有無は未確認。

⑨　山越団地

松山市山越4丁目11番10号 にあたり、大学課外活動施設の野球場・馬場・サッカーグラウンド等の施設があり、面積は66,916㎡に及ぶ。

1992年度と2002年度の構内遺跡確認調査（調査番号：99205・00208）等によって、団地が丘陵部裾からのびる段丘の落ち際に位置することが明らかとなっている。団地北東隅には、弥生時代の遺構が存在する微高地があり、その南側の旧河道の埋没過程では、縄文

時代晩期～弥生時代の包含層が堆積し、その上に水田層が認められる。一方、団地西半部でも、古墳時代に埋没した自然河道が確認されている。

⑩　中島団地

松山市（旧温泉郡中島町）小浜甲1872番2号の、沿岸環境科学研究センター附属中島マリンステーションが所在する団地。面積は、2,997㎡。

調査歴がなく、埋蔵文化財の有無は未確認。

⑪　重信団地

東温市（旧温泉郡重信町）志津川の、医学部および附属病院が所在する団地である。敷地面積は、191,667㎡に達する。

これまで数回の試掘調査あるいは確認調査を行ってきたが、遺跡の存在は確認されていない。ただし、団地東北部分には遺跡が残る可能性がある。

⑫　溝辺団地

松山市溝辺町乙298番地、農学部附属高等学校の校舎がある。面積は、7,633㎡。

調査歴がなく、埋蔵文化財の有無は未確認。

⑬　横河原団地

東温市（旧温泉郡重信町）横河原、職員宿舎が所在する。面積は6,693㎡。

現在の重信川の氾濫原上にあり、埋蔵文化財は分布していない。

⑭　北条団地

松山市（旧北条市）八反地字伊利甲498番地、農学部附属農場が所在する。面積は187,814㎡に及ぶ。

調査歴はないが、団地の一部は、萩尾古墳群あるいは八竹山遺跡として埋蔵文化財包蔵地に含まれている。

⑮　津田山団地

松山市北斎院町津田山の、教育学部附属養護学校施設が所在する団地。面積は14,374㎡。

2件の試掘調査（調査番号：99102・99411）を実施しているが、埋蔵文化財の分布は確認されていない。

⑯　伊予団地

伊予市森字下新田729番地、大学課外活動施設が所在する。面積は300㎡。

調査歴がなく、埋蔵文化財の有無は未確認。

⑰　大井野団地

松山市大井野町乙145番地2号、農学部附属演習林が所在する。面積は2,272㎡。

調査歴がなく、埋蔵文化財の有無は未確認。

⑱　東野団地

松山市東野4丁目222番地、農学部附属演習林が所在する。面積は、4,853㎡。

調査はなされていないが、団地および周辺は、東野古墳群として埋蔵文化財包蔵地とされている。（吉田）

表7　愛媛大学埋蔵文化財調査一覧（2005年12月現在）

調査番号	団地名	遺跡名	調査次数	調査種別	調査原因となった工事名	調査期間	調査面積(㎡)	報告・備考
97501	城北	文京	1次	本格	工学部海洋工学科校舎新営工事	19750801 ～ 19750824	750	松山市教委調査。松山市報11
98001	城北	文京	2次	本格	工学部資源化学科新営工事	19800708 ～ 19800930	600	松山市教委調査。松山市報28
98101	城北	文京	3次	本格	法文学部校舎新営工事	19820110 ～ 19820325	800	松山市教委調査。松山市報28
98201		文京	4次	本格	松山市東中学校校舎建設工事	19820803 ～ 19820826	750	松山市教委調査。松山市報30
98301	城北	文京		立会	雨水管･汚水管･ガス管埋設		1,374	
98302	城北	文京		立会	教育学部校舎建設			
98401	城北	文京	5次	本格	工学部危険物貯蔵庫新営工事	19841026 ～ 19841028	18	松山市教委調査。松山市報28
98601	城北	文京	6次	本格	城北団地基幹整備	19860100 ～	99	考古学教室調査。
98602	城北	文京	7次	本格	法文学部校舎新営工事	19860800 ～ 19860900	142	考古学教室調査。
98603	城北	文京	8次	本格	城北団地基幹整備事業	19861125 ～ 19870218	854	考古学教室調査。愛大埋文報Ⅱ
98604	樽味	樽味		試掘	連合農学研究科校舎新営計画	19870109	5	
98605	鷹子	鷹子		試掘	国際交流会館新営計画	19870116	47	
98701	鷹子	鷹子	1次	本格	国際交流会館新営工事	19870720 ～ 19870920	962	愛大埋文報Ⅰ
98702	樽味	樽味		試掘	連合農学研究科校舎新営計画	19870820 ～ 19870821	18	愛大埋文報Ⅴ
98703	樽味	樽味		試掘	附属農業高校課外活動施設新営計画	19870820	6	愛大埋文報Ⅴ
98704	樽味	樽味	1次	本格	連合農学研究科校舎新営工事	19871028 ～ 19871217	684	愛大埋文報Ⅰ

調査番号	団地名	遺跡名	調査次数	調査種別	調査原因となった工事名	調査期間	調査面積(㎡)	報告・備考
98705	城北	文京		試掘	城北団地プール廻り浄化装置増設計画	19871113	2	愛大埋文報Ⅴ
98706	城北	文京	9次	本格	城北団地プール浄化装置増設工事	19880111 ～ 19880129	62	愛大埋文報Ⅱ
98801	城北	文京	10次	本格	工学部情報工学科校舎新営工事	19880919 ～ 19890303	1,075	愛大埋文報Ⅲ
98802	城北	文京		試掘	城北団地基準点等設置計画	19881013	5	愛大埋文報Ⅴ
98803	城北	文京		試掘	工学部講義棟高圧ケーブル埋設計画（その１）	19881208	2	愛大埋文報Ⅴ
98804	城北	文京		試掘	工学部講義棟高圧ケーブル埋設計画（その２）	19881212	1	愛大埋文報Ⅴ
98805	城北	文京		立会	工学部情報工学科校舎排水施設取設工事	19890207	6	愛大埋文報Ⅴ
98806	城北	文京		立会	工学部情報工学科校舎給水施設取設工事	19890209 ～ 19890210	3	愛大埋文報Ⅴ
98901	城北	文京	11次	本格	法文学部講義棟身障者用昇高機取設工事	19890801 ～ 19890829	85	愛大埋文報Ⅱ
98902	城北	文京		立会	電波障害用の外線工事	19900303	2	愛大埋文報Ⅴ
99001	城北	文京		試掘	城北団地囲障工事及び教育学部自転車置場新設計画	19900808	3	愛大埋文報Ⅴ
99101	樽味	樽味	2次	本格	農学部研究実験棟新営工事	19920107 ～ 19920228	506	愛大埋文報Ⅳ
99102	津田山			試掘	教育学部附属養護学校日常生活訓練施設建設計画	19910608	13	愛大埋文報Ⅴ
99103	城北	文京		試掘	城北団地囲障(Ⅱ期)改修及び外灯改修計画	19910821	36	愛大埋文報Ⅴ
99201	樽味	樽味		立会	農学部屋外ガス本管改修工事	19920526	6	愛大埋文報Ⅴ
99202	城北	文京		試掘	城北団地東側囲障改修計画	19920730	3	愛大埋文報Ⅴ
99203	樽味	樽味		試掘	附属図書館農学部分館新営工事に伴う電気工事計画	19920826	1	愛大埋文報Ⅴ
99204	重信			試掘	医学部附属病院病歴室新営計画（その１）	19920826	3	愛大埋文報Ⅴ
99205	山越			確認	1992年度構内遺跡確認調査（その１）	19920828	57	愛大埋文報Ⅴ
99206	樽味	樽味		立会	農学部拓翠寮他自転車置場新設工事（その１）	19920921	3	愛大埋文報Ⅴ
99207	樽味	樽味		立会	農学部拓翠寮他自転車置場新設工事（その２）	19920921	2	愛大埋文報Ⅴ
99208	城北	文京		立会	城北団地外灯設備改修工事	19921026	2	愛大埋文報Ⅴ
99209	持田	持田		立会	教育学部附属小学校給水設備工事	19921026	11	愛大埋文報Ⅴ
99210	重信			試掘	医学部附属病院駐車場取設計画	19921027	40	愛大埋文報Ⅴ
99211	重信			確認	1992年度構内遺跡確認調査（その２）	19930120 ～ 19930121	54.6	愛大埋文報Ⅴ
99212	城北	文京		立会	城北団地情報通信設備工事	19930308 ～ 19930309	11.8	愛大埋文報Ⅴ
99213	重信			試掘	医学部附属病院病歴室新営計画（その２）	19930322	6.8	愛大埋文報Ⅴ
99214	樽味	樽味		立会	樽味団地自転車置場取設その他工事	19930323	3.3	愛大埋文報Ⅴ
99215	城北	文京		立会	城北団地交通規制遮断機取設工事	19930324	2	愛大埋文報Ⅴ
99301	重信			試掘	医学部看護学科校舎新営計画	19930524	20	愛大埋文報Ⅴ
99302	樽味	樽味		立会	附属図書館農学部分館新営(樹木移植)工事	19930624 ～ 19930625	14	愛大埋文報Ⅴ
99303	樽味	樽味		試掘	農学部自転車置取設計画	19930627	80.8	愛大埋文報Ⅴ
99304	樽味	樽味	3次	本格	附属図書館農学部分館新営工事	19930823 ～ 19931006	258.5	愛大埋文報Ⅵ
99305	城北	文京		立会	城北団地大学会館廻り道路整備に伴う(樹木移植)工事	19931109	2	愛大埋文報Ⅴ
99306	樽味	樽味		試掘	附属図書館農学部分館新営(外灯設備管路)計画	19931124	3	愛大埋文報Ⅴ
99307	樽味	樽味		立会	城北団地他情報通信電気設備工事（その１）	19931124	7	愛大埋文報Ⅴ
99308	城北	文京		立会	城北団地他情報通信電気設備工事（その２）	19931125	7.9	愛大埋文報Ⅴ
99309	持田	持田		確認	1993年度構内遺跡確認調査（その１）	19931224 ～ 19931225	39	愛大埋文報Ⅴ
99310	城北	文京		立会	城北団地情報機器更新電源容量増設工事	19940118	3.7	愛大埋文報Ⅴ
99311	樽味	樽味		立会	農学部附属図書館新営（配水管埋設）工事	19940208 ～ 19940215	19.8	愛大埋文報Ⅴ
99312	樽味	樽味		立会	農学部自転車置場排水管路工事	19940208	29.7	愛大埋文報Ⅴ
99313	城北	文京		試掘	城北団地基幹整備(屋外環境)計画	19940209 ～ 19940216	14.8	愛大埋文報Ⅴ
99314	城北	文京		試掘	工学部研究実験棟新営計画	19940329	37.9	愛大埋文報Ⅴ
99401	北吉井	桑原西稲葉	3次	立会	東長戸団地他環境整備(駐車場整備、配管設置)工事（その１）	19940510 ～ 19940518	54.5	愛大埋文報Ⅸ

調査番号	団地名	遺跡名	調査次数	調査種別	調査原因となった工事名	調査期間	調査面積(㎡)	報告・備考
99402	山越	東長戸		立会	東長戸団地他環境整備(駐車場整備、配管設置)工事 (その2)	19940517	9	愛大埋文報Ⅴ
99403	樽味	樽味		試掘	樽味団地環境整備(附属農業高等学校他自転車置場取設)計画	19940524	7.8	愛大埋文報Ⅴ
99404	城北	文京		立会	城北団地他環境整備(単車置場整備)工事	19940607	1.4	愛大埋文報Ⅴ
99405	城北	文京		試掘	城北団地他環境整備(自転車置場設置)計画	19940608	81.3	愛大埋文報Ⅴ
99406	城北	文京		立会	城北団地他環境整備(自転車置場・配水管設置)工事	19940610	5.3	愛大埋文報Ⅴ
99407	城北	文京		試掘	城北団地他環境整備(排水枡及び管路取設)計画	19940801	5.9	愛大埋文報Ⅴ
99408	城北	文京		試掘	城北団地他環境整備(電気配管路取設)計画	19940801	3.2	愛大埋文報Ⅴ
99409	城北	文京		立会	工学部岩盤切削試験機設置工事	19940927	1.1	愛大埋文報Ⅴ
99410	城北	文京	12次	本格	工学部校舎新営(Ⅰ期)工事	19941110 ～ 19950726	1,183	愛大埋文報Ⅴ
99411	津田山			試掘	教育学部附属養護学校野外施設(東屋)設置計画	19950127	33	愛大埋文報Ⅴ
99501	城北	文京		立会	教育学部運動場内鉄棒移設工事	19950411 ～ 19950412	48	愛大埋文報Ⅶ
99502	城北	文京		試掘	教養部テニスコート(事務局北側)改修計画	19950801	9	愛大埋文報Ⅶ
99503	城北	文京		立会	工学部南側囲障工事	19950801	3	愛大埋文報Ⅶ
99504	城北	文京		試掘	理学部構内井戸工事計画	19950802	4	愛大埋文報Ⅶ
99505	山越	山越		試掘	山越団地防球ネット取設計画	19950802	7	愛大埋文報Ⅶ
99506	城北	文京	13次	本格	地域共同研究センター新営工事	19951017 ～ 19960412	890	愛大埋文報ⅩⅡ
99507	樽味	樽味		立会	公共下水道桝取設工事	19951114	2	愛大埋文報Ⅶ
99508	北吉井	桑原西稲葉		立会	北吉井団地公共下水道設置工事	19951115	1.6	愛大埋文報Ⅶ
99509	城北	文京		立会	城北団地(北西)通用門改修工事	19951116	3	愛大埋文報Ⅶ
99510	城北	文京		立会	埋蔵文化財調査室改修工事	19960131	1	愛大埋文報Ⅶ
99511	城北	文京		立会	城北団地基幹整備(電線管等)工事	19960213 ～ 19960220	34	愛大埋文報Ⅶ
99512	城北	文京		立会	城北団地事務局ガス管改修工事	19960311	2	愛大埋文報Ⅶ
99601	城北	文京	14次	本格	工学部校舎新営(Ⅱ期)工事	19960520 ～ 19970331	1,349	愛大埋文報Ⅶ
99602	城北	文京	15次	確認	1996年度構内遺跡確認調査	19961113 ～ 19961209	252.9	愛大埋文報Ⅶ
99603	樽味	樽味		試掘	附属農業高等学校舎新営計画	19961128 ～ 19961212	21.7	愛大埋文報Ⅶ
99604	樽味	樽味		試掘	附属農業高等学校温室新営計画	19961129	5.1	愛大埋文報Ⅶ
99605	樽味	樽味		試掘	農学部構内光ケーブル敷設計画	19961129	1	愛大埋文報Ⅶ
99606	持田	持田		立会	教育学部附属中学校プール改修その他工事	19970204	3.6	愛大埋文報Ⅶ
99701	城北	文京	16次A区	本格	工学部校舎新営(Ⅲ期)工事 (その1)	19970428 ～ 19971222	1,384	愛大埋文報Ⅷ
99702	城北	文京	16次B区	本格	工学部校舎新営(Ⅲ期)工事 (その2)	19970409 ～ 19970729	627	愛大埋文報Ⅷ
99703	樽味	樽味		本格	ＡＴＭ－ＬＡＮ整備工事に伴う調査	19970414 ～ 19970417	131	愛大埋文報Ⅷ
99704	城北	文京		立会	事務局案内板取設工事に伴う調査	19970804	2.7	愛大埋文報Ⅷ
99705	持田	持田		立会	持田団地内構内光ケーブル布設工事	19970804	4.5	愛大埋文報Ⅷ
99706	持田	持田		試掘	持田団地北側囲障改修計画	19970805 ～ 19970806	6.1	愛大埋文報Ⅷ
99707	樽味	樽味		試掘	樽味団地(附農高)校舎新営計画	19970806 ～ 19970807	12.2	愛大埋文報Ⅷ
99708	樽味	樽味		立会	樽味団地排水工事	19970807	2.4	愛大埋文報Ⅷ
99709	城北	文京		立会	工学部校舎新営電気設備工事 (その2)	19970818 ～ 19970918	12.2	愛大埋文報Ⅷ
99710	北吉井	桑原西稲葉	4次	本格	北吉井団地屋外排水管改修工事	19971008 ～ 19971201	100.4	愛大埋文報Ⅸ
99711	北吉井	桑原西稲葉	5次	立会	北吉井団地屋外ガス管改修工事	19971112 ～ 19971118	32	愛大埋文報Ⅸ
99712	樽味	樽味	4次	本格	農学部附属農業高等学校校舎新営工事	19971125 ～ 19980204	1,168	愛大埋文報Ⅸ
99713	樽味	樽味		試掘	附属農業高運動場東側防護ネット及び第3棟東側フェンス増設計画	19971218	6.1	愛大埋文報Ⅷ
99714	樽味	樽味		立会	附属農高校舎埋蔵文化財調査に伴う支障建物(農機舎及び車庫)整備工事	19980204 ～ 19980206	186.5	愛大埋文報Ⅷ

調査番号	団地名	遺跡名	調査次数	調査種別	調査原因となった工事名	調査期間	調査面積(㎡)	報告・備考
99715	城北	文京	17次	確認	1997年度構内遺跡確認調査	19980302 ～ 19980310	154	愛大埋文報Ⅷ
99716	樽味	樽味		立会	附属農高運動場東側防護ネット及び第3棟東側フェンス増設工事	19970311 ～ 19970312	21.2	愛大埋文報Ⅷ
99717	城北	文京		緊急	工学部校舎新営に伴う外表施設整備工事	19980217		愛大埋文報Ⅷ
99801	城北	文京		立会	「大正天皇お手植えの松」移植工事	19981108	1	愛大埋文報Ⅷ
99802	城北	文京	18次	本格	総合情報処理センター新営工事	19981215 ～ 19990802	1,192	愛大埋文報Ⅷ
99803	城北	文京		立会	工学部本館等事務室改修機械設備工事	19981214	0.7	愛大埋文報Ⅷ
99804	樽味	樽味		試掘	遺伝子実験施設新営その他工事計画	19990128 ～ 19990129	21.8	愛大埋文報Ⅷ
99805	城北	文京		立会	教育学部2号館南消火用水漏れ改修工事	19990311	3	愛大埋文報Ⅷ
99806	城北	文京		立会	理学部本館南消火栓管路改修工事	19990316	1	愛大埋文報Ⅷ
99807	樽味	樽味	5次	本格	遺伝子実験施設新営その他工事	19990316 ～ 19990721	979	愛大埋文報Ⅸ
99808	重信			試掘	医学部附属病院病棟建設計画	19990331 ～ 19990401	2.5	愛大埋文報Ⅷ
99809	城北	文京		立会	学生会館ガス管改修工事に伴う調査	19990603	1	愛大埋文報Ⅷ
99901	城北	文京	19A次	本格	工学等総合研究実験棟新営電気設備工事(1期)	19990907 ～ 19990913	31	愛大埋文報Ⅹ
99902	城北	文京	19B次	本格	工学等総合研究実験棟新営電気設備工事(2期)	19991201 ～ 19991217	43	愛大埋文報Ⅹ
99903	樽味	樽味		立会	農学部附属農業高等学校校舎新営電気・機械設備工事(1期)	19991006	1.4	愛大埋文報Ⅹ
99904	樽味	樽味		立会	農学部附属農業高等学校校舎新営電気・機械設備工事(2期)	19991025 ～ 19991029	25	愛大埋文報Ⅹ
99905	樽味	樽味		立会	農学部附属農業高等学校校舎新営電気・機械設備工事(3期)	19991124 ～ 19991128	31	愛大埋文報Ⅹ
99906	樽味	樽味		立会	農学部附属農業高等学校校舎新営電気・機械設備工事(4期)	20000128	2.5	愛大埋文報Ⅹ
99907	城北	文京		立会	「大正天皇お手植えの松」移植工事	20000125	20	愛大埋文報Ⅹ
99908	城北	文京		立会	理工学等総合実験棟新営電気設備工事(その2)	20000201	8	愛大埋文報Ⅹ
99909	城北	文京		立会	総合情報処理センター新営電気設備工事	20000208	8	愛大埋文報Ⅹ
99910	城北	文京	20次	本格	ｻﾃﾗｲﾄ・ﾍﾞﾝﾁｬｰ・ﾋﾞｼﾞﾈｽ・ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ(S.V.B.L)新営工事	20000214 ～ 20000620	588	愛大埋文報ⅩⅣ
99911	城北	文京		試掘	大学会館改修計画	20000216	9	愛大埋文報Ⅹ
99912	城北	文京		立会	城北団地外灯移設工事	20000216	1	愛大埋文報Ⅹ
99913	樽味	樽味		確認	農学部生態観察実験のための水田設置工事	20000310	1	愛大埋文報Ⅹ
99914	城北	文京		立会	埋蔵文化財調査室情報通信設備工事	20000313	19	愛大埋文報Ⅹ
99915	城北	文京		立会	法文学部講義棟空調電源工事	20000313	1	愛大埋文報Ⅹ
99916	樽味	樽味		立会	農学部附属農業高等学校校舎新営工事	19990507	－	愛大埋文報Ⅹ
00001	城北	文京		立会	大学会館改修工事	20000829 ～ 20000830	9	愛大埋文報Ⅹ
00002	城北	文京		試掘	教育学部クレイテニスコート改修計画	20000913	2.2	愛大埋文報Ⅹ
00003	城北	文京	21次	本格	基礎科学総合研究棟新営工事 (Ⅰ期)	20010115 ～ 20010909	1,644	愛大埋文報Ⅹ
00004	山越	山越		立会	山越運動場上水管改修工事	20010115	7	愛大埋文報Ⅹ
00005	城北	文京	22次	確認	2000年度遺跡範囲確認調査	20010123 ～ 20010124	33	愛大埋文報Ⅹ
00006	城北	文京		立会	教育学部クレイテニスコート改修工事	20010123 ～ 20010124	1	愛大埋文報Ⅹ
00007	城北	文京		立会	法文学部掲示板設置工事	20010315	5	愛大埋文報Ⅹ
00008	御幸			立会	御幸団地外灯設備改修その他工事	20010316	3	愛大埋文報Ⅹ
00101	城北	文京			同窓会連合会による五葉松移植工事	20010509	3	愛大埋文報ⅩⅠ
00102	樽味	樽味		試掘	農学部寄附建物新営計画	20010607	16	愛大埋文報ⅩⅠ
00103	城北	文京	23次	本格	四国電力による城北団地構内高圧線敷設工事	20010626 ～ 20010709	17.3	愛大埋文報ⅩⅣ
00104	城北	文京		立会	工学部屋外給水管布設替工事	20010801	0.6	愛大埋文報ⅩⅠ
00105	城北	文京	24次	本格	城北団地総合研究棟新営 (Ⅱ期) 工事	20011001 ～ 20020326	640	愛大埋文報ⅩⅠ
00106	樽味	樽味	6次	本格	農学部寄付建物新営工事	20011115 ～ 20020206	1,205	愛大埋文報ⅩⅠ
00107	城北	文京		立会	事務局構内外灯設備移設工事	20011121 ～ 20011127	6	愛大埋文報ⅩⅠ
00108	城北	文京		立会	教育学部4号館便所改修電気設備工事	20020326	1.5	愛大埋文報ⅩⅠ
00201	樽味	樽味	7次	本格	農学部2号館改修工事	20020403 ～ 20020523	170	愛大埋文報ⅩⅠ
00202	城北	文京	25次	本格	情報教育棟新営工事	20020601 ～ 20021218	1,022	愛大埋文報ⅩⅠ
00203	城北	文京		立会	情報教育棟用地埋蔵文化財調査に伴う土木工事	20020515 ～ 20020517	1	愛大埋文報ⅩⅠ

調査番号	団地名	遺跡名	調査次数	調査種別	調査原因となった工事名	調査期間	調査面積(㎡)	報告・備考
00204	城北	文京	26次	本格	総合研究棟等改修工事	20020719 ～ 20020809	144.7	愛大埋文報ＸⅠ
00205	城北	文京		立会	総合研究棟等改修電気設備工事	20021021	3	愛大埋文報ＸⅠ
00206	城北	文京		試掘	情報教育棟・放送大学愛媛学習センター新営その他工事計画（その２）	20021127	0.5	愛大埋文報ＸⅠ
00207	城北	文京		立会	総合研究棟新営電気設備工事	20021129	1.5	愛大埋文報ＸⅠ
00208	山越	山越		確認	2002年度構内遺跡確認調査	20021225 ～ 20021226	65	愛大埋文報ＸⅠ
00209	城北	文京		立会	総合研究棟新営電気・機械設備工事	20030123 ～ 20030129	22.6	愛大埋文報ＸⅠ
00210	城北	文京		立会	情報教育棟・放送大学愛媛学習センター新営電気設備工事	20030115	1.3	愛大埋文報ＸⅠ
00211	城北	文京		立会	総合研究棟等改修電気設備工事	20030303 ～ 20030304	1.9	愛大埋文報ＸⅠ
00301	城北	文京	27次	本格	総合研究実験棟新営工事	20030529 ～ 20031024	703	愛大埋文報ＸⅢ
00302	城北	文京		立会	総合研究実験棟新営工事に伴う樹木移植工事	20030527	39	愛大埋文報ＸⅢ
00303	城北	文京		立会	放送大学愛媛学習センターサイン取設工事	20030905	3.1	愛大埋文報ＸⅢ
00304	城北	文京	28次	本格	理学部総合研究棟改修工事	20031201 ～ 20031216	45.1	愛大埋文報ＸⅢ
00305	城北	文京		立会	安全衛生管理対策（実験盤等改修）工事	20040209 ～ 20040210	12	愛大埋文報ＸⅢ
00306	城北	文京		立会	安全衛生管理対策（廃液保管庫他改修）電気設備工事	20040304 ～ 20040305	1.4	愛大埋文報ＸⅢ
00307	城北	文京		立会	安全衛生管理対策（実験盤等改修）工事	20040304	2.6	愛大埋文報ＸⅢ
00401	城北	文京		立会	事務局敷地内看板基礎工事	20040716	2.5	本書
00402	樽味 城北	樽味 文京		立会	避難標識整備事業関連工事	20050124 20050131	2.6	本書
00403	城北	文京		立会	工学部講義棟便所改修電気設備工事	20050301	8.7	本書
00404	城北	文京		立会	給与福利課事務室新営電気・機械設備工事	20050324 ～ 20050329	3.5	本書
00405	御幸			立会	御幸団地寄付物件取付工事	20050223	2	本書
00501	城北	文京		立会	生物環境試料バンク改修工事	20050621 ～ 20050707	78.5	
00502	城北	文京		立会	城北団地基幹整備(舗装等)工事	20050824 ～ 20050826	38.6	
00503	城北	文京		試掘	共通教育講義棟避雷設備設置工事	20050824 ～ 20050825	12.4	
00504	東長戸	山越		立会	東長戸宿舎内電柱改修工事	20050831	0.3	
00505	東長戸	山越		立会	東長戸宿舎内電柱撤去工事	20051028	0.3	
00506	城北	文京		立会	事務局構内電柱建替工事(その１)	20051104	0.9	
00507	城北	文京		立会	事務局構内電柱建替工事(その２)	20051114	0.3	
00508	城北	文京		試掘	法文学部屋根付駐輪場設置計画	20051115	9.8	
00509	樽味	樽味		立会	農学部附属農業高校暖房蒸気漏修理工事	20051221	7.8	

[関連文献]
松山市文化財調査報告書11.文京遺跡.1976
松山市文化財調査報告書28.文京遺跡－第２・３・５次調査－.1992
松山市文化財調査報告書30.道後城北遺跡群.1992
愛媛大学埋蔵文化財調査報告Ⅰ.鷹子･樽味遺跡の調査.1989
愛媛大学埋蔵文化財調査報告Ⅱ.文京遺跡第８・９・11次調査.1990
愛媛大学埋蔵文化財調査報告Ⅲ.文京遺跡第10次調査.1991
愛媛大学埋蔵文化財調査報告Ⅳ.樽味遺跡Ⅱ－樽味遺跡２次調査報告－.1993
愛媛大学埋蔵文化財調査報告Ⅴ.愛媛大学構内遺跡調査集報Ⅰ－1987～1994年度における立会・試掘確認調査成果の報告－.1997
愛媛大学埋蔵文化財調査報告Ⅵ.樽味遺跡Ⅲ－樽味遺跡３次調査報告－.1997
愛媛大学埋蔵文化財調査報告Ⅶ.愛媛大学埋蔵文化財調査室年報－1995・1996年度－.2001
愛媛大学埋蔵文化財調査報告Ⅷ.愛媛大学埋蔵文化財調査室年報－1997・1998年度－.2002
愛媛大学埋蔵文化財調査報告Ⅸ.樽味遺跡Ⅳ－樽味遺跡４次・樽味遺跡５次・桑原西稲葉遺跡３～５次(北吉井団地)－.2003
愛媛大学埋蔵文化財調査報告Ⅹ.愛媛大学埋蔵文化財調査室年報－1999・2000年度－.2003
愛媛大学埋蔵文化財調査報告ⅩⅠ.愛媛大学埋蔵文化財調査室年報－2001・2002年度－.2004
愛媛大学埋蔵文化財調査報告ⅩⅡ.文京遺跡Ⅲ－文京遺跡13次調査報告－.2004
愛媛大学埋蔵文化財調査報告ⅩⅢ.愛媛大学埋蔵文化財調査室年報－2003年度－.2005
愛媛大学埋蔵文化財調査報告ⅩⅣ.文京遺跡Ⅳ－文京遺跡20次調査・文京遺跡23次調査－.2005

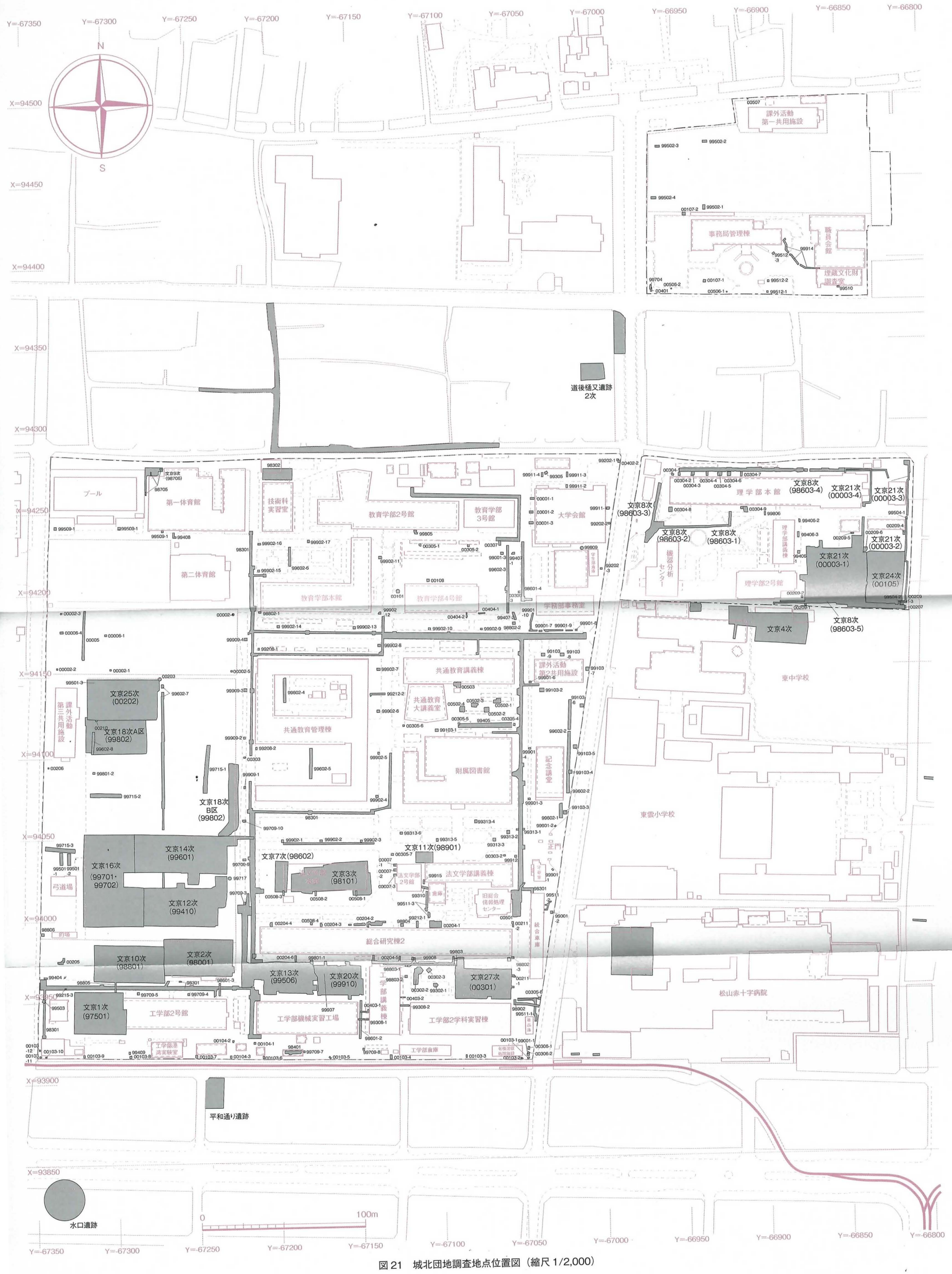


図 21　城北団地調査地点位置図（縮尺 1/2,000）

図 22　樽味団地調査地点位置図（縮尺 1/2,000）

Ⅳ　愛媛大学保管・所蔵の考古資料

Ⅰで触れたように、愛媛大学では埋蔵文化財調査室・法文学部考古学研究室以外でも、考古資料を保管・所蔵していることがある。ところが、これらの現状は必ずしも的確には把握されていない。旧歴史学研究会保管資料の問題が提起されたことを契機として、調査室・研究室以外で大学内に保管されている考古資料について、埋蔵文化財調査室で対応することが、2004年度の埋蔵文化財調査委員会で了承された。このうち、旧愛媛大学歴史学研究会保管資料は、同会廃部に伴って埋蔵文化財調査室に移管され、埋蔵文化財調査室では、まずこの資料の整理を行い、成果を順次公開していくこととした。以下は、その整理報告の第1段である。　（吉田）

1　旧愛媛大学歴史学研究会保管資料

(1) 愛媛大学歴史学研究会について

愛媛大学歴史学研究会は1951年に創設され、当初は歴史学を研究する学生・教員・卒業生で構成された団体として活動を行ってきた。途中から、学生自治会のサークルへと位置づけを変えるが、卒業生や教員を含めた活動が、一つの特徴となっている。週会・例会・分科会等での日常的な研究活動による成果は、大会発表や学祭企画などを通じて公表されるとともに、会誌『愛媛大学歴史学研究月報』が刊行されてきた。活動の盛衰は何度かあるものの、それでも概ね1970年代始め頃までは、活発な活動が行われていたようである。『愛媛大学歴史学研究月報』の刊行を年代別にみてみると、創立期の1950年代は1～38号、1960年代に39～56号、1970年代に57～60号、1980年代に61～68・69号、1990年代に70～73号である。

歴史学研究会における考古学関係の活動については、まず1950年代では柴村敬次郎氏による旺盛な活動が指摘できる。旧北条市の総合調査においても考古学班を主導し、悉皆調査を実施している。やや空白期を挟んで1960年代には、今治市相の谷古墳の発見・調査を契機に、正岡睦夫氏を中心とした活動が活発化する。1970年代前半には橋本幸男氏・十亀幸雄氏を中心とした活動に引き継がれ、1973年度からは考古学分科会が立ち上げられている。とりわけ1973年には、『愛大考古学研究月報』3冊が矢継ぎ早に敢行されるなど、旺盛な活動が見える。祝谷における資料の採集はこの頃を中心とするようである。　（吉田）

(2) 資料移管の経緯

埋蔵文化財調査室と歴史学研究会の接点は、1998年度に学外から、同研究会刊行文献に関する照会が調査室になされたことに始まる。調査室では、埋蔵文化財調査委員会委員で、歴史学研究会顧問であった川岡勉氏を介して在籍学生に連絡を取った。依頼文献は入手できたが、既に在籍学生が数名で、同研究会が存亡の危ぶまれる状態にあった。同時に、採集資料と見られる考古資料が、無造作に部室内に山積していることを確認した。しかし、容易に手のつけられる量ではなく、この時点では、同研究会刊行『歴史学研究月報』について、考古学関係部分の複写を行ったに留まった。顧問の川岡氏からは、同研究会の廃部も視野に入れて、保管資料の移管先を考慮していることが伝えられた。

2003年度末を迎え、ついに歴史学研究会廃部が決定し、部室の引き渡しが行われることとなった。散逸のおそれが生じた所蔵資料のうち文献資料に関しては、同研究会ＯＢが主宰する近代史文庫（松山市紅葉町）に移管することとなった。他方、土器・石器などの考古資料については、ほとんど未整理の状態で放置され、採集場所も明確でないなどもあり、移管先に苦慮していた。まずは、これら資料の散逸防止を第一に、大学周辺での活動経緯から大学構内遺跡との関連も想定され、資料に関する情報を最も蓄積している大学内の組織として、埋蔵文化財調査室に、資料の移管・整理と、将来にわたる保管、あるいは収蔵先の選定が、歴史学研究会顧問から埋蔵文化財調査室長に依頼された。これを受けて埋蔵文化財調査室では、まず部室

から歴史学研究会保管資料を移管した。そして、2004年度埋蔵文化財調査委員会において、同資料の調査室での整理・保管について承認を得て、具体的な整理作業を開始した。（吉田）

(3) 資料整理の方法

移管にあたって歴史学研究会部室を訪れた際、資料は段ボール箱・菓子箱あるいはビニール製ゴミ袋に詰め込まれて部室片隅に押し込まれ、一部は床にこぼれ落ちたものもあった。また、資料本体に注記のなされたもの、あるいはラベル等により出所を窺えるものも存在したが、多くは来歴を窺えるような状況になかった。そこで、まずは移管時の収納状態の単位を示す整理番号を与えることとした。段ボール箱等の大型の収納単位に親番号を付して調査室に持ち込み、その中で小分けされた収納毎、あるいは注記により単位を分離できるものについて、細分番号を与えていった。大別番号は2桁で01～39に及び、細別番号が付される場合も、01からの2桁表記とした。これに、愛媛大学歴史学研究会を表す「EU厂研」を冠して、「EU厂研12-03」等と、埋蔵文化財調査室での登録番号を付与したのである。

長年の放置状態による汚損もあり、登録番号注記の前に、ほとんどの資料について再洗浄を行わなければならなかった。既に注記がなされている資料については、洗浄による注記消失を避けるため、乾いた筆・ブラシ等で軽く埃等を除去し、既注記部分にニスを塗布してから、洗浄作業を行った。

登録番号は、歴史学研究会による最終的な「整理(保管)状況」を示すもので、採集単位等を示す可能性はあるものの、出土・採集地点を直接には示さない。そこで、箱書・ラベル・注記等から、出土・採集地点のわかる資料について、出土・採集地点毎に集め、まず登録番号内で、そして同一出土・採集地点が想定される中で、接合検討を行った。最終的には、出土・採集地点が明確でない資料との接合検討も行ったが、結果的には、注記等で判明していた以上に、出土・採集地点が新たに明らかになった例はほとんどない。また、歴史学研究会による記録類、あるいは元歴史学研究会会員からの聞き取り調査においても、出土・採集地点が新たに判明した事例はほとんどなかった。あるいは、今後新たに出土・採集地点の判明することもあり得るが、その可能性は高くないらしい。基本的には現時点で明らかにできた成果を表8として提示し、これを基礎台帳とする。（吉田）

(4) 資料の概要

一通りの整理により台帳化を図った結果、旧愛媛大学歴史学研究会保管資料は、コンテナ20箱に達した。収納時の箱書きあるいはラベルの添付、資料自体への注記から、採集・出土場所が特定できるのは12箱で、残る8箱は出土地に関して詳細不明である。来歴の判明した遺物は、松山市外採集資料がコンテナ2箱に過ぎず、ほとんどは松山市内出土・採集資料である。とくに、祝谷丸山遺跡、祝谷本村遺跡、長谷遺跡など、祝谷周辺の資料が4箱を数え、まとまった存在となっている。

謝辞；旧歴史学研究会保管資料の移管・整理にあたっては、以下の方々からご協力いただいた。
川岡勉（歴史学研究会顧問）、古谷直康（元歴史学研究会会員・近代史文庫）、正岡睦夫・十亀幸雄（元歴史学研究会会員）（吉田）

2　旧愛媛大学歴史学研究会保管の祝谷丸山遺跡採集資料(その1)

旧歴史学研究会保管資料中、最もまとまった資料は、祝谷丸山遺跡（2箱分）と長谷遺跡（1箱分）である。後者は、刊行物が十分流布していないものの、十亀(1973)によって出土・採集資料の報告が既になされている。一方の前者は、これまで採集資料が公表されてなく、まず祝谷丸山遺跡出土資料から、整理・報告を行うこととした。ただし、同資料中には比較的多くのサヌカイトを中心とした打製石器資料がある。十亀氏によると、打製石鏃などの製品は現在も氏の手元にあるらしい。また、十亀(1978)によってチャート製細石核、多田(1992)による再検討では楔形石器とされるチャート製石器関連資料も、採集資料にはある。したがって、サヌカイト及びチャート製石器関連資料については、なお時間をかけて整理し、後日改めて報告

することしたい。以下では、それ以外の土器・石器資料の報告を行う。（吉田）

(1) 祝谷丸山遺跡の立地と現状（図 23、写真 33・34）

祝谷丸山遺跡は、道後城北の南に開けた谷である祝谷のほぼ中位あり、松山市埋蔵文化財包蔵地地図では、「55. 北代遺物包含地」・「56. 緑台遺物包含地」・「57. 土居窪遺物包含地」として一括される中に位置する。

祝谷地区は、谷の中心に永谷川（大川）が南流し、その永谷川にむかって張り出す尾根や、合流する小河川・開析谷によって、地形的にいくつかのまとまりを形成している。これらの地形的まとまりと所在遺跡の範囲については、真鍋編 (2002) において既往調査分も含めて整理されている。それによれば、祝谷丸山遺跡は、永谷川左岸の丸山川に北を開析された尾根筋に所在する遺跡である。ただし、南を市の谷川に画された祝谷大地ヶ谷遺跡とは、大きくは同じ丘陵上に所在し、その境界は現時点で必ずしも明確でない。また、丸山川の北西側の永谷川左岸についても、祝谷丸山遺跡の範疇とされている。

さてそのうち、歴史学研究会において資料を採集したのは、丸山川が永谷川に合流する地点より北側の、東から西へ延びる丘陵上にあたる。1973 年の歴史学研究会による採集時も、また現在においても、その大半は愛媛県農事試験場であり、宅地化の進む周辺にあって、旧地形・遺跡の残存を比較的広く見込むことのできる場所となっている。ただしそれでも、南北方向の主要道路の両側では、宅地開発が進行しており、1973 年段階と現在では、かなり様相を変えている地点も少なくない。（吉田）

(2) 祝谷丸山遺跡周辺の既往調査（図 23）

採集地点周辺では、これまで発掘調査も行われてきている。まず、祝谷丸山遺跡としては、永谷川の西岸で 1 次調査が行われており、弥生時代中期中葉から後期中葉の土器と、古墳時代後期の須恵器が出土している（梅木編 1989）。また、西を永谷川、東を丸山川に挟まれた地点が丸山遺跡 2 次として調査され、中期中葉を中心に、中期前葉から後葉の遺物を比較的多く出土している（小林・小原編 1990）。祝谷丸山遺跡内の既往調査は以上であるが、調査原因となった一般県道「菅沢－松山線」建設は、丸山川東岸の祝谷丸山遺跡の範囲内にも及んでいる。ただし、その範囲内では試掘調査により砂層は確認されたものの、遺構・遺物包含層は検出されず、本調査に到っていない（梅木編 1989）。

祝谷丸山遺跡周辺では、永谷川西岸の祝谷丸山遺跡最初の調査地点の西側谷部は、松山市教育委員会により祝谷六丁場遺跡として面的に調査が行われ、弥生時代中期中葉の遺物が豊富に出土するとともに、平形銅剣Ⅱ式 1 口が埋納土壙から出土している（宮崎編 1991）。そしてさらに上流部では、祝谷六丁目遺跡や祝谷アイリ遺跡の調査が行われ、後者では弥生時代中期中葉と後期前葉、そして古墳時代後期の遺構・遺物が出土している（梅木編 1992）。他方、祝谷丸山遺跡の下流側では、永谷川西岸で祝谷西山遺跡、東岸で祝谷大地ヶ田遺跡がそれぞれ調査されている。前者では、弥生時代中期後葉と中世の土壙等が出土してる（平岡編 2002）。後者では、市の谷川と永谷川の合流部付近で、松山市教育委員会による 1 次調査により、弥生時代中期中葉を中心とした遺物が出土している（梅木編 1994）。また、最上流部にあたる 2 次調査で

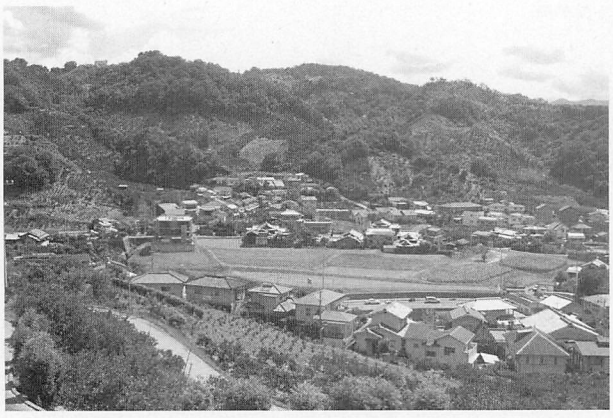


写真 33　祝谷丸山遺跡遠景（西から、2005 年 8 月撮影）

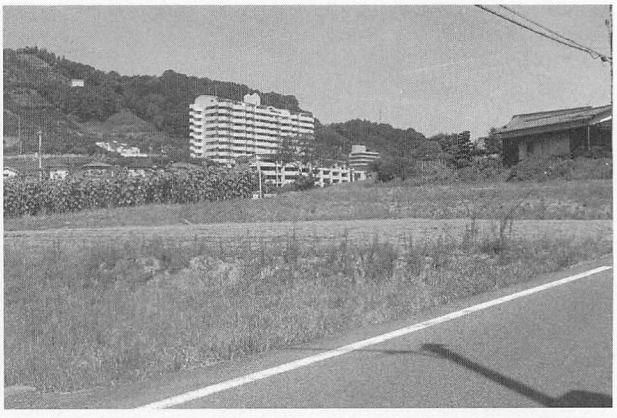


写真 34　祝谷丸山遺跡近景（南東から、2005 年 8 月撮影）

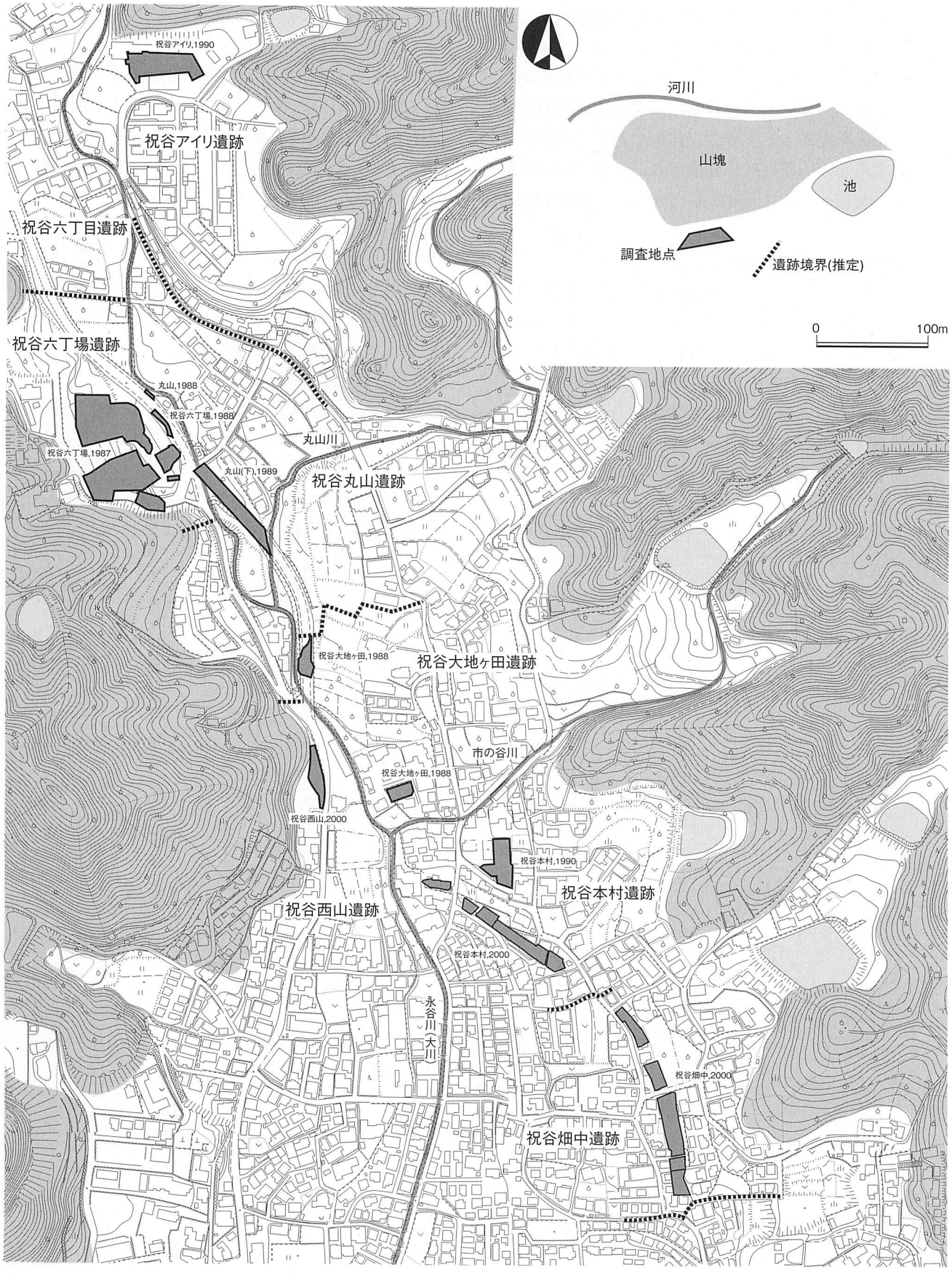


図 23　祝谷丸山遺跡位置図（縮尺 1/5,000、真鍋編 2002 より改変）

は、中期中葉を中心とした遺物・遺構が確認されるとともに、古墳時代前期遺物の出土も見ている（梅木編1989）。そして、これらの下流では、祝谷本村遺跡と祝谷畑中遺跡、土居窪遺跡が愛媛県埋蔵文化財調査センターにより調査され、特に祝谷畑中遺跡では弥生時代前期末葉から中期初頭に掘削された大溝と中期中葉の集落が判明している（真鍋編 2002）。　（濱田･吉田）

(3) 祝谷丸山遺跡採集資料

（図 24 ～ 29、写真 35 ～ 42）

愛媛大学歴史学研究会による祝谷丸山遺跡の調査は 1973 年に行われており、確認できる範囲において、同年 6 月、11 月、12 月の採集時が、保管ラベル等に記録されている。採集地点は、先記したように愛媛県農事試験場を中心とした丘陵先端部にあたるが、農事試験場内部より､むしろ道路東側からの採集が多い（図 24）。

祝谷丸山遺跡採集と確定できた資料は、量にしてコンテナ 2 箱分になる。主体を占めるのは弥生土器で、他に須恵器、土師器、埴輪、石器などがある。近現代のものと考えられる資料と打製石器資料を除き、図化可能な遺物 100 点について報告する。なお、打製石器資料に関しては別の機会に報告する予定である。

1 ～ 83 は弥生土器で、壺・甕・高坏・鉢・回転台形土器がある。

1 ～ 31 は壺である。1 ・ 2 は内面に突帯をもつ口頸部で、1 は外面に C 字状と推測される貼付浮文を有する。3 は外面に 1 条の貼付突帯とヘラ描き沈線を 2 条以上施す肩部である。1 ～ 3 は伊予中部Ⅰ - 4 ～Ⅱ様式（梅木 2000）と考えられる。

4 ～ 15 は口頸部である。4 ～ 6 は緩やかに外反する頸部から口縁部に到るもので、4 ・ 6 は頸部と肩部の境に断面三角形の突帯を 1 条巡らしている。7 ～ 15 は直立気味または逆ハの字状に伸びる頸部から、外反して口縁部に到るもので、口縁端部をやや肥厚させる 7 ～ 11 と、口縁端部を下方に大きく拡張する 12

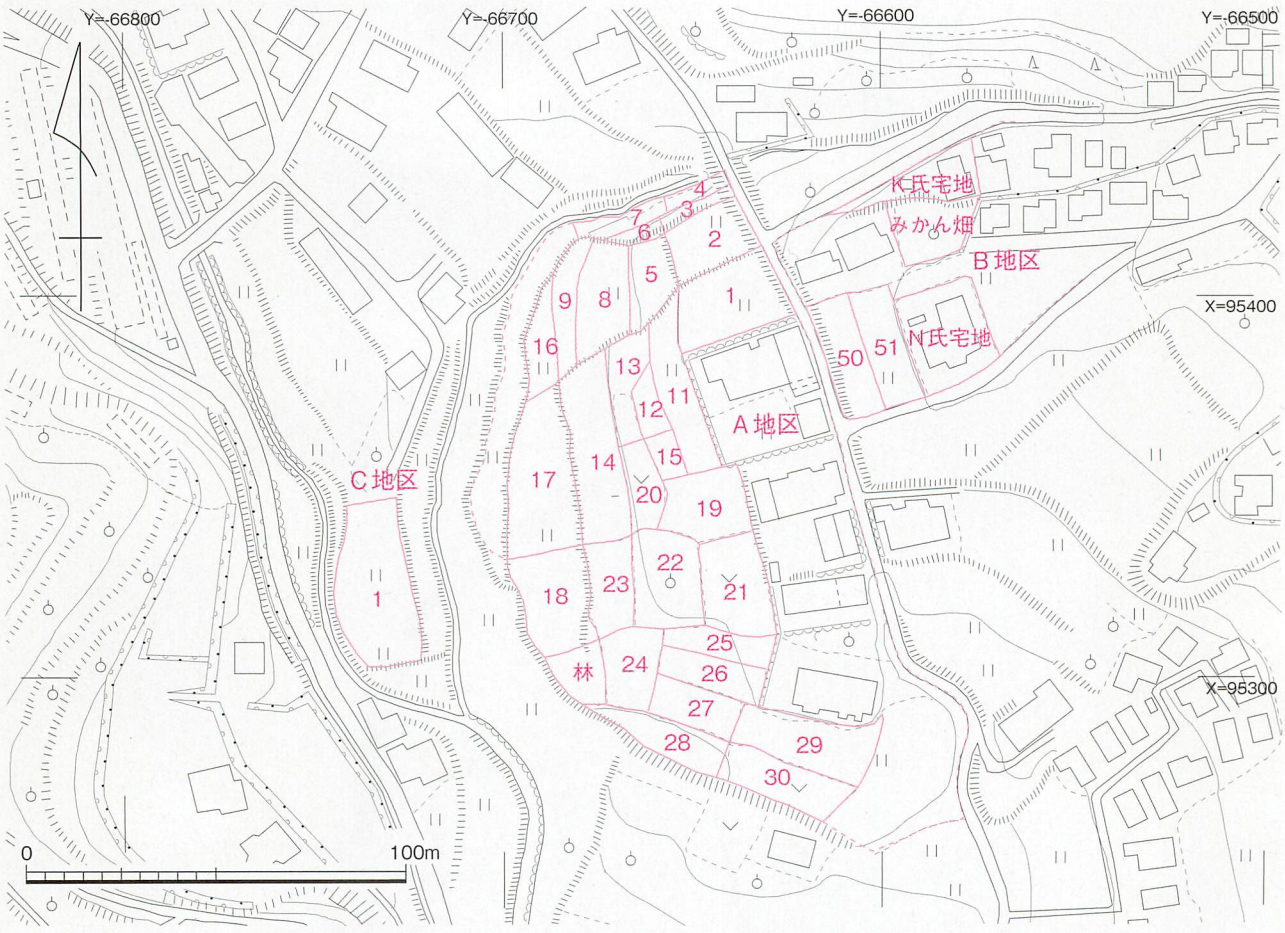


図 24　祝谷丸山遺跡資料採集地点　（縮尺 1/2,000、1976 年編集松山市都市計画図 J5 より作成）

～15がある。7・9～11の口縁端部はヘラ状工具による刻目を施し、7は右上がりの直線文、9・10は山形文、11は格子目文である。13は内面に円形浮文を有する。7・10の頸部と肩部の境には押圧突帯を巡らす（写真35)。16～18は多条の貼付突帯を有する頸部である。16は傾きから多条突帯の最上部と判断した。19～22は肩部で、19～21は頸部と肩部の境に布目痕をもつ押圧突帯を巡らせている。22は外面に草本類の茎束による右上がりのナデ調整を施した後、クシ描直線文1帯を巡らす（写真36)。4～22は伊予中部Ⅲ様式に位置づけられよう。

23は頸部から緩やかに外反する口縁部で、肩部にノの字状の刻目文を施す。24～27は拡張した口縁端部に数条の凹線文を巡らす。23～27は伊予中部Ⅳ様式と考えられる（写真37)。

28は、やや拡張した端部に沈線化した凹線文を2条巡らす口縁部、29は緩やかに屈曲する頸部～肩部である。30は天地を逆にしてみた場合、外反する口縁部である可能性もあるが、胎土から弥生後期と判断し、複合口縁壺の二次口縁部と考えた。上方にヘラ描沈線文を確認できるが、下方は磨滅のため文様の有無不明である。31は頸部～肩部で、頸部に直線文を施した後、縦方向に刺突文を施す。複合口縁壺の口縁部とも考えられたが、上半部が直線的で、接合部と考えられる痕跡がない点から頸部～肩部と判断した。肩部から頸部に到る屈曲が急である点や文様から複合口縁壺の可能性がある(写真37)。28は伊予中部Ⅴ-1様式、29～31は伊予中部Ⅴ様式の範疇と考えられる。

32～46は甕である（写真38)。32は小型の甕と考えられ、逆L字状に折り曲げる口縁部を有する。外面は縦方向、内面は横方向のミガキ調整で、外面にヘラ描沈線文を施している可能性がある。33はいわゆる瀬戸内型甕の一種で、口縁外面に三角形状の粘土帯を貼り付けて端部を拡張し、その上面にクシ描斜線文を施す。32は伊予中部Ⅰ-4様式である可能性が高く、33は伊予中部Ⅱ様式と考えられる。

34～38は胴部から強く屈曲して外上方または水平方向にのびる口縁部をもち、屈曲部からやや下がった位置に突帯を貼り付ける、いわゆるF字形口縁の甕である。34・35は折り曲げ口縁で、下方に刻目突帯をもつ。36は刻みを施さない断面三角形状の突帯、37は布目痕を残す押圧突帯を有する。38は貼付口縁で、口縁端部を短く屈曲させ、貼付部下端を突帯状の段とする。34～38は伊予中部Ⅲ様式と考えられる。

39・40は口縁部と胴部の境に押圧突帯を巡らし、40は布目痕を残す。伊予中部Ⅳ様式と考えられるが、39はF字形になり、Ⅲ様式に遡る可能性もある。

41～44はくの字状の折り曲げ口縁で、伊予中部Ⅲ～Ⅴ-1様式と考えられる。

45は胴部から緩やかに屈曲し口縁部に到り、内外面にハケ目調整を施すもので、伊予中部Ⅴ-2様式と考えられる。46は端部をやや拡張させる比較的長い口縁部で、外面に縦方向のハケ目調整を施し、伊予中部Ⅴ-2様式以降に位置づけられる。

47～74は底部。うち、47～57は壺と考えられ、55～57は大型品である。47～52・55はやや上げ底状を呈し、以外は平底を呈する。伊予中部地域の壺の底部は、Ⅰ～Ⅴ-1様式まで平底とやや上げ底状が存在するが、Ⅰ～Ⅱ様式では、接地面から一旦垂直方向に立ち上がってから胴部に到るのに対し、Ⅲ～Ⅴ-1様式では、そのまま緩やかに外膨らみの胴部へ移る。口縁部片の時期とあわせて判断するならば、47は伊予中部Ⅱ様式の可能性が高く、他はⅢ～Ⅴ-1様式の時間幅で捉えられよう。

58～74は甕と考えられる底部である。58～62は平底、63～67は上げ底状、68～74は高台状の上げ底を呈する。74は底部に焼成前穿孔を施す。甕の底部は、Ⅰ～Ⅱ様式で平底とやや上げ底状があるが、Ⅱ様式の新しい段階からⅢ様式に、やや上げ底状が顕著となり、Ⅲ様式の新しい段階からⅣ様式にかけては高台状と平底になり、前者は口縁部に凹線文をもたないものに多い。Ⅴ-1様式では小さくくびれて上げ底を呈するものと平底のものになる。これらを考慮するならば、63～65はⅡ～Ⅲ様式、68～74はⅢ～Ⅳ様式、66・67はⅤ-1様式の可能性がある。

75～78は高坏である（写真39)。75は坏部で、口縁部に4条の凹線文を施す。76・77は坏部～脚部で、いずれも外面は縦方向のミガキ調整を施し、接合は円盤充填による。76の脚端部はやや拡張され、2条の凹線文を巡らせている。78は脚裾部で、外面に残存部で3条の凹線文を巡らせている。77はⅢ様式の可能性が高いが、他は伊予中部Ⅳ様式と考えられる。

79は鉢である。水平方向に屈曲する口縁部と丸みをもつ胴部をもち、伊予中部Ⅲ様式と考えられる。80はジョッキ形土器の把手部分で、伊予中部Ⅲ～Ⅳ様式に位置づけられる。81は湾曲からつまみ部と考えら

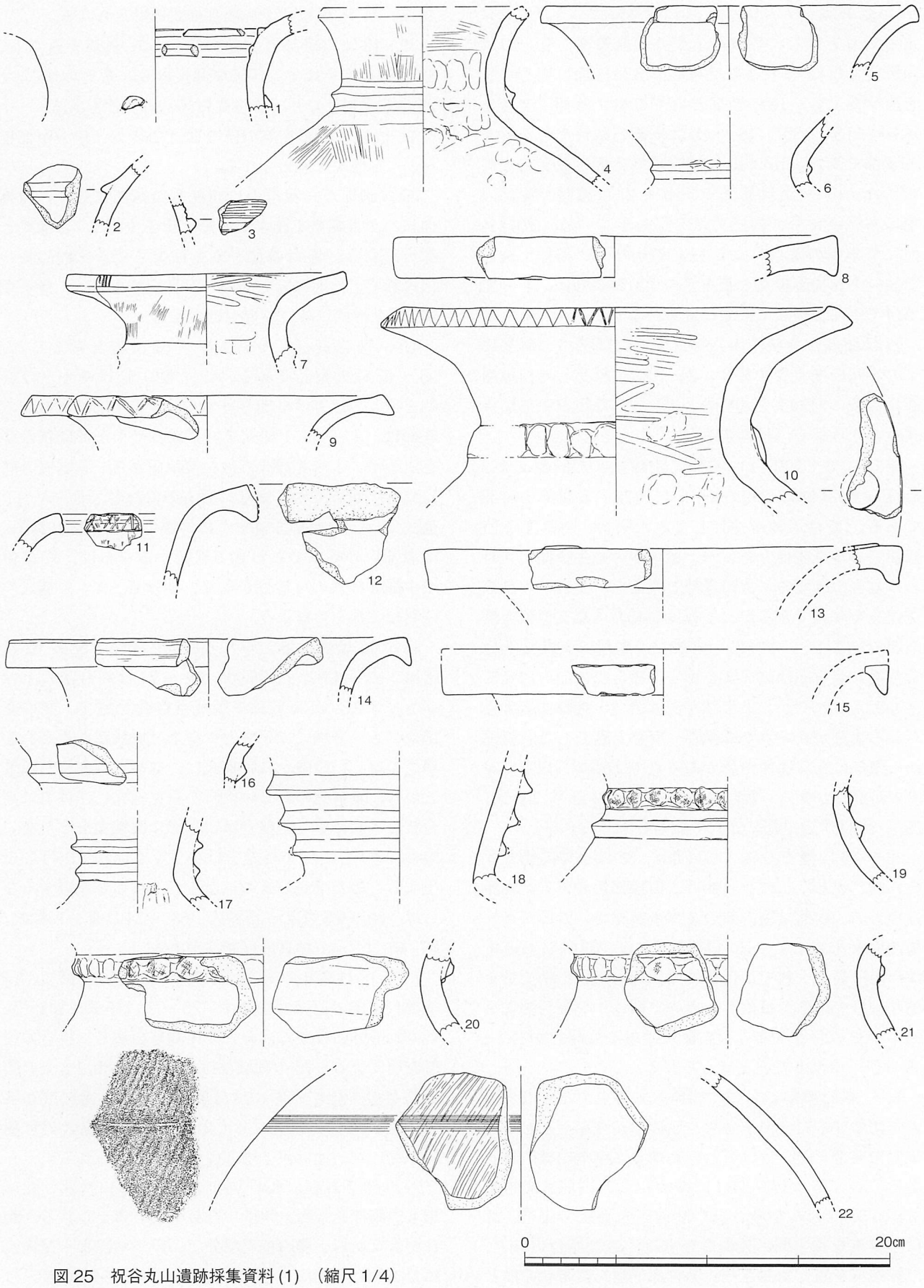


図 25　祝谷丸山遺跡採集資料 (1)　(縮尺 1/4)

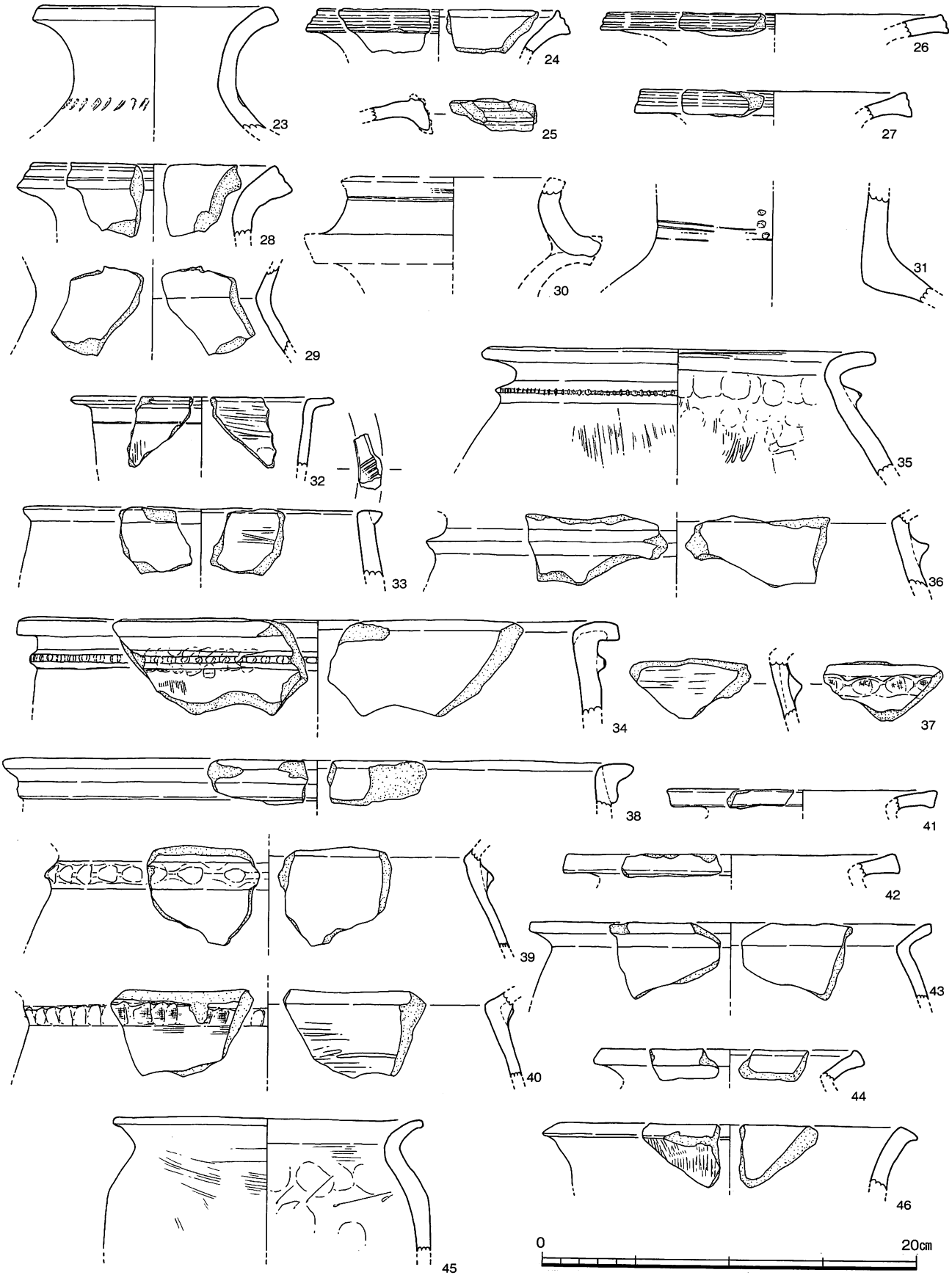


図 26　祝谷丸山遺跡採集資料 (2)　(縮尺 1/4)

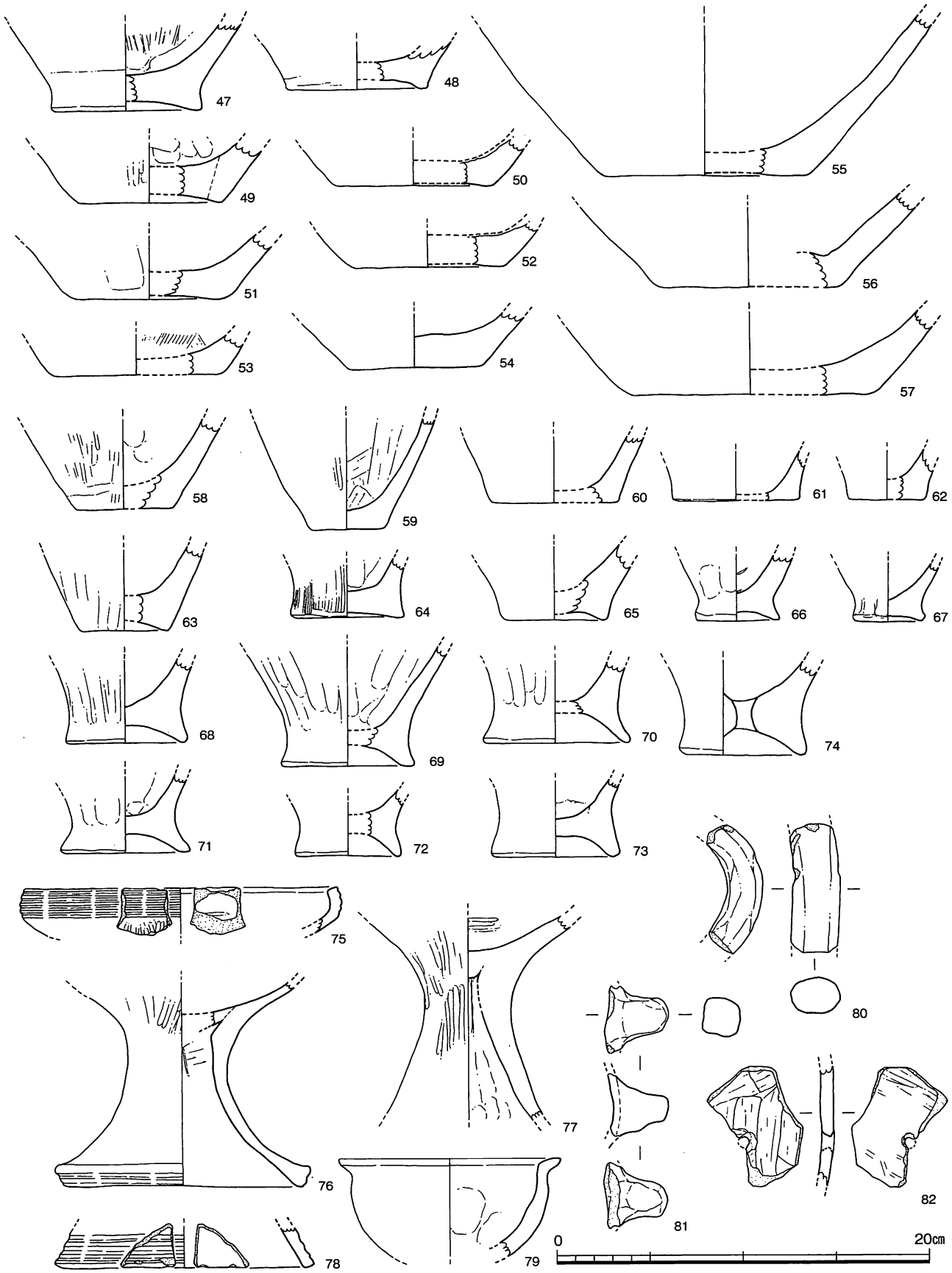


図 27　祝谷丸山遺跡採集資料 (3)　(縮尺 1/4)

れるが、器種不明である。82は外面からの焼成後穿孔を有する胴部片で、土器片転用の紡錘車の可能性がある。孔の直径は約5㎜である。外面にミガキ調整、内面にケズリ調整を施しており、本来は伊予中部Ⅲ～Ⅳ様式の甕と考えられる（写真40)。83は回転台形土器と考えられる。天井部の縁辺部は鍔状に突出し、天井部上面の縁辺部近くには、わずかに同心円状の窪みが認められる。なお、天井部と脚部の中心軸には若干のずれがある（写真41)。

84～93は須恵器で、坏蓋・坏身・高坏・壺類・大甕がある。

84は坏蓋の口縁部である。天井部と口縁部の境に凹線状の段を有しており、MT15型式併行と考えられる。85・86は坏身である。85は受部から体部にかけての破片で、受部は短いが体部に深みがあり、受部のやや下方まで回転ヘラケズリ調整を施している。TK10型式以前に位置づけられる。86は一部欠損しているものの、全形が復元できる。受部は短く突出するが、立ち上がりが比較的長いことからTK10型式併行と考えた。焼きひずみが顕著である（写真42)。

87～89は高坏で、87は坏部、88・89は脚裾部である。87は口縁部と底部の境にわずかな段を有することからTK47～TK10型式併行、88・89は端部付近に段を有することからTK47～MT15型式併行と考えられる。

90は器種不明であるが、器厚から壺類の口縁部と考えられる。91は短頸壺の体部下半の可能性が高い。底部から全体の1/3程度に回転ヘラケズリ調整を施している。92・93は大甕である。92は端部を上方に拡張し、外面に2条の突帯を有し、TK23～47型式併行と考えられる。93は口縁部に突帯が見られないことから、TK10～209型式併行と考えられる。

94は土師器で、甑または甕の把手と考えられる。磨滅・剥落により本来の外形をほとんど保っていないが、残存部から上方に向かって緩やかに湾曲する幅広の形状と推定される。

95は円筒埴輪の胴部片である。断面台形状の突帯が1条残存している。磨滅のため調整は不明であるが、突帯の突出が約6㎜と比較的高く、貼り付けも丁寧であることから、松山平野北部の中で考えると、5世紀代に収まると考えられる。

96は幅広で丸みのある貼付高台を有する瓦器椀の底部で、12世紀代と考えられる。

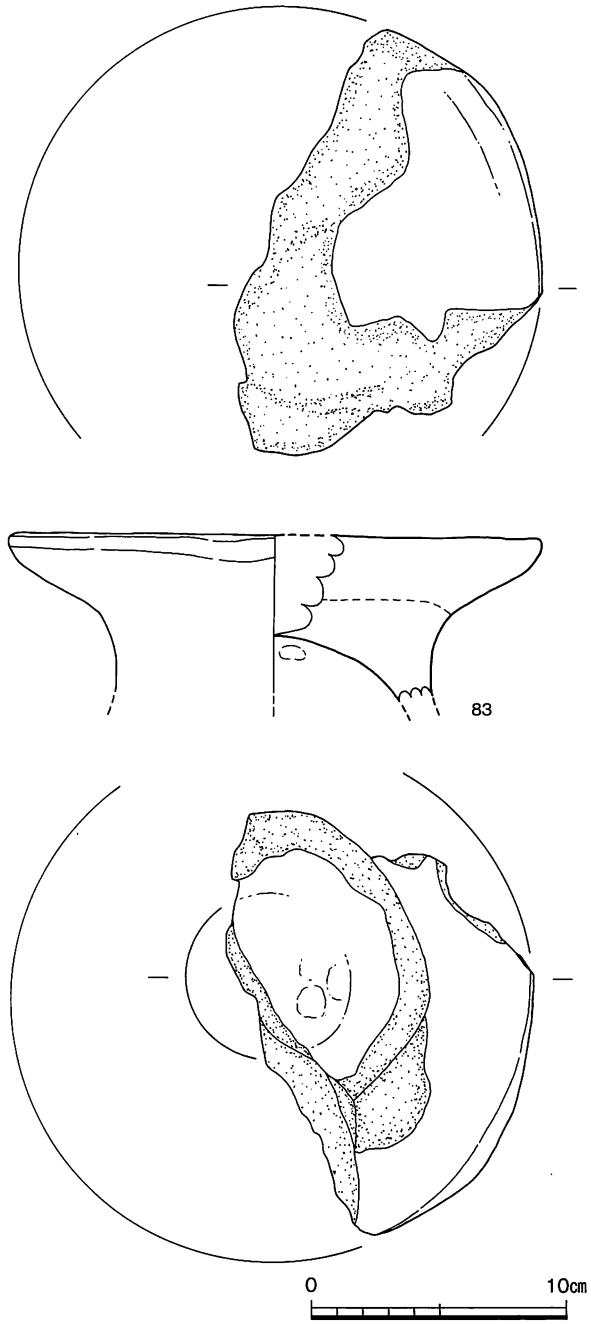


図28　祝谷丸山遺跡採集資料(4)　(縮尺1/4)

97は石庖丁の刃部片である。結晶片岩製で、鏑は明瞭でないものの偏両刃を呈する（写真43)。98は砂岩質の剥片で、節理が発達している。99・100はいずれも加工痕は認められないが、結晶片岩であることから、石器素材である可能性が残る。

このほか図化できなかったものには、弥生土器の小破片約260点、須恵器の小破片約30点、加工痕のない結晶片岩などがある。須恵器片の多くには、内面に

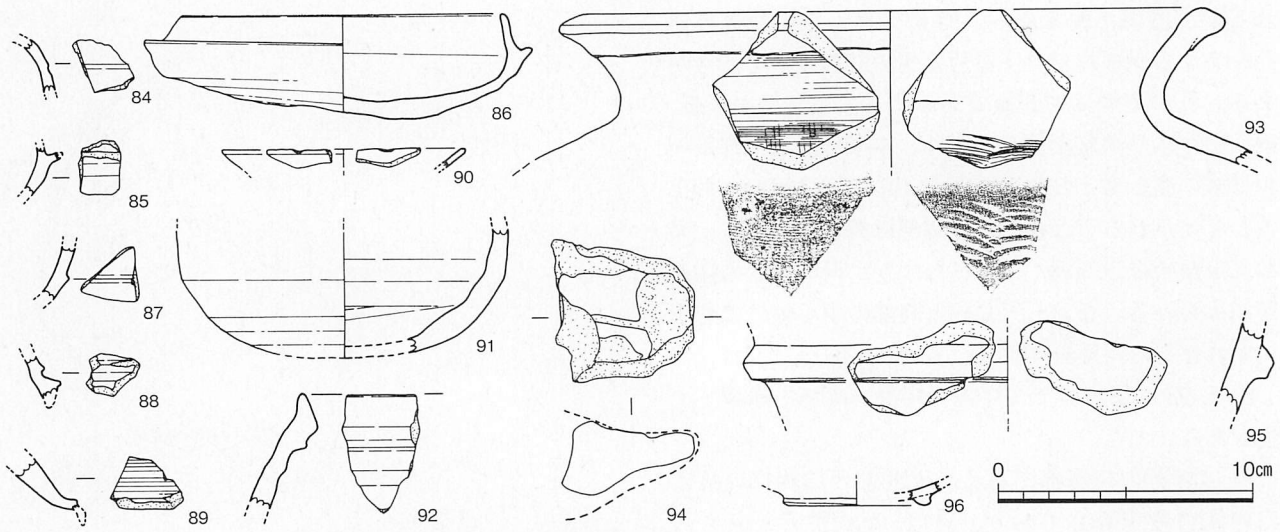


図 29　祝谷丸山遺跡採集資料 (5)　(縮尺 1/4)

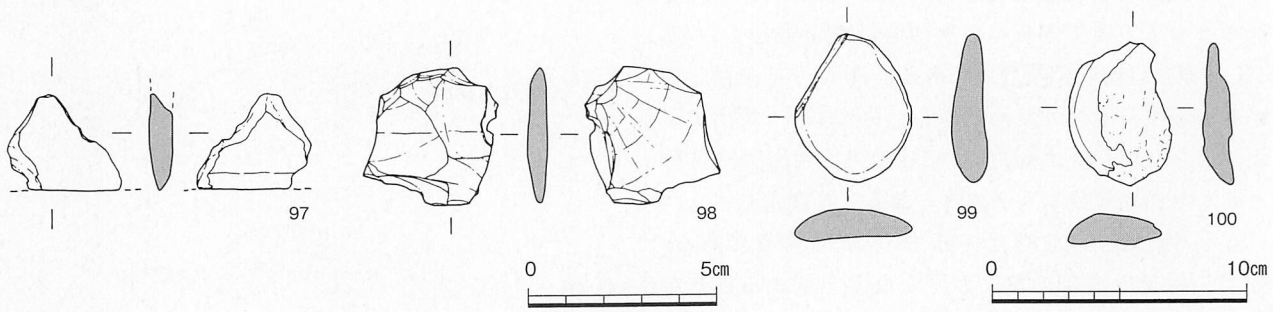


図 30　祝谷丸山遺跡採集資料 (6)　(縮尺 1/2、1/3)

同心円文のあて具痕が認められ、外面には平行叩き目、擬格子状叩き目、平行叩き目後カキメ調整などが残る。他に、底部にヘラによる切り離しの痕跡を残す土師器片や土師質鍋の口縁部、瓦器片、備前焼の破片などが採集されている。

以上、表採遺物を概観すると、その約 8 割を弥生土器が占め、次いで須恵器が多く、土師器や瓦器が少量混じるという状況である。

遺物の表採は、大きく A 地区、B 地区、C 地区という区分けで行われている。A 地区・B 地区は丸山川左岸にあり、A 地区は道路を挟んで西側の県農事試験場周辺、B 地区は道路を挟んで東側の宅地周辺にあたる。C 地区は丸山川の右岸にあり、丸山川と永谷川 (大川) の合流地点にあたる (図 24)。このうち B 地区から、全体の 6 割ほどの量の遺物が表採されている。

丸山地区周辺は北東部に丘陵が位置し、南西側へ向かって緩やかに傾斜していく地形である。遺物は丸山川沿いの地区で多く採集されているが、丸山川の開析は深く、丸山川右岸から遺物が流入した可能性は低い。したがって、採集資料の大部分は東側から流入したものと考えられる。表採遺物の大部分を占める弥生土器は、全区域から採集されており、時期による分布の偏りはみられない。一方、須恵器は A- 5 地区、A-15 地区、A-16 地区に比較的集中しており、A 地区の中でも北側に多く分布している。

これら表採遺物から判断するならば、祝谷丸山の弥生時代遺跡は、弥生時代前期末～後期前半の時間幅をもち、中心は弥生時代中期中葉と考えられよう。一方、古墳時代遺跡としては、少量ではあるが須恵器片から、TK23 型式～ TK209 型式併行という時間幅で捉えることができる。また、5 世紀代と考えられる円筒埴輪の胴部片も 1 点、表採されている。紛れ込みである可能性もあるが、東側丘陵部に古墳が存在した可能性も否定できない。さらに、採集遺物に土師器片や瓦器片が含まれることから、丸山地区に古墳時代以降も遺跡が存在していた可能性がある。

(濱田・吉田)

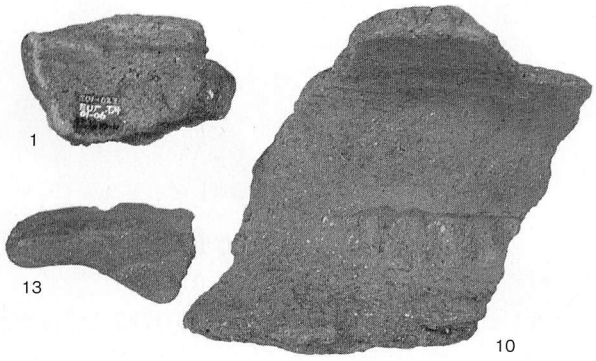


写真 35　祝谷丸山遺跡採集資料 (1)

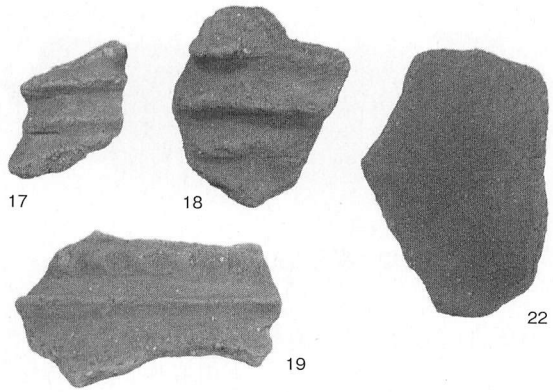


写真 36　祝谷丸山遺跡採集資料 (2)

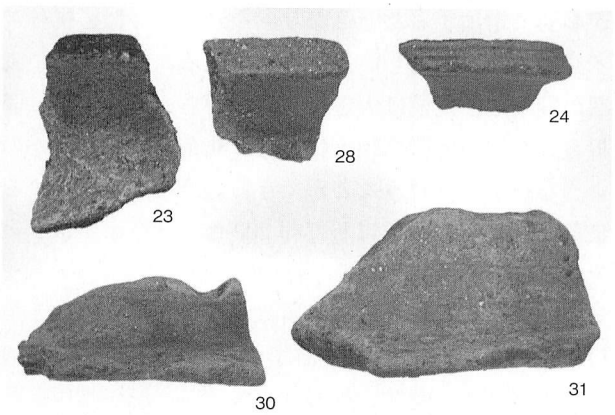


写真 37　祝谷丸山遺跡採集資料 (3)

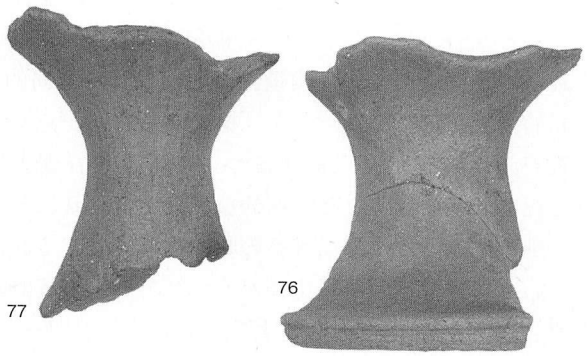


写真 39　祝谷丸山遺跡採集資料 (5)

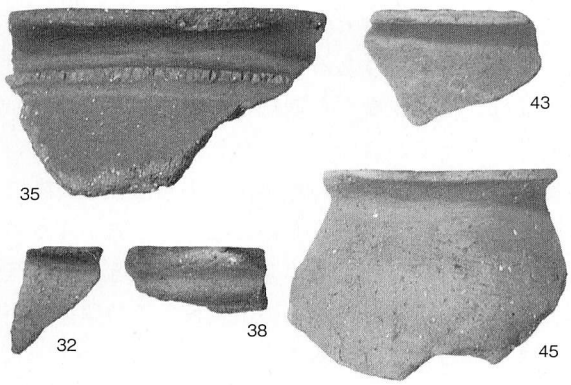


写真 38　祝谷丸山遺跡採集資料 (4)

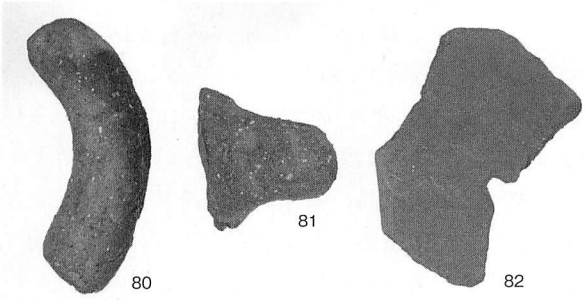


写真 40　祝谷丸山遺跡採集資料 (6)

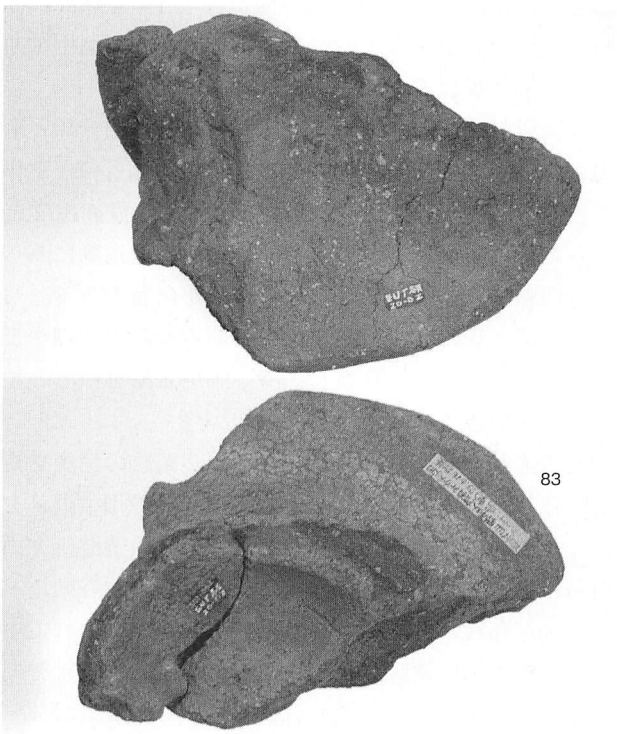


写真 41　祝谷丸山遺跡採集資料 (7)

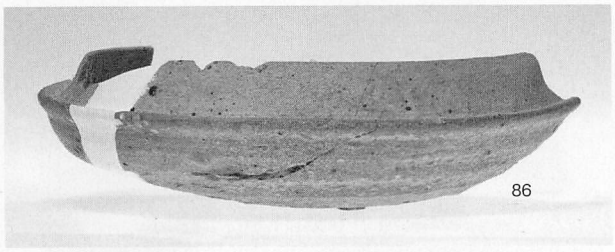


写真 42　祝谷丸山遺跡採集資料 (8)

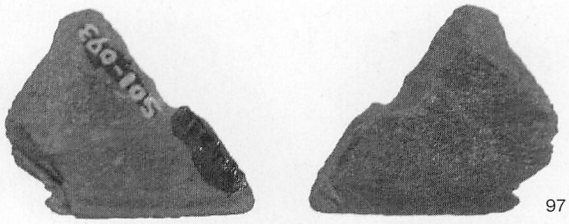


写真 43　祝谷丸山遺跡採集資料 (9)

(4) 祝谷丸山遺跡をめぐる諸問題

上記してきたように、祝谷丸山遺跡は弥生時代～中世に位置づけることができ、最も中心となるのは弥生時代と考えられる。弥生時代においては、丸山遺跡が所在する祝谷地区には、多くの遺跡が知られており、これら遺跡群の中で、丸山遺跡がどのような時間的・空間的位置を占めていたのか、検討する必要がある。

祝谷地区の弥生時代遺跡については、祝谷畑中遺跡、祝谷六丁場遺跡などで面的な調査がなされ、とりわけ畑中遺跡では豊富な資料の時期的整理と、それに基づいた周辺遺跡の消長比較が行われている（真鍋昭文編 2002)。ゆえに、本資料もその分類にしたがって、周辺遺跡との比較をまず行う。祝谷畑中遺跡においてはⅠ～Ⅲ期の区分がされており、先に用いた梅木編年との対応関係は、畑中Ⅰ期が梅木編年Ⅰ - 4 様式～Ⅱ様式、畑中Ⅱ期が梅木編年Ⅱ様式～Ⅲ様式、畑中Ⅲ期が梅木編年Ⅲ様式となる。

今回資料化した遺物を祝谷畑中遺跡の形態分類と変遷に照らしてみると、畑中Ⅲ期に相当するものが主体を占め、逆Ｌ字状口縁や内面突帯、クシ描直線文といった畑中Ⅰ期～Ⅱ期のものや、畑中Ⅲ期以降にみられる凹線文土器なども少量ではあるが確認できる。したがって、祝谷丸山遺跡は畑中Ⅰ期古段階から畑中Ⅲ期以降まで継続して存在し、特に畑中Ⅲ期を中心とすることができる。

畑中遺跡の時期区分に基づいて周辺遺跡の消長を概観すると、畑中Ⅰ期～Ⅱ期の段階に、祝谷畑中遺跡をはじめとして、祝谷六丁場遺跡、祝谷丸山遺跡（丸山川右岸)(注 1)、祝谷丸山遺跡（丸山川左岸)、祝谷大地ヶ田遺跡が存在する。このうち、住居跡が検出されているのは祝谷畑中遺跡、祝谷六丁場遺跡である。祝谷丸山遺跡（丸山川右岸･左岸)、祝谷大地ヶ田遺跡は流路･包含層であり、それぞれ遺跡の東側に集落が展開すると想定される。祝谷大地ヶ田遺跡に関しては、その東側に個別に集落があったものか、祝谷丸山遺跡（丸山川左岸）の集落と同一の集落なのか、現時点では判断できない。

続いて畑中Ⅲ期に入ると、これらの遺跡では遺物量が劇的に増加することとなり、それとともに、祝谷アイリ遺跡などの新しい遺跡も出現する。結果、畑中Ⅲ期の段階で、規模は大きくないながらも、小河川に開析された間の各微高地上に、遍く集落が展開したかのような様子すら窺うことができる。そして、隣接する集落間は、直線距離にして約 200 m～ 350 mと、互いを視認できる関係である（図 31)。

ところが、祝谷地区の集落は、中期後葉に入ると規模が縮小し、祝谷西山遺跡で遺構が確認されるものの、祝谷アイリ遺跡、祝谷六丁場遺跡、祝谷畑中遺跡の集落は一斉に姿を消し、後期になって再び出現すると考えられる。今回の報告資料の中には、少量ではあるが中期後葉の遺物も含まれており、表採資料から判断するのは早計ではあるが、祝谷丸山遺跡（丸山川左岸）では、小規模ながら継続して生活が営まれていた可能性も考えておきたい。ただし、祝谷地区において各微高地上に展開していた集落が中期後葉の段階で一旦縮小するという大勢は変わらない。このような中期後葉における祝谷地区の集落遺跡の退潮と、近傍低地部における文京遺跡大集落の出現は、その関連性が強く示唆されるところであろう。

なお、祝谷丸山遺跡（丸山川左岸）採集遺物としては、以前にもチャートや姫島産黒曜石が紹介されている。チャートに関しては当初、細石刃関連資料として報告された（十亀 1978）ものであるが、その後、楔形石器であるとの位置づけがなされている（多田 1992)。加えて、今回は未報告であるが、サヌカイト製の石鏃や石鏃未製品、剥片が採集されていることなどから、祝谷丸山遺跡（丸山川左岸）は、石器生産に関連する遺跡である可能性が高いと考えられる。

近隣では、祝谷六丁場遺跡（サヌカイト･赤色頁岩･姫島産黒曜石）や祝谷畑中遺跡（姫島産黒曜石）にお

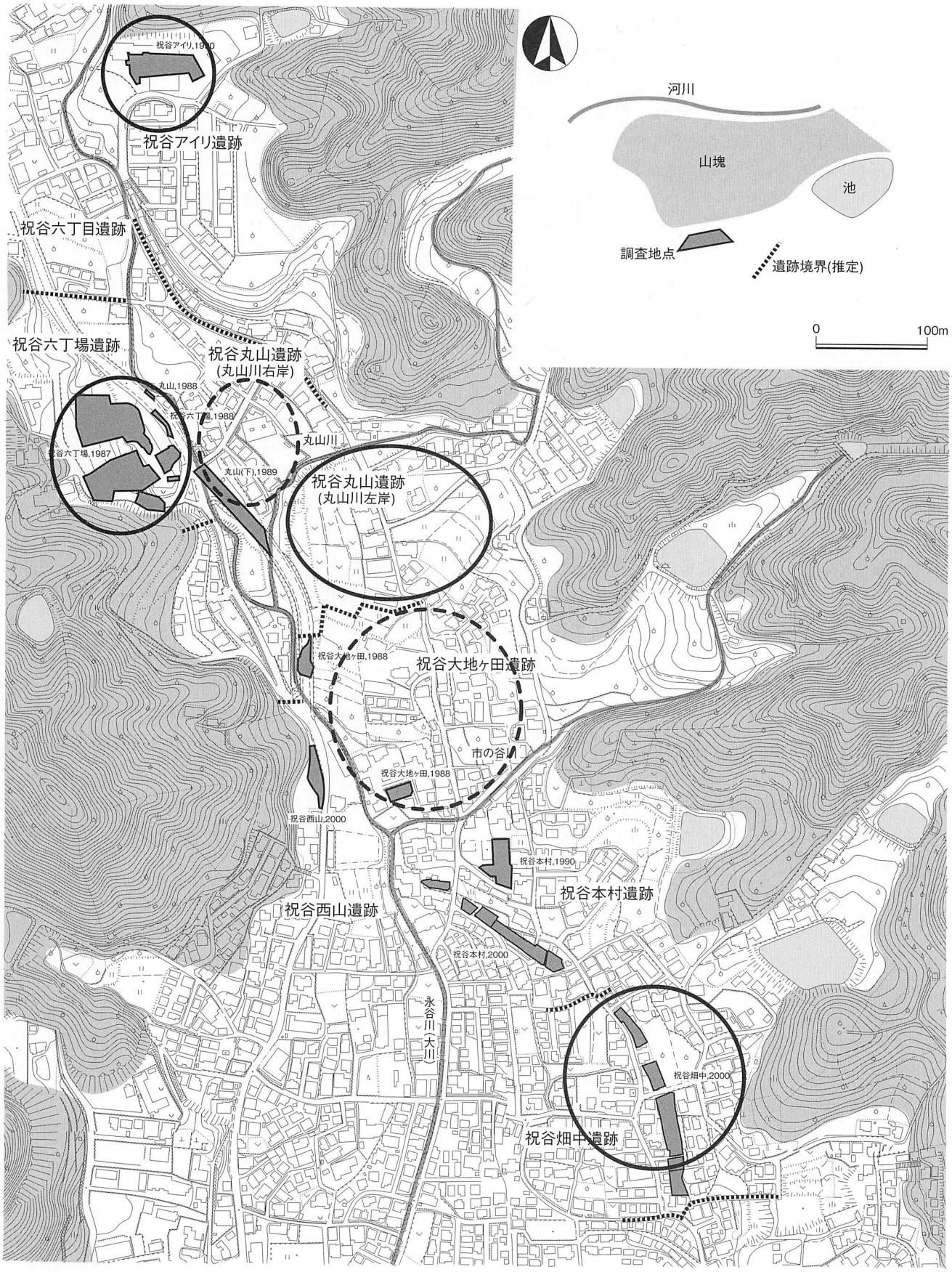


図 31　弥生時代中期中葉の祝谷における遺跡の展開（縮尺 1/5,000、真鍋編 2002 より改変）

いて、弥生時代中期中葉段階の石器製作址が確認されており、当遺跡との関係が注目される。祝谷地区における石器生産の実態を明らかにする上でも、今後、祝谷丸山遺跡採集のサヌカイト資料を整理し、チャート・姫島産黒曜石等の既報告資料も併せて、これらの遺跡と比較・検討をおこなう必要があろう。

（濱田・吉田）

[注]

1.今回報告している資料の大部分は、これまでに十亀(1978)によって報告されている、「祝谷丸山遺跡」での表採資料であり、これは丸山川左岸に位置する。一方、祝谷畑中遺跡報告書（真鍋編2002）の冒頭で、祝谷丸山遺跡2次とされている遺跡は、丸山川右岸に位置する。これらの遺跡は小字名では同じ「丸山」地区に含まれるが、丸山川の開析は深く、川を越えて遺物が大量に流入するという状況は考え難い。そのため、丸山川右岸と左岸では異なった生活域を想定せざるを得ない。よって今回は便宜上、十亀報告や本報告で紹介している地点を祝谷丸山遺跡（丸山川左岸）、祝谷丸山遺跡2次とされる地点を祝谷丸山遺跡（丸山川右岸）と表記する。

[参考文献]

梅木謙一 2000「伊予中部地域」『弥生土器の様式と編年』、木耳社

梅木謙一編 1992『祝谷アイリ遺跡』松山市埋蔵文化財調査報告書第25集、松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター

梅木謙一編 1994『道後城北遺跡群Ⅱ』松山市埋蔵文化財調査報告書第37集、松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター

梅木謙一・宮内慎一編 1992『道後城北遺跡群』松山市埋蔵文化財調査報告書第30集、松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター

梅木寛編 1989『一般県道「菅沢－松山線」埋蔵文化財調査報告書Ⅰ』埋蔵文化財発掘調査報告書第33集、愛媛県埋蔵文化財調査センター

岡本健児 1961「愛媛県土居窪遺跡」『日本農耕文化の生成』第一冊本文編、東京堂出版

小林一郎・小原佐代子編 1990『一般県道「菅沢－松山線」埋蔵文化財調査報告書Ⅱ』埋蔵文化財発掘調査報告書第34集、愛媛県埋蔵文化財調査センター

十亀幸雄 1973「松山市長谷遺跡の分布調査と考察」『歴史学研究月報』第58号、愛媛大学歴史学研究会

十亀幸雄 1978「愛媛県祝谷丸山遺跡の細石刃剥離技術」『古代学研究』第88号、古代学研究会

多田仁 1992「松山平野の石器文化」『祝谷アイリ遺跡』松山市埋蔵文化財調査報告書第25集、松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター

平岡孝司編 2002『祝谷西山遺跡』埋蔵文化財調査報告書第96集、愛媛県埋蔵文化財調査センター

真鍋昭文編 2002『土居窪遺跡2次　祝谷畑中遺跡　祝谷本村遺跡2次』埋蔵文化財発掘調査報告書第101集、愛媛県埋蔵文化財調査センター

宮崎泰好編 1991『祝谷六丁場遺跡―調査報告1－』松山市埋蔵文化財調査報告書第24集、松山市立埋蔵文化財センター

表８　旧愛媛大学歴史学研究会保管資料一覧

番号		資料内容	歴史学研究会整理状況 箱書	袋書・ラベル	注記	接合関係	コンテナ
香川県坂出市国分台遺跡出土遺物							
03	03	サヌカイト	'82.2.22 長谷遺跡		KB8S		1
04	05	サヌカイト１点			KB8		1
07	05	サヌカイト５点			KB8		1
07	06	サヌカイト１点			KB8		1
07	07	サヌカイト１点			KB8		1
07	08	サヌカイト１点			KB8		1
07	09	サヌカイト１点			KB8		1
07	10	サヌカイト１点			KB8		1
07	11	サヌカイト１点			KB8		1
07	12	サヌカイト１点			KB8		1
07	13	サヌカイト１点			KB8		1
07	14	サヌカイト１点			KB8		1
07	15	サヌカイト１点			KB8		1
07	16	サヌカイト１点			KB8		1
07	17	サヌカイト１点			KB9		1
15	05	サヌカイト11点			KB8S		1
15	06	サヌカイト４点			KB2W		1
15	07	サヌカイト３点			KB1		1
15	08	サヌカイト１点			KB2T		1
15	09	サヌカイト１点			KB7		1
19	01	サヌカイト11点			KB7		1
19	02	サヌカイト２点			KB8		1
38	55	サヌカイト１点	土器類未整理 H．10．3/1		KB7		1
高知県宿毛市宿毛貝塚出土遺物							
05	07	縄文３点，二枚貝６点			SUKUMO E・W		2
12	08	縄文３点			SUKUMO E・W		2
広島県福山市草戸千軒遺跡出土遺物							
38	53	中世土師器４点	土器類未整理	歴研 草戸千軒	草戸千軒		2
38	54	須恵器（壺・甕）各１点，土師質土器１点	H．10．3/1	歴研 草戸千軒		02-01、12-01	2
旧小田町小田深山採集品							
12	07	チャート石塊			小田深山 74.8.1		2
35	36	チャート石塊	丸山対岸		小田深山 74.8.1		2
旧重信町出土遺物							
21	01	弥生中期（壺・甕）３点		重信町下林見舞野			2
21	02	弥生１点		重信町八幡神社裏山 標高 230 m山頂 地図番号（B）	重信町八幡神社裏山		2
21	03	土器小片		重信町南側丘陵部			2
39	45	須恵器（甕）１点	土器類未整理 H．10．3/1	重信町西岡 姥ヶ谷池西方 73.12.18			2
旧中島町出土遺物							
39	44	土師器，須恵器，中世土師器	土器類未整理 H．10．3/1	中島．三島神社境内	三島神社		2
旧北条市新城３号墳出土遺物							
39	42	埴輪（円筒）３点	土器類未整理 H．10．3/1	新城３号墳	新城３号墳下		2
伊予市客池古墳出土遺物							
39	43	埴輪（円筒・朝顔）	土器類未整理 H．10．3/1	客池古墳 840617	840617 客池古墳		2

番号		資料内容	歴史学研究会整理状況			接合関係	コンテナ
			箱書	袋書・ラベル	注記		
松山市祝谷丸山遺跡出土遺物							
01	01	弥生中期(壺・高坏)	祝谷丸山 K氏宅地	祝谷 1016-4 丸山 K氏宅地出土 弥生 '73・11	祝谷 1016		3
01	02	弥生中期(壺・甕)		祝谷 1016-4(丸山) K氏宅地出土 弥生 73・11	祝谷 1016		3
01	03	弥生中期(壺)		祝谷 1016-4 K氏宅地出土 弥生土器	祝谷 1016	01-04・06	3
01	04	弥生中期(甕・高坏)		祝谷 1016-4(丸山) K氏宅地出土 弥生 '73・11	祝谷 1016 (祝谷 1061 含)	01-03・06	3
01	05	弥生(甕底部3点、うち1点穿孔)		祝谷 1016-4 K氏宅地出土 弥生	祝谷 1016		3
01	06	弥生前期末～中期(壺・甕・高坏), 須恵器(坏身)		祝谷 1016-4 丸山 K氏宅地 出土 弥生・須恵 73・11	祝谷 1016	01-04・03、 17-01	3
01	07	弥生中期(壺・甕)		祝谷 1016-4 丸山 K氏宅地出土 弥生 '73・11	祝谷 1016		3
01	08	弥生中期(壺・甕)		祝谷 1016-4(丸山) K氏宅地出土 弥生 73・11	祝谷 1016		3
01	09	弥生小片, 近現代陶器片					3
13		弥生, 炉址灰黒土(別包)		祝谷丸山(6丁目)1045の3 K氏宅地 炉址部出土遺物			4
15	02	弥生小片, サヌカイト他剥片			丸山 No14		4
20	02	弥生(回転台形)1点		祝谷丸山N氏所有みかん畑 (農事シケン場東) 73.6.16 採集			4
20	03	片岩		祝［谷丸山N氏所］有 みかん畑			4
21	04	弥生中期(壺)1, サヌカイト剥片2点		丸山遺跡 1974.1.31. 採集 石鏃1 尖頭器(?)1 剥片2	祝谷丸山C区1		4
22	04	弥生中期(壺)1点			丸山 142 祝谷		4
25	01	弥生・土師器・須恵器, サヌカイト剥片3点		祝谷丸山 農事試験場 No11 73.6.13 土器 40 須恵1 石鏃1 はく片 22	730613 丸山		4
25	02	弥生・須恵器, サヌカイト剥片		丸山 農事試験場 No12 73.6.13	730613 丸山		4
25	03	弥生・土師器・須恵器・埴輪(円筒), サヌカイト剥片, 片岩剥片		祝谷丸山 6月 14 石器類：石鏃2 その他多数	丸山 14		4
25	04	弥生・須恵器, サヌカイト剥片		松山市祝谷丸山 1973 6 16 ⑱ 石器類	730616 丸山		4
25	05	弥生		丸山(松山市祝谷) 1976 6 16(土)	730616 丸山		4
25	06	弥生, サヌカイト剥片1点		丸山 No 2	丸山		4
25	07	弥生・須恵器, 片岩		丸山 No 5	丸山		4
26	01	土器小片		祝谷丸山 No13 73.6.13 土師器 10 片			4
26	02	弥生中期・須恵器		祝谷丸山 No13 73.6.13			4
26	03	弥生小片		祝谷丸山 No13 73.6.13 弥生土器片 16 片			4
26	04	須恵器, サヌカイト剥片, 片岩剥片		祝谷丸山 No13 73.6.13			4
26	05	弥生・須恵器, サヌカイト剥片		祝谷丸山 農事試験場 No15 73.6.13 弥生1 須恵1 石鏃1 半製品1 はく片 10			4
26	06	須恵器, サヌカイト剥片		松山市祝谷丸山 1973 6 16(土)16 石器類			4
26	07	土器小片, サヌカイト原石・剥片, 磨石		松山市祝谷丸山 1973.6 16 17 石器類			4
39	21	弥生	土器類未整理 H. 10. 3/1	丸山遺跡	祝谷丸山		4
39	22	弥生(把手・甕)2点		丸山遺跡	祝谷丸山		4
39	23	弥生, 近現代陶器		丸山遺跡	丸山		4
39	24	サヌカイト剥片, 片岩剥片1点, 他剥片1点		丸山遺跡	(祝谷)丸山		4
39	25	サヌカイト石核1点		丸山遺跡	祝谷丸山 14 区		4

番号		資料内容	歴史学研究会整理状況			接合関係	コンテナ
			箱書	袋書・ラベル	注記		
39	26	サヌカイト剥片	土器類未整理	丸山遺跡14区	丸山14区		4
39	27	サヌカイト剥片1点	H. 10. 3/1	丸山14区4	14-4		4
39	28	弥生1点，サヌカイト剥片4点，石庖丁片1点		丸山遺跡23区	丸山23区		4
39	29	弥生・瓦器4点		丸山遺跡E区	丸山E		4
39	30	サヌカイト剥片3点，チャート剥片2点		丸山遺跡E区	丸山E区		4
39	31	弥生・須恵器5点		丸山遺跡G区	丸山G区		4
39	32	サヌカイト剥片1点		丸山G区	丸山G区		4
39	33	サヌカイト剥片1点		丸山G区	丸山G区		4
松山市祝谷長谷遺跡出土遺物							
03	01	弥生中～後期(壺・甕)	'82.2.22		長谷		5
03	02	弥生小片，中世土師器	長谷遺跡	82.2.22 長谷遺跡			5
14	01	弥生中～後期(壺・甕)，土師器(高坏)，須恵器(坏・甕)		長谷遺跡	長谷	14-02、17-07、24-01	5
14	02	弥生中～後期(壺・甕)，須恵器(坏・甕・ハソウ)		長谷遺跡	長谷	14-01、17-07、24-01	5
14	03	弥生，須恵器(坏・高坏・甕)		長谷遺跡	長谷		5
14	04	弥生中～後期(壺・甕)		長谷遺跡1区	長谷1区		5
14	05	弥生(壺底部)1点		長谷遺跡1区	長谷1区		5
14	06	弥生(壺・甕)，須恵器(坏・甕)		長谷遺跡1区	長谷1区		5
14	07	弥生中～後期(壺・甕・高坏)，須恵器(坏・甕)		長谷遺跡2区	長谷2区		5
14	08	弥生中～後期(壺・甕・高坏)，土師器(甕)		長谷遺跡3区	長谷遺跡3区		5
14	09	弥生，須恵器(壺)		長谷遺跡5区	長谷5区		5
14	10	弥生(壺・甕・高坏)		長谷遺跡6区	長谷6区	02-01、39-01・37、24-01・02・03	5
14	11	弥生(甕底部)1点		長谷遺跡9区	長谷9区		5
14	12	弥生・須恵器小片		長谷遺跡12区	長谷12区		5
14	13	弥生(壺底部)1点		長谷遺跡13区	長谷遺跡13区		5
14	14	石鏃先端1点		山田池東岸(長谷)集落址No 6 7区	607 長谷		5
17	07	土師器，鉄器？		不詳		14-01・02、24-01	5
24	01	弥生(壺・甕・高坏・器台)	長谷	長谷遺跡	長谷	02-01、14-01・02・10、17-07、24-02・03、39-01・37	5
24	02	弥生，須恵器		長谷遺跡	長谷	02-01、14-10、24-01・03、39-01・37、	5
24	03	弥生(壺・甕)		長谷遺跡	長谷	02-01、14-10、24-01・02、39-01・37	5
24	04	サヌカイト剥片5点		長谷遺跡	長谷		5
24	05	円柱状？片刃石斧1点		長谷遺跡(山田池東岸住居址)No 6－1区、2区、4区	長谷		5
32	03	弥生・土師器		祝谷 長谷遺跡			5
39	37	弥生・土師器	土器類未整理 H. 10. 3/1	山田池東岸 集落址7区 73年9月採集	山田池東岸	24-01・02・03	5

番号		資料内容	歴史学研究会整理状況			接合関係	コンテナ
			箱書	袋書・ラベル	注記		
松山市祝谷丸山遺跡対岸？出土遺物							
12	03	弥生後期(壺頸部)1点			F3-2		6
35	01	中世土師器1点	丸山対岸		A2		6
35	02	弥生(前期1点含)・土師器5点			A2-2		6
35	03	土師器1点			A2-3		6
35	04	弥生2点			A3-1		6
35	05	瓦器1点			A3-2		6
35	06	弥生1点			A3-3		6
35	07	弥生(器台)1個体分3点			A4-1		6
35	08	弥生1点			A4-2		6
35	09	弥生1点			A6		6
35	10	弥生2点			C		6
35	11	弥生後期(高坏)1点			C2-2		6
35	12	弥生後期(甕)1個体分3点			C3.2		6
35	13	弥生1点			C3-2A		6
35	14	土師器1点			C. 3.3		6
35	15	弥生後期(鉢)1点，土師器1点			C-3.7		6
35	16	弥生・土師器5点			C-3.8		6
35	17	弥生3点			C3-9		6
35	18	弥生1点			C4-2		6
35	19	弥生(器台)1点			C5		6
35	20	弥生後期(壺)2点			C8N		6
35	21	弥生中～後期(壺)3点			C8N'		6
35	22	弥生後期(壺)2点			C9		6
35	23	弥生後期(壺)1点			D1		6
35	24	弥生中～後期(壺・甕・高坏)			F		6
35	25	弥生後期・土師器・須恵器5点			F2		6
35	26	土師器(甕)1点			F'-2		6
35	27	弥生後期(壺)6点			F3-2		6
35	28	弥生中～後期(壺・鉢・高坏)			F3-2'		6
35	29	弥生後期(甕)1点			F3-3		6
35	29	弥生後期(甕)1点	丸山対岸		F3-3		6
35	30	弥生後期(壺)2点			F33区		7
36	01	弥生1点			A6		7
36	02	弥生中期後葉(壺)1個体分			A6R1		7
36	03	弥生前期末～中期(壺)			C3-2'		7
36	04	弥生(壺)1点			C. 3.3	36-06	7
36	05	弥生(壺・甕)			C3・5	31-01、・38-02	7
36	06	弥生(壺・甕)			C3.6	36-04	7
36	07	弥生(鉢)1点			C8N		7
松山市祝谷出土遺物							
05	02	須恵器(ハソウ略完形)1点			松山御幸山麓		8
05	05	弥生(壺)		祝谷No. 8遺跡			8
05	08	須恵器(高坏)1点		祝谷No. 8遺跡	祝谷No17		8
08		弥生(壺・甕・高坏)，土師器(甕)	裕谷 歴研所有				8
12	06	須恵器(甕)1点			祝谷2号墳		8
12	15	弥生中期(高坏)1点			祝谷		8
15	01	弥生中～後期(壺・甕・鉢・高坏)，土師器，須恵器(坏・甕・脚)，布目瓦，土師質土器（三足羽釜），片岩		弥生土器(中期□定)出土．祝谷5丁目No11地点 弥生土器 土師器 須恵器 出土地．祝谷6丁目No11地点			8
16		土器小片，石		祝谷［本村柿谷］ －「古墳調査票」伴－			8
21	05	弥生中期(壺・甕)2点			祝谷山田池南岸		8
22	06	須恵器，サヌカイト剥片他		No 3			8
22	07	弥生，サヌカイト剥片他		No 5 剥片9			8
22	08	弥生，須恵器，サヌカイト剥片，石核，磨石2点		No 8			8
22	09	須恵器(ハソウ)1点		No 9			8

番号		資料内容	歴史学研究会整理状況			接合関係	コンテナ
			箱書	袋書・ラベル	注記		
23	12	須恵器(坏)1点		山田池西岸	山田池西岸		8
23	13	須恵器片		出土地不明 スエ器			8
25	08	須恵器1点		No18 古墳			8
32	01	弥生		祝谷－山田池底遺跡 10/24			8
32	02	弥生・土師器・須恵器		祝谷山田池南岸			8
35	35	弥生(壺)1点	丸山対岸		Ｎｏ８		8
39	34	弥生，須恵器，瓦，土師質土器	土器類未整理	(祝Ａ)	祝Ａ		8
39	35	弥生，土師器，須恵器	Ｈ．10．3/1	山田池 840523	840523 山田池		8
39	36	石鏃1点		山田池 840523	840523 山田池		8
39	38	弥生1点		常信寺裏	常信寺裏		8
39	52	弥生，近現代陶器		(祝Ｂ)	祝Ｂ		8
39	53	弥生1点			祝谷五丁目		8
松山市文京遺跡出土遺物							
22	05	弥生1点			愛媛大学理学部		9
39	12	弥生(高坏)1点	土器類未整理 Ｈ．10．3/1		文理 部		9
松山市松山城・城山出土遺物							
15	03	近世平瓦		86.3.21 Yamamura 二ノ丸中櫓附近 Ⅰ			9
15	04	近世平瓦		86.3.21 Yamamura 二ノ丸中櫓附近 Ⅱ			9
39	10	弥生(器台)1点	土器類未整理		40. 城山	05-04、39-01	9
39	11	弥生1点	Ｈ．10．3/1		城２		9
松山市二つ塚古墳出土遺物							
38	52	埴輪，土師器，須恵器，瓦器，サヌカイト剥片，石	土器類未整理 Ｈ．10．3/1	二つ塚古墳 周辺の畑 1984 4 18			9
松山市永塚古墳出土遺物							
39	39	土師器，須恵器	土器類未整理	永塚古墳 820606			9
39	40	須恵器1点	Ｈ．10．3/1	永塚古墳 19840418			9
39	41	土師器2点		永塚古墳 84017	840617 永塚		9
松山市姫原山の端出土遺物							
05	03	須恵器(短頸壺半完形)1点			76		10
12	02	須恵器(完形坏)1点			姫原 山の端		10
松山市吉藤高戸池出土遺物							
32	04	弥生・須恵器		吉藤町高戸池底遺跡 10.23			10
松山市谷町丸山池他出土遺物							
22	01	弥生・土師質土器3点			谷町丸山池北斜面		10
22	02	土師器(移動式竈)1点			谷町丸山池東ヨリ北斜面		10
22	03	弥生前期末～中期(壺)1点			谷町丸山池東斜面		10
25	09	弥生・土師器・須恵器		谷町・丸山池 (北斜面の西側部)	丸山		10
27	01	弥生中～後期・土師器・須恵器（坏・甕）	潮見・谷町	北斜面 東 丸山池			10
27	02	弥生中期(壺頸部)1点	丸山池出土土器	北斜面 東 丸山池	谷町丸山池東斜面		10
27	03	土師器・中世土師器・土師質3点		北斜面 東 丸山池 11/2 土師器			10
27	04	弥生(脚台)，須恵器(坏・甕)		北斜面			10
27	05	弥生後期(甕)，土師器(甕)，須恵器(坏･甕)		潮見・谷町丸山池 東斜面 11/12			10
27	06	弥生(壺・高坏)，土師器(甕)，須恵器(坏・甕)，土師質，瓦質，片岩		南より東斜面 弥生9 須恵24 土師30 石器1			10
27	07	土器小片		大谷池			10
27	08	弥生・須恵器小片		Ｏ氏所有畑			10
松山市堀江出土遺物							
33	03	人歯(土ごと)		堀江横穴式石室出土 人歯 1968年2月			10
37	05	磨製石斧基部1点			堀江権現北百田		10

番号		資料内容	歴史学研究会整理状況			接合関係	コンテナ
			箱書	袋書・ラベル	注記		
松山市久米高畑遺跡出土遺物							
11	01	弥生(壺・甕), 土師器(壺・甕), 須恵器, 布目瓦		高畑遺跡	高畑	11-03	11
11	02	弥生, 土師器(二重口縁壺有), 須恵器, 布目瓦		高畑	高畑		11
11	03	弥生後期(壺・甕), 須恵器		高畑	高畑	11-01	11
11	04	須恵器(坏・甕)		高畑遺跡	高畑		11
11	05	サヌカイト剥片5点, チャート1点		高畑	高畑		11
11	06	サヌカイト剥片6点		高畑遺跡			11
11	07	土器混焼土塊		高畑遺跡			11
39	55	陶器1点	土器類未整理 H. 10. 3/1		高畑		11
松山市浮穴・石井・森松・井門出土遺物							
02	02	弥生(壺底部1点)			浮中		12
12	04	弥生後期(壺頸部)1点			西石井 朝生田	39-01	12
18	02	土師器(高坏)1点		No2 高坏(弥生式)採集地. 浮穴中学校東 昭和27年10月		39-01・03	12
37	06	安山岩質石鏃？1点			浮穴村大字森松御所之内 自宅畑中採岩 昭和二十九年七月二十日		12
39	05	砥石1点	土器類未整理 H. 10. 3/1		砥石 北井門□□□□		12
39	06	陶器1点			石井 井門□		12
39	07	サヌカイト板状剥片1点			西石井		12
39	08	弥生1点			浮中		12
39	54	須恵器(坏蓋)1点			石井 北井門		12
出土地不詳遺物							
02	01	弥生前期末～後期(壺・甕), 土師器(高坏), 須恵器(壺・甕・提瓶), 中世土師器				12-01、14-10、24-01・02・03、35-31、38-54、39-01	13
02	03	弥生小片					13
02	04	弥生(壺底部)1点		東22			13
05	01	近現代陶磁器					13
05	04	弥生(器台)1点				39-01・10	13
05	06	弥生中～後期(壺・甕), 土師器(高坏), 須恵器(高坏)					13
06		弥生前期末(壺)1点					13
07	02	弥生1点, 須恵器1点, 中世土師器1点					13
07	03	弥生(甕)1点					13
09	01	弥生(高坏), 須恵器, 窯壁状？	床落資料			39-01	13
09	02	安山岩原石？1点					13
09	03	サヌカイト3点					13
10	01	弥生(壺・甕), 須恵器(甕), 中世陶器？				10-02・03・05、12-01・02・13	14
10	02	弥生前期末～(壺), サヌカイト剥片, 磨石？, 須恵器, 中世陶器				10-01・03・05、12-01・13	14
10	03	弥生前期末(壺・甕)				10-01・02	14
10	04	弥生1点					14
10	05	弥生前期末(壺)2点				10-01・02、12-13	14
12	01	弥生後期(壺・高坏・支脚), 土師器(壺), 須恵器(甕・脚), 近現代陶磁器, サヌカイト				02-01、10-01・02、35-31、38-54	14
12	05	弥生(壺)1点			辻(西？)		14
12	13	弥生(壺・甕)				10-01・02・05	14
12	14	弥生, 須恵器					14
12	16	弥生・中世土師器小片					14
12	17	弥生・須恵器・瓦・中世土師器小片					14

番号		資料内容	歴史学研究会整理状況			接合関係	コンテナ
			箱書	袋書・ラベル	注記		
17	01	須恵器(坏)２点		不詳		01-06、17-02	15
17	02	須恵器(坏・甕)		不詳		17-01	15
17	03	弥生，須恵器，中世土師器，近現代陶器，サヌカイト剥片２点		不詳			15
17	04	弥生，土師器，須恵器		不詳			15
17	05	弥生，土師器		不詳			15
17	06	弥生後期，土師器		不詳			15
18	01	弥生(壺･甕)，土師器(高坏)，埴輪(円筒)，中世土師器					15
20	01	弥生(壺・甕)，須恵器，片岩					15
21	06	弥生中～後期(壺・器台)，片岩，チャート					15
21	07	弥生，片岩１点，サヌカイト剥片３点，片岩製扁平片刃石斧１点，石１点					15
21	08	中世土師器，片岩１点，石英１点，堅果２点					15
21	09	近現代磁器(染付)					15
25	10	須恵器・土師器(赤塗)		不明			15
26	08	弥生，須恵器，陶器，瓦，サヌカイト剥片他					15
28		西岡焼焼け損じ品					15
29		弥生・土師器・瓦質					15
30	02	弥生・土師器	出不			37-01、39-01	15
31	01	弥生(壺・甕・高坏)，土師器，道具瓦				36-05、37-01、38-02	15
33	01	須恵器(大甕)					16
33	02	弥生後期３点					16
35	31	弥生(壺)，土師器，須恵器(坏・甕・東播こね鉢)，サヌカイト剥片２点，片岩製ノミ状片刃石斧１点	丸山対岸			02-01、12-01	16
36	08	弥生(脚台)，中世土師器，サヌカイト剥片１点					16
37	01	弥生(壺･甕･高坏･器台)，土師器，須恵器，鉄輪１点				30-02、31-01、39-01	17
37	02	安山岩質台石１点					18
37	03	砂岩１点					18
37	04	石墨片岩製石棒１点					18
38	02	弥生・土師器	土器類未整理			31-01、36-05・	18
38	03	弥生１点，片岩１点，サヌカイト剥片１点，サヌカイト現代剥片１点，サヌカイト原石１点	H. 10. 3/1				18
38	04	近現代陶器１点					18
38	56	元土器圧着土塊		洗い不可‼			18
39	01	弥生(壺・甕・高坏・器台)，土師器(甕・高坏)，須恵器，近現代陶器，片岩，サヌカイト剥片３点，サヌカイト現代剥片１点，磨石１点，砥石１点，姫島産黒曜石原石？１点				02-01、05-04、09-01、12-04、14-10、18-02、24-01・02・03、30-02、37-01、39-03・04・10	19・20
39	02	砥石１点		(東)36			20
39	03	弥生・土師器２点		48		18-02、39-01	20
39	04	弥生１点		51		39-01	20
39	09	亀山焼１点			□□ 岩田		20
39	56	陶器１点			松村		20
39	57	磨石１点，石１点					20
39	58	弥生(壺・甕)，須恵器，片岩					20
39	59	石１点					20
39	60	瓦１点					20
39	61	弥生・土師器，片岩１点					20
39	63	弥生後期（壺）			久井□□		20

表９　祝谷丸山遺跡採集遺物観察表

番号			採集地点	種別	器種	部位	形状・文様・調整・色調・胎土・焼成などの特徴
挿図	実測	整理					
1	023	01-06	B区(K氏宅地)	弥生土器	壺	口頸部	頸部推定C字状浮文、内面突帯２条。内外面磨滅。内外面浅黄橙色、断面褐灰色。３㎜以下の石英・長石多く含む。
2	077	25-06	A-2区	弥生土器	壺	口頸部	内面突帯１条。内外面磨滅。内外面浅黄橙色。２㎜以下の石英・長石多く含む。
3	071	25-02	A-12区	弥生土器	壺	肩部？	突帯１条・ヘラ描沈線２条以上。内外面磨滅。内外面浅黄橙色。２㎜以下の石英・長石・赤色粒多く、微細な雲母片含む。
4	024	01-06	B区(K氏宅地)	弥生土器	壺	口頸部	頸胴部境断面三角形突帯。外面縦ハケ目、内面肩部ユビナデ・頸部指頭圧痕、口縁部内外面横ナデ。内外面にぶい橙色、断面一部灰黄褐色。３㎜以下の石英・長石多く含む。
5	087	39-21	出土地不詳	弥生土器	壺	口縁部	内外面磨滅。外面橙色、内面灰白色。３㎜以下の石英・長石多く含む。
6	053	01-09	推B区(K氏宅地)	弥生土器	壺	頸部	頸胴部境断面三角形突帯。内外面磨滅。内外面浅黄橙色。２㎜以下の石英・長石まばらに含む。
7	014	01-03	B区(K氏宅地)	弥生土器	壺	口頸部	口縁端部一部刻目、頸胴部境押圧突帯か。外面縦ハケ目後ナデ、内面口縁部横ナデ・横ミガキ、頸部ナデ・オサエ。外面にぶい橙色、内面灰白色。１㎜以下の小礫わずかに含む。
8	033	01-07	B区(K氏宅地)	弥生土器	壺	口頸部	内外面磨滅、口縁端部外面横ナデ。内外面にぶい黄橙色、断面褐灰色。４㎜以下の石英・長石非常に多く含む。
9	034	01-07	B区(K氏宅地)	弥生土器	壺	口頸部	口縁端部山形文。全面磨滅。外面橙色、内面にぶい黄橙色。きめ細かい胎土に、２㎜以下(ほとんど0.5㎜以下)の石英・長石、１㎜以下の赤色粒、微細な雲母片含む。
10	001	01-01	B区(K氏宅地)	弥生土器	壺	口頸部	口縁端部ヘラ描山形文、頸胴部境押圧突帯１条。外面口縁端部付近横ナデ、内面横ミガキ、屈曲部付近指頭圧痕。外面にぶい橙色、内面橙色。５㎜以下の石英・長石多く含む。
11	065	22-04	出土地不詳	弥生土器	壺	口縁部	口縁端部ヘラ描斜格子文。外面縦ハケ目、内面磨滅・剥落。内外面にぶい黄橙色。２㎜以下の石英・長石多く、赤色粒わずかに含む。
12	066	25-01	A-11区	弥生土器	壺	口頸部	内外面磨滅、端部剥落。口縁部外面横ナデ。外面橙色、内面浅黄橙色。２㎜以下の石英・長石多く含む。
13	083	26-02	A-13区	弥生土器	壺	口縁部	内面円形浮文。内外面磨滅、外面横ナデか。内外面橙色。２㎜以下の石英・長石・赤色粒多く含む。
14	032	01-07	B区(K氏宅地)	弥生土器	壺	口頸部	口縁端部横方向ナデ、内外面ナデか。内外面橙色。５㎜以下の石英・石英多く、0.5㎜以下の赤色粒まばらに含む。
15	086	26-05	A-15区	弥生土器	壺	口縁部	内外面磨滅。内外面にぶい橙色。２㎜以下の石英・長石多く含む。
16	037	01-07	B区(K氏宅地)	弥生土器	壺	頸部	断面三角形突帯１条以上。内外面磨滅。内外面にぶい黄橙色、断面灰黄褐色。２㎜以下の石英・長石多く、５㎜大の石英含む。
17	036	01-07	B区(K氏宅地)	弥生土器	壺	頸部	断面三角形突帯２条以上。内外面横ナデ、下方にシボリ痕。外面にぶい橙色～褐色、肩部内面褐灰色。５㎜以下(0.5㎜以下多)の石英・長石やや多く含む。
18	035	01-07	B区(K氏宅地)	弥生土器	壺	頸部	断面三角形突帯３条以上。外面横ナデ、内面ナデ。外面橙色～暗赤褐色、内面にぶい赤褐色。３㎜以下の石英・長石多く含む。
19	038	01-07	B区(K氏宅地)	弥生土器	壺	頸部～肩部	頸部布目押圧突帯１条・断面三角形突帯１条。突帯部横ナデ、肩部縦ハケ目、内面横ナデ。外面橙色、内面黄橙色～橙色。３㎜以下の石英・長石多く含む。
20	042	01-08	B区(K氏宅地)	弥生土器	壺	頸部～肩部	頸部布目押圧突帯１条。内外面横ナデ。内外面橙色。５㎜以下の石英・長石多く含む。
21	043	01-08	B区(K氏宅地)	弥生土器	壺	頸部～肩部	頸部布目押圧突帯１条。内外面磨滅。内外面橙色。４㎜以下の石英・長石多く含む。
22	025	01-06	B区(K氏宅地)	弥生土器	壺	上胴部	幅12㎜のクシ描直線文。外面草本類の茎束による右上がりのナデ、内面磨滅。外面明赤褐色、内面明黄褐色。３㎜以下の石英・長石多く含む。
23	003	01-02	B区(K氏宅地)	弥生土器	壺	口頸部	肩部短斜線文。内外面磨滅、内面横ミガキか。外面淡黄橙色、内面灰白色、断面黒化層。５㎜以下の石英・長石多く含む。
24	031	01-07	B区(K氏宅地)	弥生土器	壺	口頸部	凹線文３条。内外面横ナデ。内外面にぶい橙色、断面褐灰色。２㎜以下の石英・長石多く、５㎜大の赤色粒まばらに含む。
25	092	39-28	A-23区	弥生土器	壺	口縁部	凹線文４条か。内外面磨滅。内外面橙色。３㎜以下の石英・長石・赤色粒多く含む。
26	054	13	B区(K氏宅地)灰黒土部分	弥生土器	壺	口縁部	凹線文２条。内外面磨滅。３㎜以下の石英・長石多く含む。

番号			採集地点	種別	器種	部位	形状・文様・調整・色調・胎土・焼成などの特徴
挿図	実測	整理					
27	052	01-09	推Ｂ区(Ｋ氏宅地)	弥生土器	壺	口縁部	凹線文２条。内外面磨滅。外面にぶい褐色、内面灰黄褐色。３㎜以下の石英・長石多く含む。
28	030	01-07	Ｂ区(Ｋ氏宅地)	弥生土器	壺	口頸部	間隔広く浅い、沈線化した凹線文２条。内外面磨滅。外面横ナデか。
29	088	39-21	出土地不詳	弥生土器	壺	頸部～肩部	内外面磨滅。内外面橙色。３㎜以下の石英・長石・赤色粒多く、微細な雲母片含む。
30	004	01-02	Ｂ区(Ｋ氏宅地)	弥生土器	壺	口縁部	二次口縁接合部で剥離。ヘラ描直線文、磨滅部分にさらに文様ありか。内外面磨滅。外面褐灰色、内面橙色。４㎜以下の石英・長石やや多く、精製された粘土塊含む。
31	015	01-03	Ｂ区(Ｋ氏宅地)	弥生土器	壺	頸部～肩部	クシ描直線文、一部縦方向の刺突文。内外面磨滅。内外面橙色、断面暗灰黄色。３㎜以下の石英・長石・赤色粒多く含む。
32	057	13	Ｂ区(Ｋ氏宅地)灰黒土部分	弥生土器	小型甕	口縁部	逆Ｌ字状折り曲げ口縁。沈線文１条か。口縁部横ナデ、外面縦ミガキ、内面横ミガキ。内外面にぶい黄橙色。２㎜以下の石英・長石まばらに含む。
33	089	39-22	出土地不詳	弥生土器	甕	口縁部	貼付口縁。クシ描斜線文。外面磨滅、内面横ミガキ。内外面橙色。３㎜以下の石英・長石・赤色粒多く含む。
34	008	01-02	Ｂ区(Ｋ氏宅地)	弥生土器	甕	口縁部	逆Ｌ字状口縁・胴上部刻目突帯。口縁部横ナデ、外面縦ハケ目、突帯部指頭圧痕、内面横ミガキか。内外面明赤褐色。４㎜以下の石英・長石、１㎜以下の赤色粒多く含む。
35	017	01-04	Ｂ区(Ｋ氏宅地)	弥生土器	甕	口縁部	逆Ｌ字状口縁・胴上部刻目突帯。口縁部横ナデ、外面縦方向板ナデ、口縁内面ハケ目後一部横ミガキ、内面ナデ後一部縦ミガキ。屈曲部内面指頭圧痕。内外面にぶい赤褐色。４㎜以下の石英･長石多く、６㎜大の小礫、微細な雲母片含む。
36	040	01-07	Ｂ区(Ｋ氏宅地)	弥生土器	甕	上胴部	逆Ｌ字状口縁か、胴上部断面三角形突帯１条。突帯横ナデ。内外面にぶい黄橙色。１㎜以下の石英・長石非常に多く含む。
37	010	01-02	Ｂ区(Ｋ氏宅地)	弥生土器	甕	上胴部	逆Ｌ字状口縁か、胴上部布目押圧突帯１条。外面横ナデ、内面横ミガキ。外面にぶい赤褐色、内面にぶい橙色。２㎜以下の石英・長石多く、１～２㎜大の赤色粒含む。
38	060	15-02	A-14区	弥生土器	甕	口縁部	逆Ｌ字状口縁・上胴部に段。内外面横ナデか。外面にぶい黄橙色、内面明褐色、断面黒褐色。２㎜以下の石英・長石多く含む。
39	064	21-04	Ｃ区	弥生土器	甕	上胴部	くの字状口縁か、口縁屈曲部押圧突帯１条。内外面磨滅。内外面橙色。５㎜以下の石英・長石非常に多く含む。
40	009	01-02	Ｂ区(Ｋ氏宅地)	弥生土器	甕	上胴部	くの字状口縁か、口縁屈曲部布目押圧突帯１条。胴部内面横ミガキ、外面横ナデか。外面にぶい黄橙色、内面橙色。２㎜以下の石英･長石多く含む。
41	098	39-31	Ｇ区	弥生土器	甕	口縁部	くの字状口縁か。内面磨滅､外面横ナデ。内外面黒褐色。１㎜以下の石英･長石多く含む。
42	097	39-31	Ｇ区	弥生土器	甕	口縁部	くの字状口縁か。外面横ナデ。内外面にぶい橙色。１㎜以下の石英･長石･赤色粒多く含む。
43	039	01-07	Ｂ区(Ｋ氏宅地)	弥生土器	甕	口縁部	くの字状口縁。外面横ナデ、内面縦ハケ目後口縁屈曲部横ナデか。内外面橙色。１㎜以下の石英・長石まばらに含む。
44	058	13	Ｂ区(Ｋ氏宅地)灰黒土部分	弥生土器	甕	口縁部	くの字状口縁か。内外面磨滅、横ナデか。内外面にぶい橙色。２㎜以下の石英・長石やや多く含む。
45	018	01-04	Ｂ区(Ｋ氏宅地)	弥生土器	甕	上半部	口縁部横ナデ、外面左上がりハケ目、内面指頭圧痕、一部斜めケズリ。外面橙色、内面にぶい橙色、断面にぶい黄橙色。３㎜以下の石英･長石多く、微細な雲母片わずかに含む。
46	059	13	Ｂ区(Ｋ氏宅地)灰黒土部分	弥生土器	甕	口縁部	外面縦ハケ目、内面・口縁端部横ナデ。外面にぶい赤褐色、内面褐灰色。２㎜以下の石英・長石まばらに含む。
47	016	01-03	Ｂ区(Ｋ氏宅地)	弥生土器	壺	底部	外面横ナデ、内面指頭圧痕・ナデ・縦ハケ目。内外面明赤褐色、外面一部黒斑。･3㎜以下の石英・長石多く含む。
48	051	01-08	Ｂ区(Ｋ氏宅地)	弥生土器	壺	底部	外面横ナデ。外面にぶい橙～にぶい黄橙色、内面にぶい黄橙色。１㎜以下の石英・長石・赤色粒多く含む。
49	005	01-02	Ｂ区(Ｋ氏宅地)	弥生土器	壺	底部	内外面磨滅、外面縦ミガキ、内面ナデ・オサエ。内外面橙色、胴部外面～底面一部黒斑。４㎜以下の石英・長石多く含む。
50	045	01-08	Ｂ区(Ｋ氏宅地)	弥生土器	壺	底部	外面磨滅、内面剥落。外面橙色、内面にぶい橙色。３㎜以下の石英・長石多く含む。
51	044	01-08	Ｂ区(Ｋ氏宅地)	弥生土器	壺	底部	外面板オサエ、内面ナデ。内外面褐色、底部黒変。５㎜以下(ほとんど１㎜前後)の石英・長石、１㎜大の赤色粒まばらに含む。

番号			採集地点	種別	器種	部位	形状・文様・調整・色調・胎土・焼成などの特徴
挿図	実測	整理					
52	046	01-08	B区(K氏宅地)	弥生土器	壺	底部	外面磨滅、内面剥落。外面にぶい黄橙色、内面明赤褐色。4㎜以下の石英・長石多く含む。
53	007	01-02	B区(K氏宅地)	弥生土器	壺	底部	外面横ナデ、内面縦ハケ目、底面一部ハケ目。外面浅黄橙色、内面・断面黒色。6㎜以下の石英・長石多く含む。
54	026	01-06	B区(K氏宅地)	弥生土器	壺	底部	外面ナデ、内面板ナデ・ナデ。外面橙色、内面黄灰色、断面にぶい褐色、底面～外面一部黒斑。4㎜以下の石英・長石多く、2㎜以下の赤色粒まばらに含む。
55	006	01-02	B区(K氏宅地)	弥生土器	壺	底部	内外面磨滅、灰黄褐色。4㎜以下の石英・長石、微細な赤色粒多く含む。
56	055	13	B区(K氏宅地)灰黒土部分	弥生土器	壺	底部	内面ナデか。外面明赤褐色、内面にぶい黄橙色。5㎜以下の石英・長石多く含む。
57	072	25-02	A-12区	弥生土器	壺	底部	内外面磨滅。外面にぶい橙色、内面にぶい黄橙色。3㎜以下の石英・長石・赤色粒多く含む。
58	056	13	B区(K氏宅地)灰黒土部分	弥生土器	壺	底部	外面縦ミガキ後底部付近横ナデ、内面指頭圧痕・ナデ。外面にぶい橙色、内面明赤褐色。3㎜以下の石英・長石やや多く含む。
59	028	01-06	B区(K氏宅地)	弥生土器	甕	底部	外面縦ミガキ、内面ケズリ。内外面橙色。4㎜以下の石英・長石多く含む。
60	075	25-04	A-18区	弥生土器	甕	底部	内外面磨滅。外面橙色、内面にぶい黄橙色。2㎜以下の石英・長石多く、微細な雲母片わずかに含む。
61	073	25-02	A-12区	弥生土器	甕	底部	内外面磨滅。外面にぶい橙色、内面灰白色。2㎜以下の石英・長石わずかに含む。
62	067	25-01	A-11区	弥生土器	甕	底部	内外面磨滅。浅黄橙色。3㎜以下の石英・長石多く含む。
63	047	01-08	B区(K氏宅地)	弥生土器	甕	底部	外面縦ナデ、内面ナデ。外面明赤褐色、内面浅黄橙色、底面～外面下半黒斑。3㎜以下の石英・長石多く含む。
64	027	01-06	B区(K氏宅地)	弥生土器	甕	底部	外面縦ハケ目、内面指頭圧痕・ナデ。外面橙色、内面明赤褐色、底面・外面一部黒斑。4㎜以下の石英・長石多く、1㎜以下の赤色粒わずかに含む。
65	049	01-08	B区(K氏宅地)	弥生土器	甕	底部	外面底部付近横ナデ。外面明赤褐色、内面橙色。3㎜以下の石英・長石多く含む。
66	041	01-07	B区(K氏宅地)	弥生土器	甕	底部	内外面ナデ・オサエ、内面爪痕残。内外面浅黄橙色、断面褐灰色。5㎜以下の石英・長石多く、1㎜大赤色粒と微細な雲母片わずかに含む。
67	050	01-08	B区(K氏宅地)	弥生土器	甕	底部	外面底部付近指頭圧痕、内面指頭圧痕・ナデ。外面明赤褐色、内面灰黄褐色。2㎜以下の石英・長石やや多く含む。
68	021	01-05	B区(K氏宅地)	弥生土器	甕	底部	外面縦ミガキ、底部付近ナデか。内外面明赤褐色。3㎜以下の石英・長石多く含む。
69	048	01-08	B区(K氏宅地)	弥生土器	甕	底部	外面縦ナデ、底部付近横ナデ、内面縦ナデ。外面橙色、内面にぶい黄橙色、底面黒色。3㎜以下の石英・長石多く含む。
70	012	01-02	B区(K氏宅地)	弥生土器	甕	底部	内外面指頭圧痕・ナデ、底部付近横ナデ。外面灰黄褐色、内面にぶい橙色。3㎜以下の石英・長石多く、2㎜大炭化物含む。
71	011	01-02	B区(K氏宅地)	弥生土器	甕	底部	内外面指頭圧痕・ナデ、底部付近横ナデ。内外面にぶい黄橙色、内底面黒色。3㎜以下の石英・長石多く含む。
72	068	25-01	A-11区	弥生土器	甕	底部	内外面磨滅。外面にぶい橙色、内面灰黄褐色。4㎜以下の石英・長石、1㎜以下の赤色粒多く含む。
73	020	01-05	B区(K氏宅地)	弥生土器	甕	底部	外面横ナデ、内面指ナデ・オサエ・接合痕残。外面橙色、内面黒色。5㎜以下の石英・長石多く、1㎜大の赤色粒わずかに含む。
74	022	01-05	B区(K氏宅地)	弥生土器	甕	底部	焼成前穿孔。内外面磨滅、外面縦ミガキか。内外面にぶい黄橙色。5㎜以下の石英・長石非常に多く含む。
75	094	39-29	E区	弥生土器	高坏	坏部	凹線文4条。外面縦ミガキ、内面横ミガキ。内外面にぶい橙色。3㎜以下の石英・長石、1㎜以下の赤色粒、微細な雲母片まばらに含む。
76	019	01-03 01-04 01-06	B区(K氏宅地) B区(K氏宅地) B区(K氏宅地)	弥生土器	高坏	坏部～脚部	01-06破片は接合せず。凹線文2条。坏底部は円盤充填。坏部外面縦ミガキ、脚裾部外面横ナデ、脚部内面横ケズリ。内外面橙色。2㎜以下の石英・長石多く、1㎜以下の赤色粒まばらに含む。
77	002	01-01	B区(K氏宅地)	弥生土器	高坏	坏部～脚部	坏底部円盤充填。外面縦ミガキ、坏部内面横ミガキ、脚部内面上部にシボリ痕・裾部指頭圧痕。内外面にぶい橙色。3㎜以下の石英・長石、微細な雲母片多く含む。
78	095	39-29	E区	弥生土器	高坏	脚裾部	凹線文3条。内外面磨滅。外面暗灰色、内面にぶい橙色。1㎜以下の石英・長石、赤色粒多く、微細な雲母片わずかに含む。
79	013	01-02	B区(K氏宅地)	弥生土器	鉢	上半部	小型。内外面磨滅、内面指頭圧痕。外面明赤褐色・一部黒斑、内面橙色。3㎜以下の石英・長石多く含む。

番号			採集地点	種別	器種	部位	形状・文様・調整・色調・胎土・焼成などの特徴
挿図	実測	整理					
80	090	39-22	出土地不詳	弥生土器	ジョッキ形	把手	一部黒斑。内外面浅黄橙色。２㎜以下の石英・長石・赤色粒多く含む。
81	069	25-01	A-11 区	弥生土器？	不明	把手	突起状。ナデ・オサエによる成形。全面にぶい橙色。２㎜以下の石英・長石多く含む。
82	061	15-02	A-14 区	土製品	紡錘車？	－	弥生土器甕胴部の転用品。焼成後穿孔。外面ミガキ、内面ケズリ。内外面にぶい黄橙色。２㎜以下の石英・長石多く含む。
83	062	20-02	B 区（N 氏所有みかん畑）	弥生土器	回転台形	天井部～胴部	外面ナデ、内面ナデ・オサエ。天井部橙色、胴部浅黄橙色。５㎜以下の石英・長石非常に多く含む。
84	084	26-02	A-13 区	須恵器	坏蓋	口縁部	内外面回転ナデ。内外面自然釉、黒色。３㎜以下の石英・長石わずかに含む。
85	099	39-31	G 区	須恵器	坏身	受部～体部	体部外面回転ヘラケズリ、内面・受部外面回転ナデ。内外面灰色。１㎜以下の石英・長石わずかに含む。
86	029	01-06 17-01	B 区（K 氏宅地） 出土地不詳	須恵器	坏身	全形	外面底部回転ヘラケズリ、内外面回転ナデ。外面灰色、内面灰白～灰色、断面褐灰色。極小の石英・長石ごく少量含む。焼き歪み顕著。
87	079	25-07	A-5 区	須恵器	高坏	坏部	内外面回転ナデ、内外面灰色。0.5㎜以下の石英・長石ごくわずかに含む。
88	100	39-31	G 区	須恵器	高坏	脚裾部	内外面回転ナデ。外面黒色・一部自然釉、内面灰色。0.5㎜以下の石英・長石まばらに含む。
89	076	25-04	A-18 区	須恵器	高坏	脚裾部	外面カキ目、内面横ナデ。外面暗灰色、内面灰色。１㎜以下の石英・長石わずかに含む。
90	080	25-07	A-5 区	須恵器	不明	口縁部	内外面回転ナデ、内外面褐灰色。0.5㎜以下の石英・長石ごくわずかに含む。
91	078	25-07	A-5 区	須恵器	短頸壺	体部	外面底部約 1/3 回転ヘラケズリ、内外面回転ナデ。内外面黄灰色。１㎜以下の石英・長石わずかに含む。
92	085	26-04	A-13 区	須恵器	甕	口縁部	突帯２条。内外面回転ナデ。内外面黄灰色・一部黒色の自然釉。１㎜以下の石英・長石わずかに含む。
93	081	25-07	A-5 区	須恵器	甕	口縁部	外面に幅広の粘土帯。肩部外面縦平行タタキ目後カキ目、内面青海波文。口縁部外面カキ目後、内外面横ナデ。口縁部暗灰色の自然釉、胴部灰白色、断面褐灰色。１㎜以下の石英・長石、黒色粒まばらに含む。
94	070	25-01	A-11 区	土師器	甑か甕	把手	磨滅・剥落顕著。全面橙色。２㎜以下の石英・長石まばらに含む。
95	074	25-03	A-14 区	埴輪	円筒	胴部	断面台形状突帯１条残。内外面橙色。１㎜以下の石英・長石・赤色粒まばらに含む。
96	096	39-29	E 区	瓦器	椀	底部	幅広で丸みのある貼付高台。内外面磨滅。内外面灰色。0.5㎜以下の石英・長石わずかに含む。
97	093	39-28	A-23 区	石器	石庖丁	刃部	偏両刃、鏑不明瞭。結晶片岩製。現重量 5.0g。
98	091	39-24	出土地不詳	石器	剥片		表面磨滅。結晶片岩か。重量 8.4g。
99	063	20-03	B 区（N 氏所有みかん畑）	石材？	－		結晶片岩円礫。加工痕・使用痕なし。重量 49.2 ｇ。
100	082	25-07	A-5 区	石材？	－		結晶片岩円礫。破面風化。加工痕・使用痕なし。重量 32.6g。

愛媛大学埋蔵文化財調査室年報

－2004年度－

愛媛大学埋蔵文化財調査報告　ＸＶ

2006年2月28日

発　行　　愛媛大学埋蔵文化財調査室

〒790-8577　松山市道後樋又10-13

TEL･FAX　089-927-9127

印　刷　　岡田印刷株式会社

〒790-0012　松山市湊町７丁目1-8

TEL　089-941-9111㈹　FAX　089-932-1199

R100 本文には古紙配合率100％の再生紙を使用しています。